

City of Yokohama Records of
the Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020

東京2020 オリンピック・パラリンピック 横浜市記録集



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会



横浜市

CONTENTS〈目次〉東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市記録集

表紙写真=長田洋平/アフロススポーツ(ソフトボール、野球)、Picture alliance/アフロ(久保建英)

カラーグラビア

東京2020オリンピック・パラリンピック 大会概要	2
横浜の会場紹介① 横浜スタジアム、地元開催プレイバック(ソフトボール、野球)	4
横浜の会場紹介② 横浜国際総合競技場、地元開催プレイバック(サッカー)	8
横浜ゆかりのメダリスト23人	12
オリンピック聖火リレー、パラリンピック聖火フェスティバル	16
大会開催前イベント	18
大会期間中の取組、大会期間後の取組	20
事前キャンプ・交流	22
都市ボランティア	28
ごあいさつ	32

第1章 東京2020大会開催に向けて

横浜開催の軌跡	34	横浜市の体制構築	42
---------	----	----------	----

第2章 安全・安心な大会運営

大会運営本部・支部	48	食品衛生対策	60
ラストマイル	52	新型コロナウイルス感染症対策	61
交通輸送	56	会場責任者インタビュー	63
危機管理・医療救護体制	58		

第3章 CCY(横浜市・都市ボランティア)のあゆみ

CCY(横浜市・都市ボランティア)	66	City Cast Yokohamaインタビュー	71
-------------------	----	--------------------------	----

第4章 横浜から大会を盛り上げる

イベント	74	都市装飾	87
市内18区との連携	80	ライブサイト	88
学校と連携した取組	82	オリンピック聖火リレー	90
SNS等を活用した情報発信	84	パラリンピック聖火フェスティバル	92
広報ツール・PRグッズ	85	横浜市ゆかりの代表選手インタビュー	93

第5章 世界とつながる

事前キャンプ	96	事前キャンプにおける新型コロナウイルス感染症対策	106
英国オリンピック委員会、英国パラリンピック委員会 謝辞	100	ホストタウン	108
横浜ホストタウンサポーターインタビュー	102	共生社会ホストタウン	116

第6章 横浜のさらなる飛躍へ

次世代への贈り物・レガシー	118
---------------	-----

資料編	123
-----	-----

※本文中に掲載している所属・役職等は当時のものです。

東京2020オリンピック 大会概要

正式名称 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)

英文名称 Games of the XXXII Olympiad

開催期間 2021年7月23日(金)～8月8日(日)

競技・種目数 全33競技・339種目

参加国・地域数 205および難民選手団

出場選手数 11,259人

日本代表選手数 583人(※交替および追加認定を含まない編成数)

競技会場数 42会場



TOKYO 2020



データで見る東京2020オリンピック

新競技・追加競技・新種目数

5 競技・**44** 種目

横浜ゆかりの出場選手

94 人

日本代表選手団のメダル獲得数

58 個(金27・銀14・銅17)

横浜ゆかりの選手のメダル獲得数

15 個(金7・銀3・銅5)

※野球・ソフトボールの各金3個(人)を含む

最高視聴率

56.4% ※オリンピック開会式、NHK総合

横浜市開催試合

38 試合

※横浜スタジアム=ソフトボール11・野球15
※横浜国際総合競技場=サッカー女子4・男子8



東京2020パラリンピック 大会概要

正式名称 東京2020パラリンピック競技大会

英文名称 Tokyo 2020 Paralympic Games

開催期間 2021年8月24日(火)～9月5日(日)

競技・種目数 全22競技・539種目

参加国・地域数 162および難民選手団

出場選手数 4,403人

日本代表選手数 254人(※交替および追加認定を含まない編成数)

競技会場数 21会場



データで見る東京2020パラリンピック

新競技・追加競技・新種目数

2 競技・**22** 種目

横浜ゆかりの出場選手

26 人

日本代表選手団のメダル獲得数

51 個(金13・銀15・銅23)

横浜ゆかりの選手のメダル獲得数

10 個(銀6・銅4)

※車いすバスケットボール男子の銀4個(人)を含む

最高視聴率

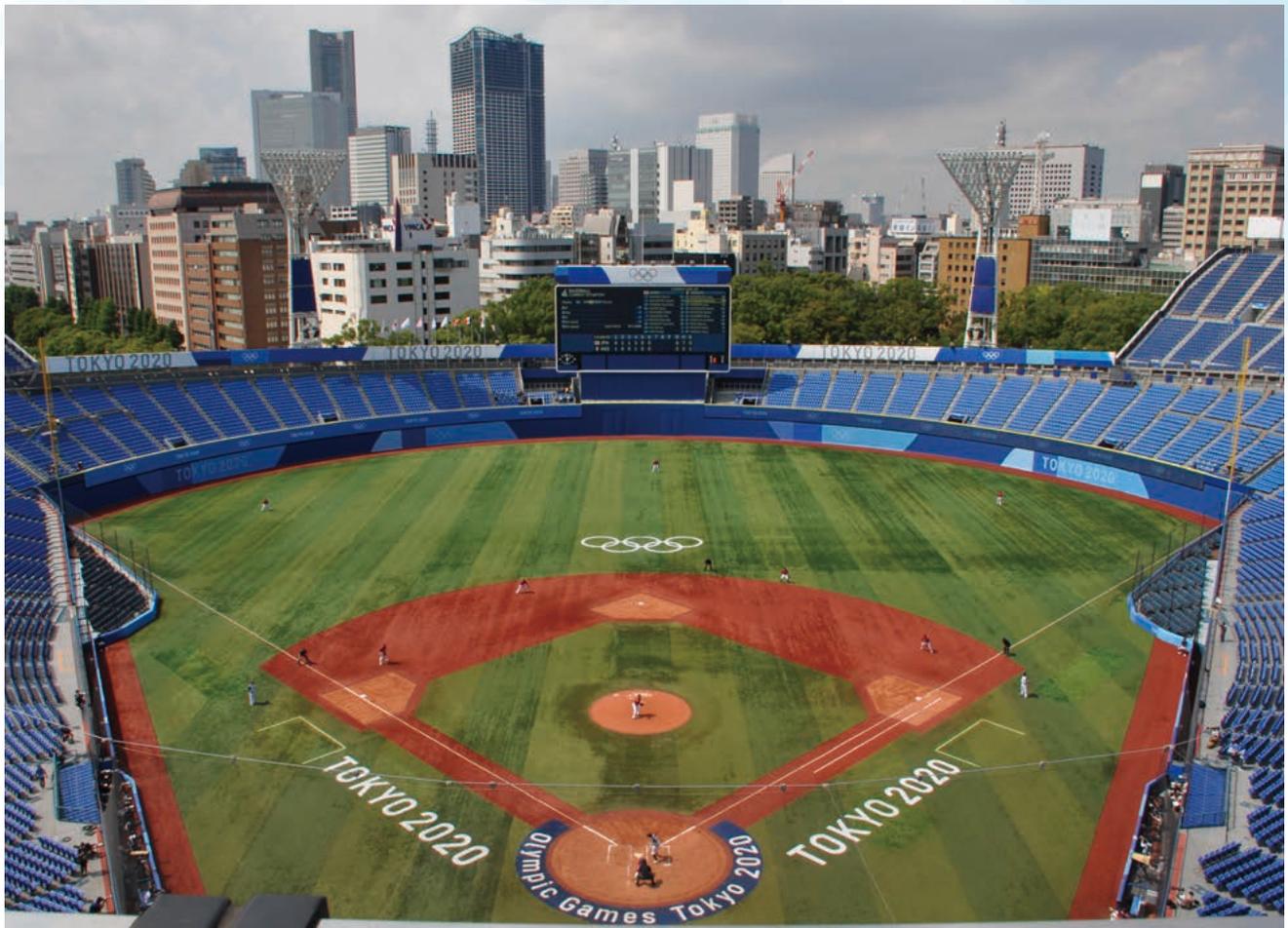
23.8% ※パラリンピック開会式。NHK総合



横浜の会場紹介①(野球・ソフトボール)

横浜スタジアム

2021年7月24日～8月7日にかけてソフトボール11試合、野球15試合が開催された横浜スタジアム。球場内外もオリンピック仕様に変貌したこの地で、両日本代表は金メダルを獲得し、歴史に名前を残した。



↑長い歴史を誇り、1948年に日本プロ野球初のナイトゲームを開催。そして初めての日米野球も行われた由緒ある球場が、大会期間中は藍色の会場カラーに染まった

旧市庁舎も活用

2020年5月に新庁舎へ移転した横浜市役所。その旧市庁舎も大会運営施設として、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会へ貸与。主にメディア対応や警備室などの用途で大いに活用された。

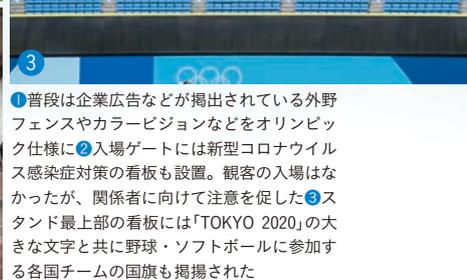
→旧市庁舎の敷地外周にはセキュリティフェンスが設置され、入館はアクセシビリティカード保有者に限定。厳格なセキュリティチェックが行われた



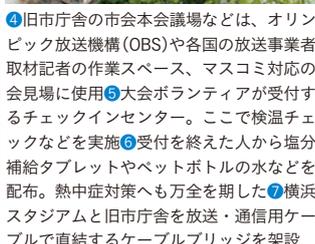


野球・ソフトボールの決戦会場 金奪取で輝かしい歴史を刻む

大会期間中にソフトボール11試合、野球15試合が開催された横浜スタジアム。この地で日本代表は両競技共に激戦の末、金メダルを獲得という、これ以上ない結果で幕を閉じた。同球場は、2020年3月に2年半の増改築工事を終え、特に両翼スタンドを拡充。従来の約29,000人から約6,000人増の約35,000人が収容可能になったほか、スタジアムが建つ横浜公園周辺も整備。オリンピックは無観客ながら、外野フェンスなど外装を東京2020大会仕様に変更。グラウンドにはオリンピックマークをペイントで描き、横浜DeNAベイスターズのロゴの部分などは人工芝に張り替えて対応した。



① 普段は企業広告などが掲出されている外野フェンスやカラービジョンなどをオリンピック仕様に②入場ゲートには新型コロナウイルス感染症対策の看板も設置。観客の入場はなかったが、関係者に向けて注意を促した③スタンド最上部の看板には「TOKYO 2020」の大きな文字と共に野球・ソフトボールに参加する各国チームの国旗も掲揚された



④旧市庁舎の市会本会議場などは、オリンピック放送機構(OBS)や各国の放送事業者、取材記者の作業スペース、マスコミ対応の会見場に使用⑤大会ボランティアが受付するチェックインセンター。ここで検温チェックなどを実施⑥受付を終えた人から塩分補給タブレットやペットボトルの水などを配布。熱中症対策へも万全を期した⑦横浜スタジアムと旧市庁舎を放送・通信用ケーブルで直結するケーブルブリッジを架設



↑13年後に再び優勝というドラマチックな展開に。全試合無失策の堅守も優勝の要因に→真のレジェンドとなった上野

地元開催
プレイバック
01



ソフトボール

13年ぶりに今大会で復活したソフトボール。横浜スタジアムでは決勝を含む4試合を戦った日本が、優勝した前回の北京2008大会と同様、米国と金メダルを争った末に連覇を達成。

絶対エース上野の伝説は続く 13年前の優勝の感動を再び

日本が優勝した北京2008大会以降、3大会ぶりに実施されたソフトボール。横浜スタジアムでの日本の初戦、イタリア戦は5-0と勝利。次戦のカナダ戦は山田恵里のサヨナラ打で勝ち、日本の勝負強さが光った。決勝の相手は13年前の決勝と同じ、宿命のライバル・米国。前日のオープニングラウンド最終戦で敗れた強敵との再戦は、先発した上野が6回途中まで好投。最終回にも再登板し完封勝利。上野は前回同様、マウンド上で優勝の瞬間を味わい、13年越しの連覇を成し遂げた。なお、横浜スタジアムは今大会のメイン会場として6チームが集い、3位決定戦などでも熱戦を繰り広げた。



1



2



3



4

①瀬谷中学卒業の峰幸代は前回大会の正捕手。7月26日の米国戦で先発のマスクをかぶった②オーストラリア戦で投げる米国の190cm長身エース、モニカ・アボット③神奈川県出身の山田恵里は、カナダ戦で決勝打を放つ④3位決定戦は僅差でカナダが勝利

●決勝スコア

チーム	1	2	3	4	5	6	7	計	H
日本	0	0	0	1	1	0	0	2	8
米国	0	0	0	0	0	0	0	0	3

●日本の今大会成績

7/21	オープニングラウンド	8-1	対オーストラリア	○	7/25	オープニングラウンド	1-0	対カナダ	○
7/22	オープニングラウンド	3-2	対メキシコ	○	7/26	オープニングラウンド	1-2	対米国	●
7/24	オープニングラウンド	5-0	対イタリア	○	7/27	決勝	2-0	対米国	○

※7/21・22は福島あづま球場にて実施

●横浜スタジアム開催ゲーム

競技日程	対戦カード(スコア)	セッション
7/24	オーストラリア● - カナダ○(1-7) 米国○ - メキシコ●(2-0) 日本○ - イタリア●(5-0)	オープニングラウンド
7/25	オーストラリア● - 米国○(1-2) カナダ● - 日本○(0-1) イタリア● - メキシコ○(0-5)	オープニングラウンド
7/26	日本● - 米国○(1-2) カナダ○ - イタリア●(8-1) メキシコ○ - オーストラリア●(4-1)	オープニングラウンド
7/27	①メキシコ● - カナダ○(2-3) ②日本○ - 米国●(2-0)	①3位決定戦 ②決勝



↑決勝の9回表、最後の打者を抑えたストッパーの栗林良吏を中心に喜びが爆発→横浜で悲願を達成した日本代表



地元開催
プレイバック
02



野球

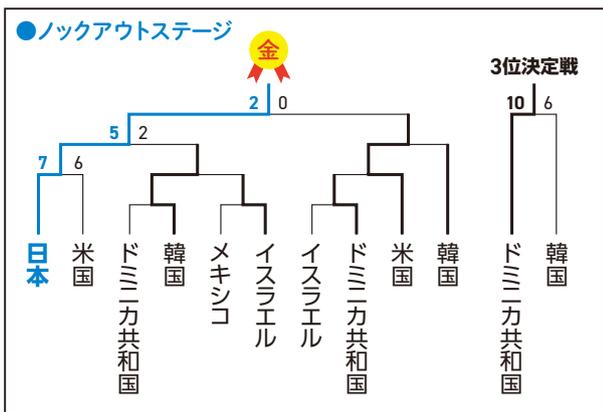
横浜スタジアムをメイン会場に開かれた野球で、金メダルへの期待を背負って戦った日本。初戦から激闘が続いたが総力戦で5連勝をマーク、決勝の横浜で歓喜の瞬間を迎えた。

3大会ぶりに復活した野球 自国開催の重圧に耐えて金

正式種目採用後の最高位はアトランタ1996大会の銀メダル。初の金メダル奪取は日本野球界の悲願だった。初戦のドミニカ共和国戦を福島あづま球場で行い、横浜へ移動後、4試合を戦った日本。準々決勝の米国戦は甲斐拓也のサヨナラ打で接戦を制し、準決勝の韓国戦は6回に同点にされるも突き放す。決勝では再び米国と対戦、3回に飛び出した村上宗隆のソロ弾などで2-0の完封勝利。激闘の連続だったが、稲葉篤紀監督の下、総力戦で勝ち抜き無傷で金メダルに輝いた。なお、横浜では決勝のほか、3位決定戦、準決勝、ノックアウトステージなど6か国がしのぎを削った。



①準決勝の韓国戦。横浜高校卒業の近藤健介が果敢な走塁を見せた②韓国は“2度目の準決勝”。横浜で米国と対戦③2試合2イニング無失点だった山崎康晃。所属チームの本拠地横浜でも登板した④ドミニカ共和国が韓国を下して銅メダル獲得



横浜の会場紹介②(サッカー)

横浜国際総合競技場

日本最大級の収容者数で、国際的知名度の高いこの会場ではサッカー女子4試合、サッカー男子8試合を開催。男子日本代表がフランスに4-0で快勝を収めたゲームや、男女の決勝戦など見どころあふれる激闘が展開された。



↑競技場としての収容人数は約72,000人で国内最大。最新式のLED照明が導入され、ピッチ全体を明るく照らし、セレモニーなどで舞台照明と一体となった演出も可能に

三ツ沢公園球技場

57年前にも使用された球技場で
各国代表チームが最終調整

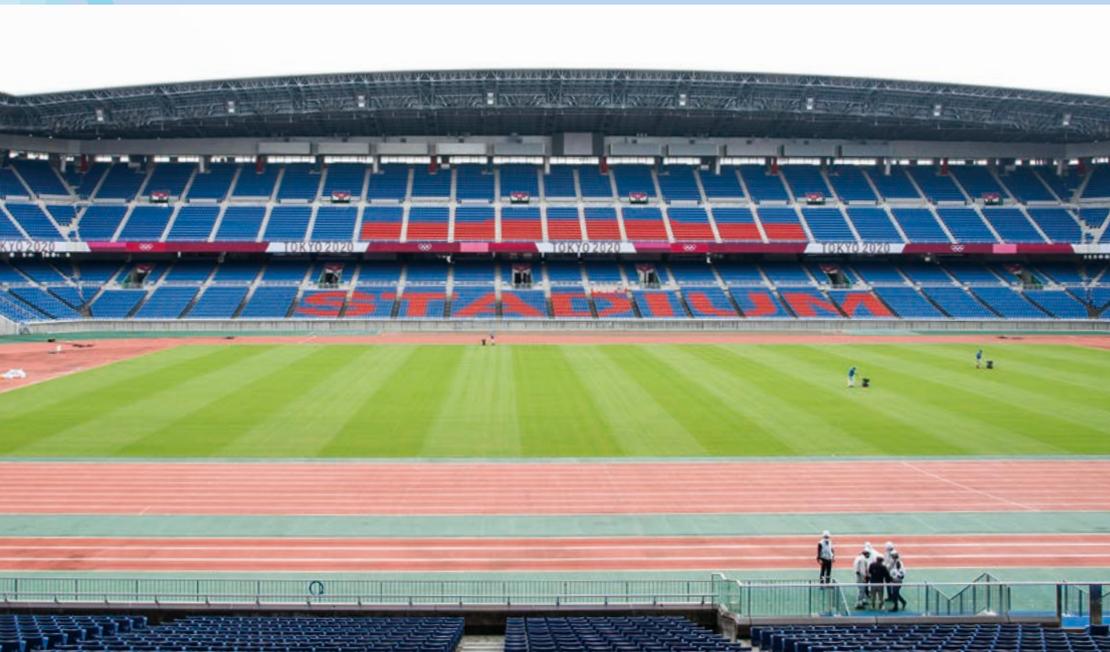
1964年の前回東京大会でのサッカー会場にもなっていた歴史ある球技場。ここで各国代表チームが最終調整を行った。Jリーグやラグビーなどの試合も行われる本格的な設備の球技場ということもあり、コンディションの優れたピッチで選手たちは調整に励んだ。



練習場は



→青々とした芝生でコンディション抜群、周辺設備も整っている三ツ沢公園球技場

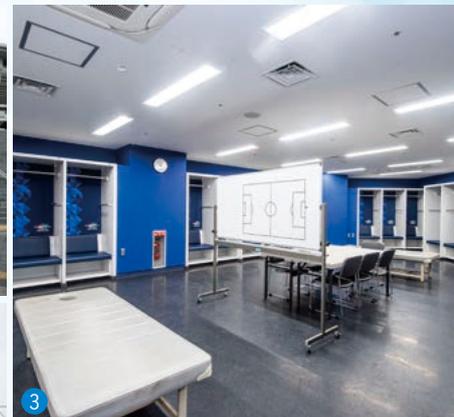


↑全試合無観客で行われたが、スタジアム内は「TOKYO 2020」の大会ロゴと紅の会場カラーで彩られた

←陸上トラックも備えた同スタジアムは、サッカーを中心にさまざまなスポーツイベントも開催されている。オリンピックでは男女合わせて12試合が行われた

日本最大級の多目的スタジアム サッカーの熱戦に世界が注目

2021年7月22、25、28、31日、8月7日にサッカー男子、7月27、30日、8月2、6日にサッカー女子が開催された横浜国際総合競技場。日本代表は7月28日のサッカー男子1次ラウンド、フランス戦にて4-0で勝利したほか、男女各決勝(男子はブラジル対スペイン、女子はスウェーデン対カナダ)が行われ、日本が世界に誇るスタジアムとして存在をアピールした。スタジアム内は、オリンピックのロゴや紅(くれない)の会場カラーと、客席のブルーのコントラストが映える仕様で、屋外のモニュメントや会場案内図も紅で統一された。また、内部にはメディア室や記者会見場なども設置され、世界中のメディアの発信基地となった。



①スタジアム外の案内板も会場カラーに統一
②同スタジアムの東ゲート付近。スタジアムのスケールの大きさが感じられる
③ブルーで統一された選手ロッカールーム

この2か所



小机競技場

横浜国際総合競技場に隣接 調整に最適なサッカー練習場

新横浜公園内にあり、横浜国際総合競技場に隣接する競技場。天然芝が敷かれ、コンディションが良いグラウンド。三ツ沢公園球技場と同様に各国代表チームが、ここでも最終調整を行った。

←107×71mのフィールドで、施設内には更衣室やシャワーなどが見えるレストハウスも完備されている



↑PK戦で優勝が決まった瞬間、カナダの選手たちは歓喜のダッシュ→試合ではカナダのMFフレミングがPKを沈めて同点に



地元開催
プレイバック
03

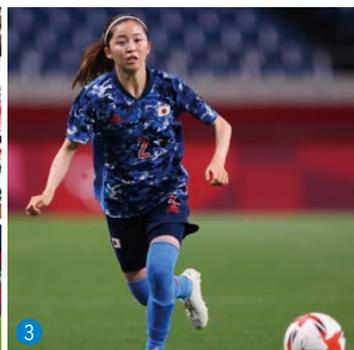


サッカー女子

横浜国際総合競技場が金メダルを争う舞台となって、カナダが初優勝を飾る。日本は2大会ぶりの本大会出場で健闘するも、ヨーロッパ勢の壁を越えられなかった。

ファイナルは120分超の死闘 真夏の横浜で生まれた名勝負

女子の決勝は急遽、横浜国際総合競技場で開催された。頂点を争ったのは、1次ラウンドで日本相手にドローのカナダと、準々決勝で日本を倒したスウェーデン。試合は前半にスウェーデンが先制、後半にカナダが追い付き、お互いに譲らず延長戦へ。だが決着はつかず、金メダルの行方はPK戦に委ねられ、GKラベが2本のPKを止める好守もあり、カナダが初の女王に輝く。惜敗したスウェーデンは準決勝でも横浜で戦っており、1点を争う好ゲームを演じた。ほか、横浜ではオランダも2試合を行っている。一方、日本はヨーロッパ勢に力負けし、決勝の“横国”までの道のりは遠かった。



①横浜出身の左サイドバック宮川麻都は2試合に先発出場②横浜の準々決勝では米国がオランダにPK戦で辛勝③元石川高校卒業の右サイドバック清水梨紗は攻撃参加が光った④準決勝の豪州対スウェーデンは大柄な選手が多く、空中戦も迫力満点

なでしこジャパンの復活ならず8強で散る

ロンドン2012大会で銀メダルだった日本が、復活を期して臨んだ今大会。初戦は優勝したカナダと引き分け、次戦は体格で勝る英国に黒星と苦戦が続く。それでも3戦目のチリ戦で、FW田中美南(写真)の決勝弾により自力で決勝トーナメントへ進んだが、準々決勝でスウェーデンに1-3で完敗。なでしこの戦いが終わった。



●横浜国際総合競技場開催ゲーム

競技日程	対戦カード(スコア)	セッション
7/27	オランダ○ - 中国●(8-2)	1次ラウンド
7/30	オランダ● - 米国○(2-2) (2 PK 4)	準々決勝
8/2	オーストラリア● - スウェーデン○(0-1)	準決勝
8/6	スウェーデン● - カナダ○(1-1) (2 PK 3)	決勝



↑2連覇を果たし喜ぶブラジル代表→今大会6試合5得点と活躍したブラジルの10番、FWリシャルリソンが決勝でゴールを狙う



サッカー男子

横浜国際総合競技場での決勝で、ブラジルが大会2連覇を達成し幕を閉じたサッカー男子。日本もエース久保らが奮戦して初の決勝進出も見ていたが、惜しくも果たせなかった。

リオ2016大会に続きブラジルが連覇を達成。日本代表は惜敗

男子の決勝が行われた横浜国際総合競技場。2002年の日韓W杯、2019年のラグビーワールドカップ™の各決勝も同スタジアムで開催されており、「世界三大スポーツイベント」の決勝を経験した世界初のスタジアムになった。その決勝では日本を準決勝で破ったスペインと、前回金メダルのブラジルが対戦。同スタジアムでの試合が1次ラウンドから数えて3戦目であったブラジルが、延長の末にスペインを破り連覇を飾った。なお、同スタジアムでは1次ラウンド、日本の圧勝劇となった日本対フランス戦を始め、2002年の日韓W杯の決勝カードであったブラジル対ドイツ戦なども行われた。



①0A枠のMF遠藤航は横浜市出身。ボランチの役割で全6試合に先発②同じく横浜市出身のDF板倉滉も全試合に出場し守備で貢献③ブラジルのFWリシャルリソンがドイツ戦でハットトリック達成④横浜での準々決勝はメキシコが6点、韓国が3点の乱撃戦に

53年ぶりのメダル獲得にあと一步届かず

歴代最強と称された今大会のU-24日本代表。1次ラウンドはMF久保建英(写真)の3戦連続得点や、フランス戦快勝など3連勝で突破した。だが準々決勝ニュージーランド戦ではPK戦で辛勝。準決勝スペイン戦ではゴールが遠く、延長戦で力尽きる。メキシコとの3位決定戦は前半から失点を重ね、53年ぶりのメダルを逃した。



●横浜国際総合競技場開催ゲーム

競技日程	対戦カード(スコア)	セッション
7/22	コートジボワール○ - サウジアラビア●(2-1) ブラジル○ - ドイツ●(4-2)	1次ラウンド
7/25	ブラジル△ - コートジボワール△(0-0) サウジアラビア● - ドイツ○(2-3)	1次ラウンド
7/28	韓国○ - ホンジュラス●(6-0) フランス● - 日本○(0-4)	1次ラウンド
7/31	韓国● - メキシコ○(3-6)	準々決勝
8/7	ブラジル○ - スペイン●(2-1)	決勝

東京2020オリンピック・ パラリンピック 横浜 ゆかりの メダリスト 23人

横浜市出身や市内の大学に在学中など、地元ゆかりの代表選手からも今大会を盛り上げてくれた立役者を多数輩出。オリンピック15人とパラリンピアン8人、23人で計25個の輝くメダルを獲得した記憶と記録に残る選手たちの大活躍をここに刻み込んでおこう。

■ =オリンピック ■ =パラリンピック



やまだ えり
山田恵里
ソフトボール

外野手。3度目のオリンピック出場。北京2008大会に続いて今回も主将として臨んだ。4戦目のカナダ戦での劇的なサヨナラ打を含む猛打賞など、計14打数5安打をマーク。13年ぶりの金メダルを峰らと共に手にした



ゆかり:地元実業団チーム所属(02~20年)



きよはら なほ
清原奈侑
ソフトボール

捕手。2014年より地元チームに所属し、頭脳的なリードで投手を引っ張る。今大会は守備交代、代打で計2試合に途中出場。出番こそ少なかったが、ブルペン捕手役と持ち前の明るさでチームを支えた



ゆかり:地元実業団チーム所属



みね ゆきよ
峰幸代
ソフトボール

捕手。北京2008大会では、正捕手として上野由岐子とバッテリーを組んだ。2014年に一度引退も、今大会を目指して2016年に復帰。5戦目の米国戦で敗れはしたが、再び大舞台で先発捕手を務めた



ゆかり:瀬谷中学校卒業



あおやぎこうりょう
青柳晃洋
野球

投手。変則的な横投げの右腕。本来は先発だが、今大会ではチーム事情で不慣れな中継ぎ起用となり、苦しい投球を強いられる場面も。だがチームからの信頼は厚く、金メダル獲得に貢献した



ゆかり:横浜市出身



こんどうけんすけ
近藤健介
野球

外野手。準決勝の韓国戦は先発出場し、ほか2試合で代打出場。所属球団ではアベレージヒッターで、代打でも好結果。初戦のドミニカ共和国戦の9回裏に代打で右前打を打ち、サヨナラ逆転勝ちにつなげた



ゆかり:横浜高校卒業



やまさきやすあき
山崎康晃
野球

投手。2020年の不振から脱した守護神が2試合に登板し、計2回で無失点。出場した初戦のドミニカ共和国戦と準々決勝の米国戦は、共にサヨナラ勝ちを呼び込んだ。経験豊富で、若い救援陣のまとめ役も



ゆかり:地元プロ野球チーム所属



いりえせな
入江聖奈
ボクシング/女子フェザー級(54-57kg)

女子ボクシング初の金メダリスト。決勝でフィリピンのネスティー・ベテシオを相手に攻め続け、5-0で文句なしの判定勝ち。勝利の瞬間、大好きなカエルのように、びよんびよん跳ねて歓喜した



ゆかり:日本体育大学在学中



みやざわ ゆき
宮澤 夕貴

バスケットボール/女子

86対85の大接戦を演じた準々決勝のベルギー戦では、7本の3点シュートを沈め、チーム最多得点。日本バスケット史上初の銀メダルに貢献したシューター

ゆかり:横浜市出身



ほんだ ともろ
本多 灯

競泳/男子200mバタフライ

準決勝は8位通過だったが、決勝は得意のラストパートで自己ベスト記録を叩き出し、銀メダルを奪取。喜びを表した“マッスルポーズ”でも話題に

ゆかり:横浜市瀬谷区出身



ふみたけんいちろう
文田 健一郎

レスリング/男子グレコローマンスタイル60kg級

グレコローマンの日本勢として37年ぶりの金を狙ったが、決勝でキューバの選手に敗北。悔しさのあまり号泣したが、次のパリ2024大会で世界一を目指す

ゆかり:日本体育大学卒業



かわた ゆうき
河田 悠希

アーチェリー/男子団体

団体・準決勝では、大会連覇を達成した韓国に競り負けたが、3位決定戦は5対4の接戦でオランダを下す。同種目日本男子初のメダル獲得に、感激の涙

ゆかり:日本体育大学卒業



むとうひろき
武藤 弘樹

アーチェリー/男子団体

個人と混合団体は初戦敗退だったものの、男子団体で主役となる。3位決定戦のラストショットで、相手よりも的確の中心を射抜き、河田らと表彰台へ

ゆかり:慶應義塾大学卒業



むらかみ まい
村上 茉愛

体操競技/女子種目別ゆか

跳躍力抜群で、演技ではH難度の大技「シリバス」も決め、思わず笑みがこぼれた。日本女子体操初となる個人種目でのメダル獲得の快挙を達成した

ゆかり:日本体育大学卒業



はりもとともかず
張本 智和

卓球/男子団体

シングルスは4回戦で敗れるも、団体戦で切り替え、3位決定戦では韓国のエースを破る。自身は初戦からダブルスを含めて、6戦全勝と波に乗った

ゆかり:日本大学高等学校在学中



やびくしょうへい
屋比久 翔平

レスリング/男子グレコローマンスタイル77kg級

2回戦で敗れるも、敗者復活戦で勝ち進む。3位決定戦ではイランの選手を圧倒し、13対3のテクニカルフォール勝ち。勝利の瞬間、雄叫びを上げた

ゆかり:日本体育大学卒業





銀
銀
銅

とみた うちゅう
富田宇宙

水泳/男子400m自由形S11ほか

400m自由形と100mバタフライで銀、200m個人メドレーで銅とメダル3個を獲得。100mバタフライでは、ライバルの木村敬一と金銀のワンツーフィニッシュ

ゆかり:

日本体育大学大学院在学中



銀

あかしりゅうが
赤石竜我

車いすバスケットボール/男子

大会当時は20歳でチーム最年少。コート狭くと走りまくり、運動量とガッツで勝負。準決勝の英国戦では大柄な相手にひるまず、体を張って守備に貢献

ゆかり:日本体育大学在学中



銀

たかまつよし のぶ
高松義伸

車いすバスケットボール/男子

予選から決勝まで8試合中6試合に途中出場。投入されると、持ち前の運動量とスピードでボールに食らい付き、試合終盤のディフェンスを引き締めた

ゆかり:日本体育大学在学中



銀

ちょうかいれん し
鳥海連志

車いすバスケットボール/男子

圧巻の素早さと妙技で魅了。決勝の米国戦では、両チーム最多のリバウンド18本を記録するなど攻守の起点に。車いすバスケット日本初のメダルを引き寄せた

ゆかり:

日本体育大学在籍(17~19年)



銀

ふるさわたくや
古澤拓也

車いすバスケットボール/男子

途中出場で攻撃を援護。準決勝・英国戦の第3Qで連続得点を挙げて、チームは逆転に成功。決勝も米国を追い掛ける展開の中、果敢にシュートを狙った

ゆかり:桐蔭横浜大学卒業



銅

すずきともき
鈴木朋樹

陸上競技/混合4×100mリレー

異なる障害のある4人で行う新種目、混合4×100mユニバーサルリレーのアンカー。鈴木は4着でゴールしたが中国が失格となり、3位に繰り上がる

ゆかり:

横浜ジュニアチーム出身



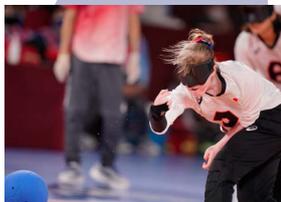
銅

かけはたえい こ
欠端瑛子

ゴールボール/女子

ロンドン2012大会の金メダリスト。3位決定戦のブラジル戦は決勝点を含む3得点の活躍で、日本は6対1で圧勝した。父は元プロ野球選手の光則さん

ゆかり:横浜美術大学卒業



銅

わかやまひでふみ
若山英史

車いすラグビー/混合

リオ2016大会に続き、2大会連続で銅メダルをつかむ。クレーバーな守備を売りに全5試合に出場。要所では攻撃に転じて、通算10トライを挙げている

ゆかり:地元実業団チーム所属(08~19年)



写真=松尾/アフロスポーツ(富田宇宙)、長田洋平/アフロスポーツ、松尾/アフロスポーツ(赤石竜我)、アフロスポーツ、長田洋平/アフロスポーツ(高松義伸)、長田洋平/アフロスポーツ(鳥海連志)、長田洋平/アフロスポーツ、ロイター/アフロ(古澤拓也)、森田直樹/アフロスポーツ、西村尚己/アフロスポーツ(鈴木朋樹)、アフロスポーツ、Sports Press JP/アフロ(欠端瑛子)、西村尚己/アフロスポーツ、SportsPressJP/アフロ(若山英史)

遠くギリシャから横浜へようこそ オリンピック聖火リレー



神奈川県内での公道走行は中止となったオリンピックの聖火リレー。2021年6月30日、聖火ランナーによる点火セレモニーとセレブレーションが、横浜赤レンガ倉庫で行われた。



点火セレモニー

走行を予定していた約90人の聖火ランナーが、複数のグループに分かれて聖火をつないだ

①神奈川区出身のタレント出川哲朗さん(左)は終始笑顔②俳優の草笛光子さん(右)は華やかに登場
③横浜市スポーツ協会会長の山口 宏さん(左)もさっそうと聖火をつなく④俳優の谷原章介さん(後列右から3番目)ら、達成感あふれる表情の皆さん



セレブレーション

神奈川県内の最終聖火ランナーの到着を祝うイベントで、聖火皿への点火を始め、ダンスステージなどのプログラムが実施された
↑最終聖火ランナーのEXILE ÜSAさん(右)が聖火皿へ点火←林文子横浜市長(当時、左から2番目)、黒岩祐治神奈川県知事(左から3番目)や橋本聖子大会組織委員会会長(左から5番目)が聖火の到着を見届けた←横浜市消防音楽隊による「Bon Voyage」など吹奏楽の演奏

共生社会への想いをひとつに

パラリンピック聖火フェスティバル

2021年8月12～15日、神奈川県でパラリンピック聖火フェスティバルが開催された。
横浜市は、8月13日に開港広場公園前のガス灯から「横浜の火」の採火を行った。



横浜市採火式

- ① 近代文化の象徴であるガス灯から共生社会への想いを込めて採火
- ② パラリンピックアルペンスキー金メダリストの大日方邦子さん(右)や、横浜市スポーツ推進委員連絡協議会会長の平井孝幸さん(中)、林琢己横浜市副市長(左)が参加
- ③ 高さ約4mのガス灯からランタンへ火を移す
- ④ 大日方さんと、パラアイスホッケー銀メダリストの上原大祐さん(右)のトークイベントも開催

神奈川県集火・出立式

↓8月15日に、県内全市町村で採火された火がひとつになって東京へ出立。当日その模様はオンライン配信された→パラアスリートたちが語るパラリンピックの魅力や、黒岩祐治神奈川県知事(左端)やタレントの高橋みなみさん(右端)らのトークショーなども行われた。出立者として「ともに生きる社会かながわの火」をトーチに灯すのは車いすテニスの二條実穂さん(中)



横浜から開幕に向けて盛り上げる

大会開催前イベント



2017年から節目ごとに実施してきた開幕へのカウントダウンイベント。大会延期後も実施方法を変えながら、市民の皆さんや大会パートナーと共に横浜から大会の盛り上げを図った。



東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー

オリンピック&パラリンピックフラッグが全国を巡回。横浜では、フラッグツアーアンバサダーの三浦大輔さんが引き継ぎを行い、その後、市内区役所などを巡った



東京2020オリンピック・パラリンピック1000日前キャンペーン in 横浜

オリンピック・パラリンピック開会1000日前を記念して、ソフトボールの山田恵里選手らによるトークショーや福島の子どもたちとの野球交流などを行った



横浜にオリンピックがやってくる! 【Tokyo 2020 2 Years to Go!】 in Yokohama

クイーンズスクエア横浜で開催。元野球日本代表の三浦大輔さんのトークショーや大会マスコット撮影会ほか、パラリンピック競技のポッチャ体験会なども



フラワーフォトスポット ~ Welcome to TOKYO2020 ~

パラリンピック開会500日前から期間限定で開港広場公園に設置。自転車(BMX)の内野洋平選手とパラトライアスロンの円尾敦子選手を招いたお披露目式も開催



500 Days to Go! フェスティバル~東京2020開催まであと500日!~

新横浜公園一帯で開催。「アルケミスト スペシャルステージwith岡村小」などのステージイベントや、車いすバスケット体験など多彩なコンテンツで盛り上がった



500日前セレモニー in 横浜

オリンピック500日前から横浜国際総合競技場の大型ビジョン(浜鳥橋交差点前)でカウントダウン表示を開始。除幕式には車いすラグビーの若山英史選手らが出席



1 Year to Go!フェスティバル ~東京2020開催まであと1年! in 横浜~

横浜スタジアムでの1年前イベント。ステージでは市内全18区からダンスや音頭、和太鼓のチームらが演目を披露。アスリートトークショーやFoorinの「パブリカ」、グラウンドではBaseball 5体験会なども行われた



~Tokyo2020 Paralympic Games 1 Year to Go!~ 1年前記念イベント in 神奈川

パラリンピック1年前を記念して、横浜赤レンガ倉庫で神奈川県と共催。元車いすラグビー日本代表の三阪洋行さん、義足ダンサーの大前光市さんのトークも



200 Days to Go! フェスティバル in 横浜~東京2020開催まであと200日!~

ららぽーと横浜にて開催。元サッカー日本代表の中澤佑二さんやパラ水泳の富田宇宙選手、パラ陸上の兎澤朋美選手らのトークショーやスポーツ体験会なども

大会延期後も実施方法を変えながら取組を継続

今、スポーツに できること in 横浜。 for Tokyo2020

大会延期後の初の本格的イベント。卓球の石川佳純選手などアスリートからのメッセージや競技PRなどをオンライン配信。またコスモクロック21にて特別ライトアップを実施

2020年
7/23-8/24



250 Days to Go! オンライン フェスティバル for Tokyo 2020 in 横浜

パラ陸上の井谷俊介選手らのトークショーや、ホストタウン応援ステージで西アフリカの伝統音楽などをオンライン中継したほか、スタジアムの内部を紹介する映像などを配信

2020年
11/15~
2021年
1/4



横浜スタジアム スタジアムツアー

100日前 キャンペーン in 横浜

市庁舎にて、東京2020公式アートポスター全20作品を展示。併せて横浜に縁のあるポスター制作者からのメッセージ動画も配信。また、4月14日、5月16日には2つの競技会場などで記念ライトアップも行われた

2021年
4/14~
5/16



神奈川県・ 横浜市ゆかり選手 オンライン壮行会

セーリングの須長由季選手やボートの荒川龍太選手、パラ水泳の日向楓選手とのトーク中継ほか、多くの出場内定選手からのメッセージや応援パフォーマンスなどを配信した

2021年
6/19



学校と連携した取組

大会開催に向けて市内の学校ではオリンピック・パラリンピック教育推進校を中心にさまざまな取組を実施。トップアスリートとの交流やパラスポーツ体験を通して、スポーツの素晴らしさや共生社会についての理解を深めていった



↑パラリンピアンとの交流
(元車いすラグビー日本代表の三阪洋行さん)



↑パラスポーツ体験



↑オリンピックとの交流
(元サッカー日本代表の石川直宏さん)



↑パラスポーツを支える人たちの講演
(パラトライアスロンの米岡聡選手とガイドの榎浩平さん)



↑パラスポーツ大会観戦(横浜国際プールでのジャパンパラ水泳競技大会)

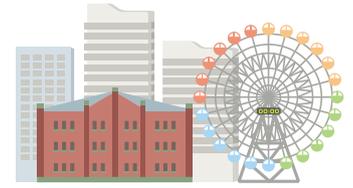
横浜市立学校 カウントダウンリレー

開会まで、全市立学校によるカウントダウンリレーを実施。学校ごとに趣向を凝らした作品が集まった



横浜からエールを送る

大会期間中の取組



赤レンガパークにオリンピックシンボルのモニュメントを設置するなど、大会前から期間中にかけて市内各所でライトアップやフラッグ掲示ほか、多彩な取組を実施。大会応援ムードを大いに盛り上げた。

©Tokyo 2020



「動くスポーツピクトグラム」を活用したライトアップ

コスモクロック21で実施。オリンピックの開会式で世界中の注目を浴びた「動くスポーツピクトグラム」を夜の観覧車に投影。オリンピック全33競技のピクトグラムが連続で動きまわって圧巻だった



©Tokyo 2020

オリンピックシンボルを活用した大型モニュメント

2021年6月29日～8月8日に赤レンガパークに設置。モニュメントは鉄骨製で、高さ約6m、幅約9.5m。緊急事態宣言発令前までは、19時から白く発光するライトアップも



都市装飾

競技会場周辺や新市庁舎周辺などでは、野球、ソフトボール、サッカーの地元開催競技の大懸垂幕や街灯バナーフラッグが掲げられた





横浜 スポーツ ガーデン

大会期間中、市庁舎アトリウムでスポーツにまつわる展示などを楽しめるイベントを開催した（7月21日～8月8日、8月24日～9月5日）

横浜市立学校 全校が参加した 学校作品展

オリンピック・パラリンピック教育推進校を始めとする、各学校で制作した大会応援作品などを市庁舎アトリウムで展示。開催が楽しみになる、手作りの温かみある作品が並んだ



←市民から寄せられた写真で制作した「笑顔でつくる！フォトモザイクアート」↓お台場・夢の大橋で灯る聖火台の日本唯一のライブ中継も行われた



大会の感動や興奮を共有する 大会期間後の取組

熱戦が繰り広げられたオリンピック・パラリンピックが終わり、コロナ禍でも全力でプレーした選手たちの活躍を改めて見ていく、横浜市の取組を紹介する。

企画展（報道写真展※・特別展・巡回展）

東京2020大会の報道写真や、東京2020聖火トーチ、事前キャンプを行った英国代表選手団のサイン入り横断幕などを展示。横浜市内各区を巡回した ※共催：ニュースパーク（日本新聞博物館）

2021年
9/7～
12/28



神奈川・横浜アスリート感謝会 ～おうちからARIGATOを届けよう！～

神奈川県や横浜시에縁のある選手に感謝の声を伝えると同時に、選手が大会に挑んだ思いに迫るオンラインイベントを県と共に開催した

2021年
9/26



①ソフトボール金メダリストの山田恵里選手②メダル3個を獲得したパラ水泳の富田宇宙選手③車いすバスケットボール銀メダリストの古澤拓也選手(右)、鳥海連志選手の2人もそろってトークを披露



世界各国の代表選手が横浜で最終トレーニング 事前キャンプ・交流



英国、ボツワナ共和国、チュニジア共和国などが市内各所で事前キャンプを実施。
また来日した代表選手らと地元の子もたちが交流を図り、心温まる瞬間を共有した。



↑横浜国際プールでは英国国旗を場内に多数掲げて、心からの歓迎ムードに

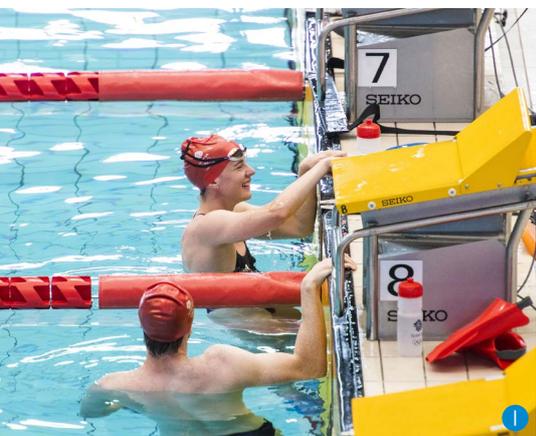


オリンピック代表チーム

2021年7月8日～8月1日 市内外5か所

総勢約600人もの代表選手団が
市内外各所にて最終調整を行う

水泳競技、柔道、体操、卓球、サッカー、陸上競技、ラグビー(7人制)など、22競技の代表選手団約600人がキャンピング。横浜国際プールや慶應義塾大学 日吉キャンパス、横浜カントリークラブ、パシフィック横浜ペDESTリアンデッキや川崎市内の施設でも最終調整を行った。



①リラックスした雰囲気でのトレーニング中の選手
②練習の合間には、プールサイドでコーチ陣との熱気を帯びたミーティング場面もよく見られた
③国際基準の本格的なプールで本番さながらの練習
④横浜市のスタッフも親密なコミュニケーションを取って、チームをサポート
⑤プールの仕切りガラスを、市内児童が英国の地図など華やかなステンドグラス調に飾り、ムード作りにはひと役

パラリンピック代表チーム

2021年8月13日～9月1日 市内外4か所

欧州随一のパラスポーツ強豪国 英国代表チームへの練習場を提供

パラリンピック発祥の地・英国の代表選手団、9競技約200人の事前キャンプを横浜市・川崎市・慶應義塾大学が連携してサポート。慶大ではアーチェリー、柔道など8競技約100人が練習。横浜カントリークラブやパシフィコ横浜周辺も、陸上競技の調整などで使用された。



↑横浜カントリークラブでの練習。一般客が利用していないゴルフコースをランニング→コーチからの指導にも熱が入る。同クラブでは早朝と夕方に陸上競技の中長距離選手がラスト調整に励んだ



↑慶大日吉キャンパスでの代表選手のウェイトトレーニング。みなぎる気合と体格に圧倒される



①集中力が勝負のアーチェリー選手の真剣な表情②試合同様の気迫あふれる車いすフェンシング③屋外トラックの横にもバイクマシンなどを設置し、足腰のトレーニングに活用。屋根付きテントで、暑さ対策もしっかりとされた
※写真は全て慶大日吉キャンパス



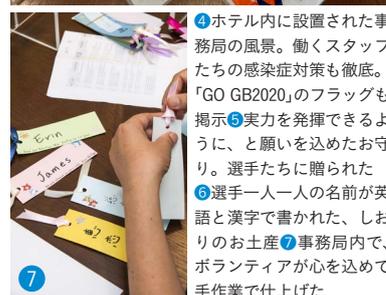
④宿泊先のヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテルから練習会場に向かう選手たちをお見送り⑤パシフィコ横浜ペDESTリアンデッキでは海風を感じながら、さまざまな競技の選手たちがジョギングや軽い運動を行った⑥車いす対応バスでスムーズな移動に配慮⑦選手たちの車いすは種類も多彩。宿泊先の横浜ベイホテル東急にて



英国事前キャンプを支えた人たち



123英国事前キャンプ横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」が、ボードにさまざまなメッセージを書いてお出迎え。「GO GB2020」グッズも用意して、熱烈なムードで選手たちをサポートした



4ホテル内に設置された事務局の風景。働くスタッフたちの感染症対策も徹底。「GO GB2020」のフラッグも掲示5実力を発揮できるように、と願いを込めたお守り。選手たちに贈られた6選手一人一人の名前が英語と漢字で書かれた、しおりのお土産7事務局内で、ボランティアが心を込めて手作業で仕上げた



横浜市・川崎市・慶應義塾大学三者連携で取り組んだ「GO GB」

2016年より英国と、横浜市・川崎市・慶應義塾大学の三者が協議を重ね、英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプ成功へ向けに連携して取り組んだ。選手を始め、市民にも安心してもらえるように、感染症対策に万全を期したほか、ボランティアの活躍も大きな力になった。



←三者で「Friends of Great Britain」を結成し、「GO GB」(がんばれ、英国)を合言葉に英国代表チームを応援。三者それぞれの会場が「GO GB」の同じデザインで飾られて、一体感を創出した

子どもたちとの交流

応援メッセージの掲示や 小学生によるオンライン交流

都筑区内のオリンピック・パラリンピック教育推進校の協力の下、英国代表を応援する「GO GB旗」などにメッセージを書いて練習会場に掲示。また、事前キャンプ期間中に区内小学校の児童らが、選手たちにオンラインで質問したり、応援メッセージを贈って、温かみのある交流を行った。



- ①横浜国際プールとオンラインでつなぎ、英国競泳チームと児童が交流を図った
- ②児童は選手やコーチらに熱心に質問したり、エールを送った
- ③北山田小学校、牛久保小学校の児童たちがオンライン交流を行った

→英国競泳チームの事前キャンプを見学、取材に訪れた都筑区のジュニア記者たち→競泳チーム事前キャンプディレクターのティム・ジョーンズさんにオンライン取材



↑GO GB旗、英国国旗、都筑区旗の3種14枚に子どもたちが寄せ書きをして練習会場に掲示。選手村出発時には英国競泳チームに贈呈



↑東山田小学校の児童たちが横浜国際プールにてサプライズでお見送り。選手たちは手を振り声援に答えていた



横浜と英国をつなぐ親善大使 「ひつじのショー」

英国と横浜の架け橋となる親善大使に就任している英国生まれの世界的人気キャラクター「ひつじのショー」。6種類の横浜オリジナルデザインを制作し、パネルを横浜国際プールや横浜市イギリス館、横浜開港資料館など5か所で展示。さらにショーが市内イベントに参加したりポスターにも登場など、英国代表チームの事前キャンプを存分にPRした。



Shaun Sheep SHAUN THE SHEEP AND SHAUN'S IMAGE ARE ™ AARDMAN ANIMATIONS LTD. 2021

ボツワナ共和国

オリンピック代表チーム

2021年7月7日~8月5日 市内2か所

アフリカ南部ボツワナから来浜 陸上競技と水泳の代表選手団

2つの会場で大会前の最後の調整を行ったボツワナ。青葉区にある日本体育大学 横浜・健志台キャンパスのプール、陸上トラックでの練習や、港北区の武相中学・高等学校ではトレーニングルームなどを利用。陸上競技と水泳の代表選手たち総勢24人が汗を流した。



①②武相高校の本格的なトレーニングルームでは、マシンを利用して、ストレッチや筋トレを行った③日体大で練習した陸上競技男子4x400mリレーの代表選手4人が銅メダル獲得の快挙。同国唯一のメダルに



④オリンピック代表選手団に続き、横浜で事前キャンプを行ったパラリンピック代表選手団の7人
⑤⑥日体大の陸上トラックで笑顔も交えて、試合前のコンディションを整えた

パラリンピック代表チーム

2021年8月13日~22日 市内2か所

ボツワナから突然の依頼で実現 パラ代表選手団の事前キャンプ

先に来浜していたボツワナのオリンピック代表選手団の事前キャンプ中に、同国パラリンピック陸上競技チームからオファーが舞い込み、急遽ながらも実現した事前キャンプ。横浜のおもてなし力が発揮されたの対応だった。総勢7人のパラ代表選手団が、日本体育大学 横浜・健志台キャンパスのほか、港北区の横浜市スポーツ医科学センターでトレーニングを行った。

子どもたちとの交流

市内の園児や小学生が 応援メッセージを贈る

港北区内5つの保育園の園児と、都筑区茅ヶ崎小学校の児童が選手に向けた応援メッセージパネルを制作し、キャンプ期間中の宿泊施設に掲示。また、パラアスリート応援ソングの動画放映と応援メッセージを届けたほか、代表選手団やボツワナ臨時代理大使とのオンライン交流も行った。

→港北区内5つの保育園園児らによる手作りのメッセージに喜ぶオリンピック代表選手
↓茅ヶ崎小学校からの応援作品。選手団の宿泊施設に掲示



→盲目のシンガーソングライター・栗山龍太さんが歌うパラアスリート応援ソングの動画で、一緒に歌って盛り上がるパラ代表選手たち



↑茅ヶ崎小学校4年生とオリンピック代表選手団らとのオンライン交流会も実施
→宿泊先のホテル横浜キャメロットジャンプで、園児たちの贈り物に笑顔



チュニジア共和国

オリンピック代表チーム

2021年7月10日～26日 市内3か所

柔道とアーチェリーの代表選手団が日本体育大学などで練習を行う

アフリカ北部にあるチュニジアから、柔道とアーチェリー代表合わせて8人の代表選手団が来浜。日本体育大学 横浜・健志台キャンパスと武相中学・高等学校、鶴見スポーツセンターの市内3か所で、大会直前のトレーニングを行った。



① 同国のフレンドリーなアーチェリー代表選手。横浜市のウェルカムメッセージなどを見てニコニコリ
②③ 柔道代表選手は日体大の健志台キャンパスの柔道場で気合いの入った稽古を行っていた



④⑤ 代表選手らと児童がオンライン交流。児童からの温かみのあるエールや質問が選手たちに届けられた⑥ 宿泊先の新横浜グレイスホテルでパソコン越しに質問などに答えた。スマホで交流の様子を記念撮影する選手も

子どもたちとの交流

選手団が食事する会場で応援メッセージを放映

チュニジアと交流のある神奈川県白幡小学校の児童が、選手に向けた応援動画を制作して選手の食事会場で放映。6年生は、柔道の代表選手団やチュニジア大使と、貴重なオンライン交流を行い親睦を深めた。港北区区内5つの保育園の園児による応援メッセージ掲示も好評だった。



セントビンセント バルバドス ウルグアイ ザンビア マラウイ タンザニア レバノン モルディブ イエメン

スポーツ庁事業参加国のパラリンピック代表選手

2021年8月14日～20日

「戦略的二国間スポーツ国際貢献事業」によって9か国の代表選手たちが来浜

日本体育大学がスポーツ庁から委託を受けて実施する「戦略的二国間スポーツ国際貢献事業」で、横浜・健志台キャンパスが9か国、計24人のパラリンピック代表選手を受け入れ、横浜市がサポート。セントビンセント、バルバドス、ウルグアイ、ザンビア、マラウイ、タンザニア、レバノン、モルディブ、イエメンといった中南米や中東、アジア、アフリカ諸国から来浜した水泳と陸上競技の代表選手たちが、最後のコンディション調整に精を出していた。



①②③④ 世界各国からチャンピオンした、さまざまな競技のパラ代表選手たち。水泳は8月14日～20日、陸上競技は8月15日～20日にトレーニングを行った

ボランティアの旅は未来へと続く

都市ボランティア

City Cast

Yokohama

競技会場周辺での案内や美化活動などを予定していた、約2,000人の都市ボランティア。無観客開催で大会期の活動は行われなかったが、約3年にわたる準備の軌跡を振り返る。



↑2019年10月6日に横浜文化体育館で行われたキックオフイベントの様子

約3年にわたり準備を続けてきた 都市ボランティアの活動記録

緊急事態宣言中であった2021年7月8日、大会開幕直前で無観客開催が決定。主に競技会場周辺で、来場者への案内などを予定していた都市ボランティアの活動は、中止となった。オリンピックの競技会場周辺などで案内や美化活動を行うため老若男女、幅広い世代の都市ボランティア約2,000人が、約3年にわたって準備を進めてきた。2019年のキックオフイベントからスタートし、世界中の方々に「横浜の顔」としておもてなしするため、オリンピック・パラリンピックの概要や、大会本番の活動を学ぶ研修を受講するなど、さまざまな準備に取り組んだ。大会が延期になったコロナ禍においても、オンライン交流会などを通じて、参加者同士の絆を深めていた。

What's CCY!?

「City Cast Yokohama
(横浜市・都市ボランティア)」の略



活動には、案内(案内・案内デスク・おもてなし)、美化推進、事務局補助、イベント補助の役割があり、主な活動場所は競技会場周辺、会場最寄り駅周辺、ラストマイル(会場から最寄り駅までの道程)上、東京2020ライブサイト会場などが予定されていた

CCY ボランティアジャーニー

- 2018年9～12月 **募集**
- 2019年5月、6月 **オリエンテーション**
- 2019年10月6日 **キックオフイベント**
- 2019年11月、12月 **共通研修**
- 2020年2月～ **任意研修①**
- 2020年3月～ **東京2020大会開催延期決定、活動継続意向確認**
- 2020年11月～ **任意研修②**
- 2021年1月、2月 **オンライン交流会**
- 2021年3月、4月 **役割別研修**
- 2021年6月上・中旬 **リーダーシップ研修・フォローアップ研修**
- 2021年6月11日 **ライブサイト・パブリックビューイングの中止決定**
- 2021年6月下旬 **活動場所別研修**
- 2021年6月下旬 **ユニフォーム受取**
- 2021年7月8日 **東京2020オリンピック無観客開催決定**
- 2021年7～9月 **東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催**
- 2021年10月16日 **City Cast Yokohama感謝会**

City Cast Yokohama ボランティアジャーニー

2018年9月の募集から大会期間中、そして2021年10月の感謝会までの道のりを示した、約3年の準備の軌跡

2018年
9月～12月

横浜市・都市ボランティア募集

募集人数2,500人程度に対し、5,834人と
予定の倍以上におよぶ多くの方から、
参加申し込みが届いた

東京2020オリンピック・パラリンピック
横浜市・都市ボランティア募集

募集期間 2018年9月12日(水)～2018年12月12日(水)

開催会場

2020年夏、世界最大の歓喜が再び東京。そして歴史に輝くときです。
安全で円滑な大会運営を実現し、輝きあふれる東京の心を「あなただけの心」でお届けします。
横浜市・都市ボランティアを募集します。
東京2020大会の開催者として、多くの皆さまの心に響き渡る「大会となるよう盛り上げていくため、
あなたの方をぜひ大切にしたい」

活動期間 2018年7月16日(金)～9月8日(日)
2019年7月16日(金)～9月8日(日)
2020年7月16日(金)～9月8日(日)

募集人数 2,500人程度

▶ボランティア募集に関する詳細はホームページを参照してください。 | 更新ボランティア 随時募集

主催：公益財団法人東京2020大会 後援：横浜市 横浜市ボランティア募集事務局 TEL: 045-650-7000 FAX: 045-651-0004

2019年
5月、6月

オリエンテーション

抽選に当選した3,000人を対象に、説明会や面談のほか、ユニフォームのサイズ確認や配慮希望者へ個別相談を実施



2019年
10月6日

キックオフイベント

約2,100人のCCYが横浜文化体育館に集まり、オリンピック・パラリンピアンたちによるトークショーや、過去大会のボランティア経験者たちによるパネルディスカッションで盛り上がった。参加者は登壇者の話を楽しみながら、活動への期待に胸を膨らませた



2019年
11月、12月

共通研修

参加者同士の意見交換などを通じて、東京2020大会の概要、ボランティア活動の意義や活動内容、心構えなどCity Castの基礎知識について学ぶ。この研修に参加することで、CCYとしての意識も高まった



2020年
2月～

任意研修①

任意研修第1弾の「障害者サポート研修」では、障害者の理解やサポート方法を学んだ。また危機管理研修、コミュニケーション研修なども行った。この頃からコロナの感染状況が悪化し、以後の任意研修はオンラインへ変更に



横浜市スポーツボランティア インタビューリレー ～活動から得たレガシー～



※本収録は 出演者・スタッフともに感染症対策に配慮して撮影しています

2020年
11月～

任意研修②

延期後、初めての研修として「語学×コミュニケーション」など「横浜市スポーツボランティア インタビューリレー」を動画配信。海外からのゲストへの対応や、ボランティア経験者の話などを通じて、大会までの間のモチベーションの維持やスキルアップにつなげた

2021年
1月、2月

オンライン交流会

さまざまな参加者をオンラインでつなぎ、グループディスカッションなどを実施。久しぶりのCCY同士の交流に、参加者から多くの喜びの声が聞かれた



2021年
3月、4月

役割別研修

競技会場に訪れる方の案内や美化推進、事務局補助、イベント補助などの役割別に振り分けられたCCYが、オンラインで研修を受講。具体的な活動内容が示されたことで、参加者の気持ちも新たになった



2021年
6月

リーダーシップ研修・ フォローアップ研修

「サポート型のリーダーシップ」のコミュニケーションの重要性などを動画で学ぶ研修。フォローアップとして、リーダー同士の交流を兼ねたオンライン研修も実施

スペシャルインタビュー

初対面のコミュニケーション



ポイント コミュニケーションは双方向が重要

やっぱりコミュニケーションっていうのは双方向ですね



2021年
6月

活動場所別研修 (関内・新横浜)

実際に活動するエリアごとに活動内容などを説明。現地での説明には音声ガイドの活用も図られて、実際の活動エリアへの基礎知識を深めた



↑新横浜の研修会場の様子

←こちらは関内の研修会場。共に会場では座席間隔を十分に設けるなど、徹底した感染症対策が行われた



→コロナ禍での開催だったことから、密を避け短時間の研修とするため、各々が音声聞きながら活動場所を確認する「音声ガイド」を採用した



2021年
10月

City Cast Yokohama 感謝会

CCYを招待した感謝会をパシフィコ横浜ノースで開催。山中竹春横浜市長の挨拶や感謝状贈呈、今大会メダリストたちのトークセッション、ボランティア有識者によるパネルディスカッションやプレゼント抽選会などを実施した。また、会場には地元開催競技の野球、ソフトボール、サッカーの出場選手の直筆サインなども展示され、フォトスポットになっていた



↑↑コロナ感染症対策を徹底した会場でユニフォームを着たCCY約600人が参加。会場の様子はオンラインでも配信された↑山中市長から感謝状が贈られた



↑レスリング銀メダルの文田健一郎選手(左)、同じく銅メダルの屋比久翔平選手(中)、パラ水泳銀&銅メダルの富田宇宙選手がトークセッションに登壇。メダル獲得の瞬間など大会の感動を振り返った←有識者から今後のボランティア活動のヒントを共有された←展示されていた聖火リレーのトーチやユニフォームと一緒に記念撮影するCCYの皆さん



新たなボランティアジャーニーへ!

ごあいさつ

世界中を興奮の渦に巻き込んだラグビーワールドカップ2019™決勝戦に続き、オール横浜で東京2020大会に向けた準備を進める中、新型コロナウイルスが世界的に猛威をふるいました。

オリンピック・パラリンピック史上初となる1年の開催延期、そして、コロナ禍での大会開催という未曾有の状況の中、多くの方々のお力添えを頂戴し、野球・ソフトボール競技、サッカー競技の決勝戦をはじめ、横浜開催が無事終了しました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の皆様、ラグビーワールドカップ2019™東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会の皆様、横浜市都市ボランティアの皆様をはじめ、東京2020大会の横浜開催にあたり、多大な御尽力を賜りました全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

横浜市に事前キャンプをお迎えした選手団は、英国やアフリカ各国など12か国に及びます。練習会場や宿泊施設の準備、医療体制の確保など、オール横浜でサポートし、約900名もの選手やスタッフの方々に一人も感染者を出すことなく、大会で活躍していただくことができました。

安全・安心な大会となるよう、万全の環境を整える。そして、横浜にお越しの皆様を温かくおもてなしし、世界中の皆様の記憶に残る、素晴らしい大会にする。そのゴールに向かって、オール横浜で大会をお支えできたことは、横浜の未来につながる大きな実績です。

横浜は、東京2020大会、ラグビーワールドカップ2019™、2002FIFAワールドカップ™と、世界三大スポーツ大会の決勝会場となった、世界で唯一の地となりました。その経験とノウハウを横浜のレガシーとして、今後もしっかりと引き継いでいきます。そして、スポーツが持つ、絆を育む力を信じ、スポーツ都市・横浜として日本を盛り上げていきます。

横浜市長
山中竹春



第1章

東京2020大会 開催に向けて

2013年の東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定後、横浜市は今大会の成功に向けて動き出す。様々な関係機関と連携し、本市の体制構築を行って、準備を進めた。途中、コロナ禍で延期となったが、2021年夏に大会は無事に開催。横浜開催の軌跡を振り返る。

みんなの輝き、
つなげていこう。
Unity in Diversity

東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜開催の軌跡

写真：TopFoto / アフロ

1964年

10月 東京1964オリンピック開催
横浜会場(バレーボール:横浜文化体育館、
サッカー男子:三ツ沢公園球技場)



↑1964年10月 東京1964オリンピック開会式

2002年

5月 2002FIFAワールドカップ™ 開催(～6月)

2013年

9月 東京2020オリンピック・パラリンピック
開催決定(9月7日)

写真：ロイター / アフロ



↑2013年9月 東京2020大会開催決定の瞬間

2014年

6月 オリンピアン・パラリンピアンによる
学校訪問事業を開始(以降、毎年度実施)

2016年

1月 英国のホストタウンとして登録(1月26日)

2月 横浜市、川崎市、慶應義塾大学、英国オリンピック委員会、
日本オリンピック委員会が事前キャンプに関する覚書を締結(2月8日)

4月 ラグビーワールドカップ2019™
東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市推進本部設置(4月25日)

8月 野球・ソフトボールが東京2020オリンピックの追加種目に決定(8月4日)

リオデジャネイロ2016オリンピック・
パラリンピック開催(～9月)

11月 ラグビーワールドカップ2019™
東京2020オリンピック・パラリンピック
横浜開催推進委員会設立総会を開催(11月17日)

12月 野球・ソフトボールの横浜開催決定(12月7日)



↑2017年3月 横浜市、川崎市、慶應義塾大学、
英国オリンピック委員会による契約締結式

2017年

- 3月 横浜市、川崎市、慶應義塾大学が英国オリンピック委員会と事前キャンプに関する契約を締結(3月21日)
- 7月 「ラグビーワールドカップ2019™ 専門委員会」及び「東京2020オリンピック・パラリンピック専門委員会」第1回合同委員会を開催(7月5日)
- 9月 「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」を実施(9月3日～12日)
- 10月 「東京2020オリンピック・パラリンピック1000日前キャンペーン in 横浜」を実施(10月28日～11月25日)
- 11月 福島県と横浜市の子どもたちによる軟式野球の親善試合を横浜スタジアムで開催(11月25日)



↑2017年9月 東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー



↑2017年11月 福島県と横浜市の子どもたちによる軟式野球親善試合

2018年

- 3月 「ラグビーワールドカップ2019™ 専門委員会」及び「東京2020オリンピック・パラリンピック専門委員会」第2回合同委員会を開催(3月26日)
- 4月 ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会医療救護検討部会開催(4月24日 以降、全9回開催)
- イスラエル国、チュニジア共和国のホストタウンとして登録(4月27日)
- 5月 サッカーの横浜開催決定(5月2日)
- 2018ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会に出場する英国選手と市内小学校との交流会を実施(5月11日、12日)
- 横浜市、川崎市、慶應義塾大学、英国パラリンピック委員会が事前キャンプに関する覚書を締結(5月24日)
- 8月 東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市ウェブサイトを開設(8月1日)
- 「横浜にオリンピックがやってくる! [Tokyo 2020 2 Years to Go!] in Yokohama」を開催(8月4日)



↑2018年5月 英国トライアスロン・パラトライアスロン選手と市内小学校との交流会



↑2018年8月 東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市ウェブサイトを開設

8月 英国代表チーム応援ウェブサイト「GO GB 2020」を開設(8月30日)
 「ラグビーワールドカップ 2019™ 専門委員会」及び「東京2020
 オリンピック・パラリンピック専門委員会」の第3回合同委員会を開催(8月31日)
 ベナン共和国、ボツワナ共和国のホストタウンとして登録(8月31日)

9月 横浜市・都市ボランティア募集(9月12日～12月12日)

ジャパンパラ水泳競技大会(横浜国際プール)に
 出場する英国パラ水泳代表選手と交流会を実施
 (9月21日)



←2018年9月～
 12月 横浜市・都
 市ボランティア
 募集

10月 ラグビーワールドカップ2019™
 東京2020オリンピック・パラリンピック
 横浜開催推進委員会交通輸送検討部会
 開催(10月3日以降、全13回開催)

コートジボワール共和国のホストタウン
 として登録(10月31日)

11月 「ジャパンウォーク in YOKOHAMA 2018秋」
 を開催(11月10日)

12月 IOC・調整委員会による会場視察
 (横浜スタジアム)(12月3日)



↑2018年9月 英国パラ水泳代表選手との交流
 会

2019年

3月 「500日前セレモニー」を開催、
 Twitterアカウントを開設(3月12日)

「500 Days to Go!フェスティバル
 ～東京2020開催まであと500日!～」を開催
 (3月16日)

「ラグビーワールドカップ2019™ 専門委員会」
 及び「東京2020オリンピック・パラリンピック
 専門委員会」の第4回合同委員会を開催(3月26日)



↑2019年3月 500 Days to Go! フェスティバ
 ル～東京2020開催まであと500日!～

4月 「フラワーフォトスポット～ Welcome to
 TOKYO 2020～」を設置(4月13日～6月2日)

サッカー、野球・ソフトボールの
 競技スケジュールが決定(4月16日)

宿泊施設バリアフリー化促進事業費補助金
 募集開始(4月22日以降、毎年度実施)

5月 東京2020オリンピック観戦チケット
 抽選申込受付開始(5月9日)



↑2019年4月 フラワーフォトスポット～ Welco
 me to TOKYO 2020～

- 5月 2019ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会に出場する英国選手と市内小学校との交流会を実施(5月17日)
- 7月 「東京2020ライブサイト」横浜市内の2会場(市庁舎アトリウム・横浜文化体育館)での開催を発表(7月5日)
- 韓国・光州世界水泳選手権大会に向けて英国水泳代表チームが横浜国際プールでプレ事前キャンプを実施(7月8日～16日)
- ラグビーワールドカップ2019™ 及び東京2020オリンピック・パラリンピックに係る神奈川推進会議及び横浜開催推進委員会の合同総会を開催(7月11日)
- 「1 Year to Go! フェスティバル～東京2020開催まであと1年!～ in 横浜市」を開催(7月13日)
- 8月 「～Tokyo 2020 Paralympic Games 1 Year to Go!～ 1年前記念イベント in 神奈川」を開催(8月17日)
- 9月 ラグビーワールドカップ2019™ 日本大会開催(～11月)
- オリンピック・パラリンピック教育推進校向けプログラム(パラリンピック競技について知る、体験する、考える取組)を開始(以降、毎年度実施)
- 10月 福島県で行われた「東京2020オリンピック開幕300日前イベント」に横浜市の子どもたちが参加(10月5日)
- CCY(横浜市・都市ボランティア)キックオフイベント開催(10月6日)
- ブルガリア共和国、モロッコ王国のホストタウンとして登録(10月31日)
- 11月 英国オリンピック委員会アンディ・アンソンCEOが林市長(当時)を訪問(11月5日)
- ソフトボール女子日本代表ふれあいフェスティバル開催(11月19日)
- 12月 英国パラリンピック委員会ペニー・ブリスコー選手団長が桐蔭横浜大学で講演を実施(12月4日)



↑2019年7月 英国プレ事前キャンプ(公開練習)



↑2019年7月 神奈川推進会議及び横浜開催推進委員会合同総会



↑2019年9月 ラグビーワールドカップ2019™ ファンゾーンでPRブース出展



↑2019年10月 開幕300日前イベント(福島あづま球場)



↑2019年11月 ソフトボール女子日本代表ふれあいフェスティバル

12月 英国事前キャンプ横浜市ボランティア
「横浜ホストタウンサポーター」募集
(12月20日～2020年1月21日)

2020年

1月 「200日前記念セレモニー in 横浜市」を開催、
シティドレッシング(都市装飾)を開始(1月6日)

「200 Days to Go! フェスティバル in 横浜市
～東京2020 開催まであと200日!～」を開催
(1月25日)

2月 「東京 2020 オリンピック・パラリンピックを
成功させる横浜市会議員の会」設立(2月13日)

アルジェリア民主人民共和国の
ホストタウンとして登録(2月28日)

3月 新型コロナウイルス感染症の影響で
大会の1年延期が決定(3月24日)

4月 「ラグビーワールドカップ2019™ 専門委員会」及び
「東京2020オリンピック・パラリンピック専門委員会」
第5回合同委員会を開催(4月3日)

6月 CCY(横浜市・都市ボランティア)活動継続意向確認(6月～)

7月 東京2020オリンピックの新たな競技スケジュールが決定(7月17日)

「今、スポーツにできること in 横浜。
for Tokyo2020」を開催(7月23日)

1年前記念ライトアップを神奈川県・相模原市・
藤沢市とともに実施(7月23日、8月24日)

9月 東京2020オリンピック聖火リレー及び
東京2020パラリンピック聖火リレーの
新たな日程等が決定(9月28日)

11月 「250 Days to Go! オンラインフェスティバル
for Tokyo2020 in 横浜」を開催
(11月15日～2021年1月4日)

英国オリンピック委員会の
マーケティング責任者が市立高等学校で
オンライン講演会を実施(11月18日)



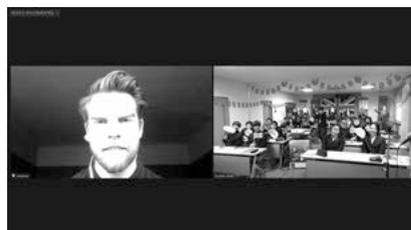
↑2020年1月 200日前記念セレモニー in 横浜市



↑2020年1月 200 Days to Go! フェスティバル in 横浜市 ～東京2020 開催まであと200日!～



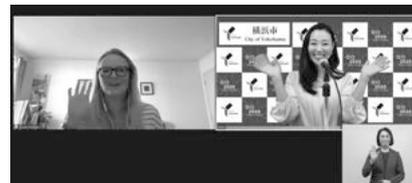
↑2020年7月 今、スポーツにできること in 横浜。for Tokyo2020



↑2020年11月 英国オリンピック委員会による市内高校生に向けた講演会

2021年

- 3月 英国パラリンピアンからのメッセージ
～共生社会を考える～オンラインセミナーを
開催(3月19日)
- 東京2020オリンピック・パラリンピックの
海外観客受入れ断念を決定(3月20日)
- 4月 「100日前キャンペーン in 横浜」を実施
(4月14日～5月16日)
- 100日前記念ライトアップを神奈川県と
ともに実施(4月14日、5月16日)
- 6月 横浜市内の「東京2020ライブサイト」、
「コミュニティライブサイト」及び
「パブリックビューイング」の中止決定(6月11日)
- 東京2020オリンピック聖火リレーの
神奈川県内公道走行中止決定(6月11日)
- 東京2020オリンピック・パラリンピック
聖火リレートーチ展示(6月15日～17日)
- 「神奈川県・横浜市ゆかり選手
オンライン壮行会」を開催(6月19日)
- オリンピックシンボルを活用した
大型モニュメント設置(6月29日～8月8日)
- 競技会場周辺をバナーフラッグなどで装飾
(6月29日～8月8日)
- 東京2020オリンピック聖火リレー
点火セレモニー、セレブレーションを実施(6月30日)
- 7月 「横浜版ウェルカムガイドブック」を発行(7月～)
- 「フォトゲイニングで横浜めぐり～もうすぐ
横浜にオリンピックがやってくる!～」を開催(7月4日)
- ボツワナ共和国オリンピック代表チームが
事前キャンプを実施(7月7日～8月5日)
- 東京2020オリンピックの原則無観客での
開催が決定(7月8日)
- CCY(横浜市・都市ボランティア)活動中止決定
(7月8日)
- 英国オリンピック代表チームが事前キャンプを実施
(7月8日～8月1日)
- チュニジア共和国オリンピック代表チームが
事前キャンプを実施(7月10日～26日)
- 「横浜スポーツガーデン」を開催
(7月21日～8月8日、8月24日～9月5日)



↑2021年3月 英国パラリンピアンによるオンラインセミナー



↑2021年4月 100日前キャンペーン in 横浜



↑2021年6月 市庁舎アトリウムでの聖火リレートーチ展示



↑2021年6月～8月 競技会場周辺を装飾したバナーフラッグ



↑2021年6月 オリンピック聖火リレーセレブレーション



↑2021年7月 英国オリンピック代表チーム事前キャンプ(横浜国際プール)

7月

サッカー男子の横浜国際総合競技場初戦を迎える(7月22日)

東京2020オリンピック開会式(7月23日)

「動くスポーツピクトグラム」を活用したライトアップを実施

(7月23日～8月1日 ※緊急事態宣言の発令に伴い期間短縮)

ソフトボールの横浜スタジアム初戦を迎える(7月24日)

横浜スタジアムでソフトボール決勝、日本代表が金メダル獲得(7月27日)

サッカー女子の横浜国際総合競技場初戦を迎える(7月27日)

野球の横浜スタジアム初戦を迎える(7月29日)

8月

サッカー女子決勝の会場がオリンピックスタジアムから横浜国際総合競技場へ変更決定(8月5日)

横浜国際総合競技場でサッカー女子決勝(8月6日)

横浜スタジアムで野球決勝、日本代表が金メダル獲得(8月7日)

横浜国際総合競技場でサッカー男子決勝(8月7日)

2002FIFAワールドカップ™、ラグビーワールドカップ2019™、東京2020大会サッカー競技の各決勝が横浜国際総合競技場で開催され、「世界三大スポーツイベント」の決勝を経験した世界初のスタジアムとなった

東京2020オリンピック閉会式(8月8日)

東京2020パラリンピック聖火フェスティバル(8月12日～15日)

「横浜市採火式、パラリンピアンによるトークセッション」を開催(8月13日)

英国パラリンピック代表チームが事前キャンプを実施(8月13日～9月1日)

ボツワナ共和国パラリンピック代表チームが事前キャンプを実施(8月13日～22日)

スポーツ庁事業参加国のパラリンピック代表選手が事前キャンプを実施(8月14日～20日)

東京2020パラリンピックの原則無観客での開催が決定(8月16日)

写真：青木紘二／アフロスポーツ



↑2021年7月 ソフトボール日本代表が優勝を決めた(横浜スタジアム)

写真：新華社／アフロ



↑2021年8月 サッカー女子決勝はカナダがスウェーデンにPK戦で勝利(横浜国際総合競技場)

写真：青木紘二／アフロスポーツ



↑2021年8月 野球日本代表・稲葉篤紀監督の胴上げ(横浜スタジアム)

写真：AP／アフロ



↑2021年8月 サッカー男子決勝でスペインを下したブラジル(横浜国際総合競技場)



↑2021年8月 横浜市採火式、パラリンピアンによるトークセッション

8月 「横浜市立学校全校が参加した学校作品展示」を開催(8月19日、20日)

東京2020パラリンピック開会式(8月24日)

9月 東京2020パラリンピック閉会式(9月5日)

東京2020大会関連企画展
(報道写真展・特別展・巡回展)を実施
(9月7日～12月28日)

「神奈川・横浜アスリート感謝会～おうちからARIGATOを届けよう!～」を開催(9月26日)

10月 「CCY(横浜市・都市ボランティア)感謝会」及び横浜市スポーツ栄誉賞贈呈式を開催(10月16日)

市庁舎アトリウムで各競技の各国代表サイン入りユニフォームなどを展示(10月21日、22日)

「東京2020オリンピック・パラリンピックを成功させる横浜市会議員の会」解散総会(10月22日)

「横浜ホストタウンサポーター感謝会」を開催(10月31日)

12月 「ラグビーワールドカップ2019™東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会 総会」を開催、同日をもって解散(12月3日)



↑2021年8月 ポツワナパラリンピック代表チーム事前キャンプ(日本体育大学)



↑2021年10月 CCY(横浜市・都市ボランティア)感謝会



↑2021年10月 サイン入りユニフォームなどの展示

新型コロナウイルス感染症の影響により、人流抑制や無観客の決定を受けて中止した事業

	中止した内容(事業概要)	当初計画での実施期間
都市ボランティア	競技会場周辺や最寄駅周辺などで、観客の案内や問合せ対応、グッズを使ったおもてなしなど	7月22日～8月7日
	競技会場周辺での清掃活動	7月22日～8月7日
	運営本部におけるボランティアの受付や休憩所の運営補助等	7月22日～8月7日
暑さ対策	●競技会場周辺における冷却シート等の暑さ対策グッズの配付 ●競技会場周辺における注意喚起	●横浜国際総合競技場周辺:7月22日～8月7日 ●横浜スタジアム周辺:7月23日～8月7日
案内デスク	競技会場最寄駅での観客向け案内デスクの設置	7月22日～8月7日
東京2020ライブサイト・コミュニティライブサイト・パブリックビューイング	大型スクリーンを利用した競技中継、会場装飾、競技体験、ステージイベント、大会パートナー出展、主催者展示、飲食売店、公式ライセンス商品販売等	●東京2020ライブサイト:7月31日～8月7日 ●パブリックビューイング:7月21日～8月8日、8月24日～9月5日 ※ その他、市内で予定されていたコミュニティライブサイトも、すべて中止
会場周辺交通規制	両会場の交通規制について、一部区間の規制取りやめ	7月20日～8月9日
都市装飾	競技会場周辺や市街地での都市装飾について、箇所の縮小・期間短縮(一部、競技会場周辺や駅周辺等で実施)	6月28日～9月5日

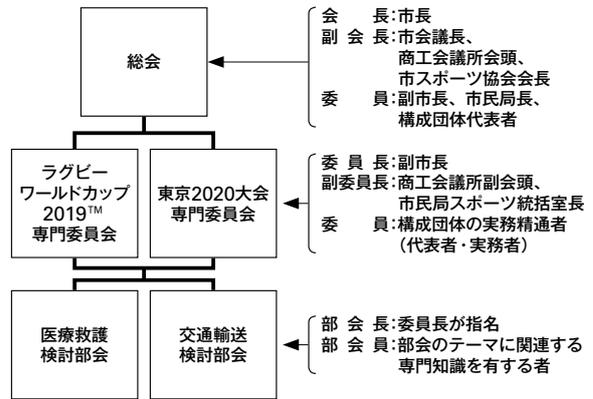
横浜市の体制構築

①ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜開催推進委員会

2016年11月17日に設立した官民連携組織であり、ラグビーワールドカップ2019™ 及び東京2020大会の成功に向け、開催準備をはじめ、機運醸成の取組や、両大会を契機としたスポーツや文化芸術の振興、シティプロモーションなどの様々な取組を、オール横浜で丸となって推進した。当委員会は横浜市長を会長とし、経済団体、交通事業者、障害者団体、スポーツ団体、文化団体など合計87団体で構成され、「総会」「専門委員会」「専門部会」を設置した。

なお、2016年11月17日の設立総会では「ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン」(横浜ビジョン、P43参照)を策定した。

横浜開催推進委員会体系図



総会

横浜ビジョンの実現に向けた情報共有や連携調整のため、節目ごとに開催(構成団体及び委員はP124参照)。

開催実績

開催日	名称	会場
2016年11月17日	横浜開催推進委員会 設立総会	ロイヤルホールヨコハマ
2019年7月11日	ラグビーワールドカップ2019™ 及び東京2020オリンピック・パラリンピックに係る神奈川推進会議及び横浜開催推進委員会の合同総会	横浜ベイシエラトンホテル&タワーズ
2021年6月30日	ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜開催推進委員会 総会	書面開催
2021年12月3日	ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜開催推進委員会 総会	ロイヤルホールヨコハマ

専門委員会

ラグビーワールドカップ2019™ 及び東京2020大会の両大会に関する事項について円滑な推進を図るため、それぞれで専門委員会を設置し、各団体ごとに委員(専門委員)が選出された。

当委員会は、横浜ビジョンの実現に向けた取組に係る課題の整理や、対応策の検討について協議を行うことを目的に開催された(両専門委員会の構成団体及び委員の重複が多いことから、すべて合同で開催した)。また、委員へは適宜、大会関連の情報提供を行った。

専門部会

両大会の開催準備にあたり、民間団体との連携・協力が必要となる個別事項について、関係団体との連携調整、情報共有を行うため、2つの「専門部会」を設置した。医療救護検討部会は、横浜市医師会・横浜市病院協会からの推薦により選出された方及び市内医療機関の救命救急センター長で構成。競技会場内及び大会開催中の市内の医療体制について検討した(全9回開催)。

交通輸送検討部会は、神奈川県警察・道路管理者及び交通輸送関係団体及び各会場の施設管理者で構成され、観客輸送ルートの設定、広報など大会に向けた交通輸送全般について検討した(全13回開催)。

開催実績(専門委員会)

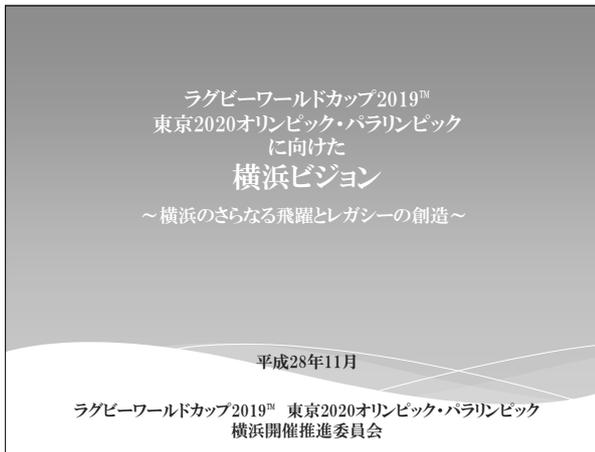
開催日	名称	会場
2017年7月5日	第一回合同委員会	ワークピア横浜
2018年3月26日	第二回合同委員会	ナビオス横浜
2018年8月31日	第三回合同委員会	ホテルメルパルク横浜
2019年3月26日	第四回合同委員会	ワークピア横浜
2020年4月3日*	第五回合同委員会	書面開催

※新型コロナウイルス感染症の影響により、通常開催から書面開催に変更し、4月3日に資料を送付

横浜ビジョン

両大会を契機に横浜の魅力・活力を世界に発信していくための横浜市の「基本姿勢」や「取組の柱」、「取組から生まれるレガシー」などを取りまとめたもので、2016年6月1日～30日に市民意見募集を実施し(意見数117件)、同年11月17日の設立総会において策定された。

横浜ビジョンでは、両大会に向けた横浜市の基本姿勢として右記の4つを掲げた。また基本姿勢に基づく、取組の柱を右記の4つとし、各取組から生まれるレガシーをまとめた。



基本姿勢

- オール横浜でラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックの成功に最大限貢献します。
- スポーツと文化芸術を両輪とした取組により、賑わいと活力を創出します。
- 世界中から様々な人々が訪れる両大会、とりわけパラリンピックを契機に誰もが互いに尊重し、支え合う共生社会の実現を目指します。
- 両大会に向けた取組の成果を「次の世代への贈り物(レガシー)」として遺し、横浜のさらなる飛躍につなげます。

取組の4つの柱

- ① 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし
- ② スポーツを通じて横浜を元気に
- ③ 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり
- ④ 横浜を世界に魅せる

←2016年11月に策定された横浜ビジョン



→2016年11月17日、ロイヤルホールヨコハマで行われた設立総会の様子



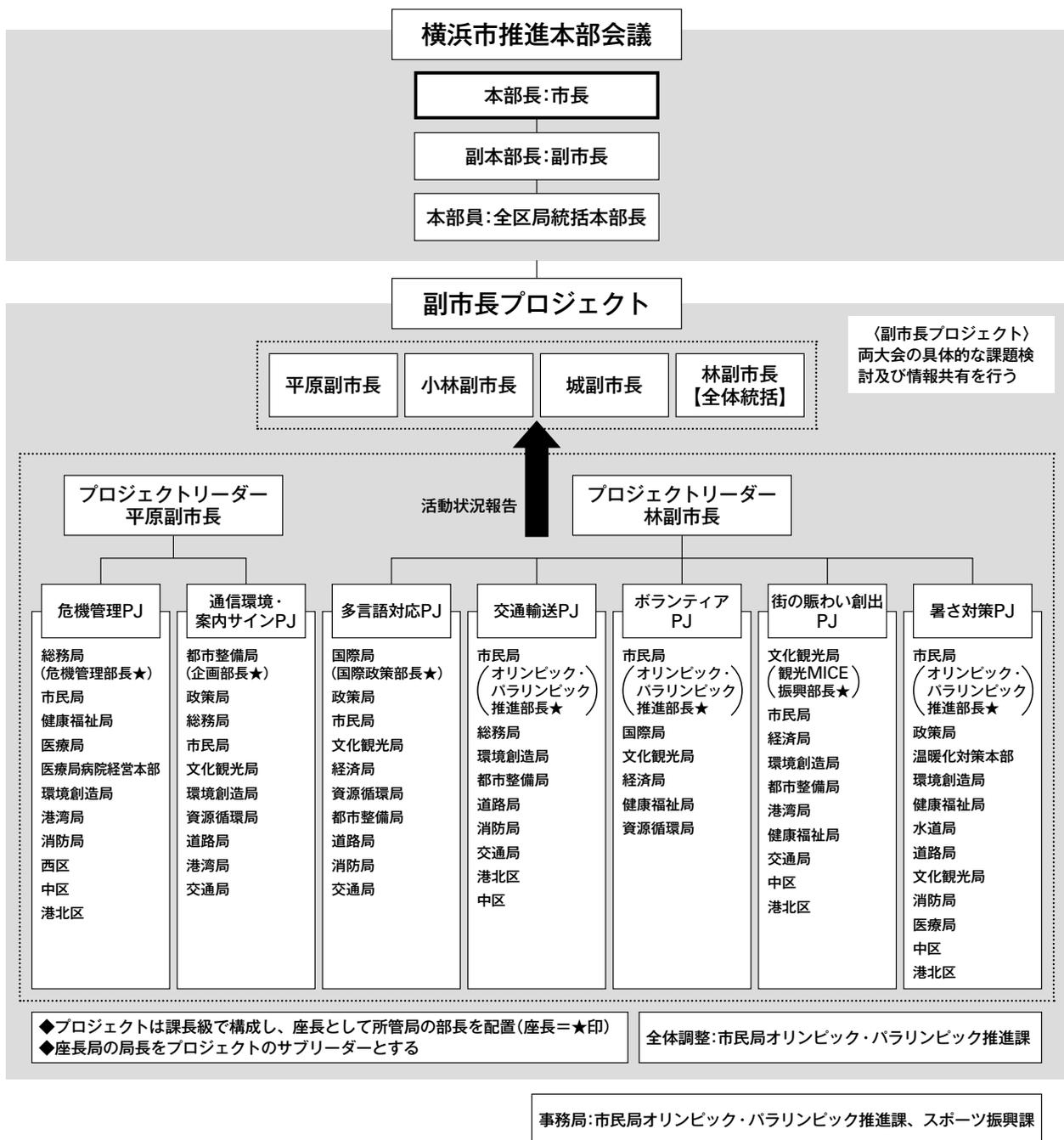
←2019年7月11日、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズで行われた合同総会の様子

② ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜市推進本部

市内推進組織として2016年4月25日に、「ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜市推進本部」を設置。両大会の成功に最大限協力するとともに、スポーツ振興を進め、文化・観光・MICEほかの取組を強め、国内外に横浜の魅力を発信した。加えて、横浜の魅力を高めていくための検討を進め、取組を実行していくことを目的とした。

推進本部内に市長を本部長、副市長を副本部長、技監、危機管理監、全区局長及び統括本部長を本部員とする「横浜市推進本部会議」を設置するとともに、大会運営などに係る個別テーマの検討及び情報共有を行う「副市長プロジェクト」を設置した。

推進本部 体系図(2020年4月時点)



副市長プロジェクト

	プロジェクト名	設置年月	役割等
1	危機管理PJ	2017年8月	各種災害対策(コロナ対策を含む)、救急医療体制、開催期間中の警戒体制等
2	通信環境・案内サインPJ	2016年7月	通信環境の整備、案内サインの多言語化
3	多言語対応PJ	2017年9月	案内サイン、飲食・宿泊等の観光サービス、通訳等ボランティアなど、様々な取組の横断的かつ統一感のある多言語化の推進
4	交通輸送PJ	2018年3月	両大会開催時等における交通・輸送対策の検討、計画の策定等
5	ボランティアPJ	2017年8月	ボランティアの活用方針や配置計画の策定等
6	街の賑わい創出PJ	2018年11月	両大会開催期間中の賑わい創出・経済活性化
7	暑さ対策PJ	2020年1月	会場周辺等における来街者の暑さ対策の検討実施

※「会場整備」及び「ファンゾーン」プロジェクトは、ラグビーワールドカップで主な取組を終了したため、令和元年度をもって廃止した

横浜市の取組

2017年4月の推進本部会議において、「横浜ビジョン」(P43参照)実現のために、横浜市が主体的に推進する必要がある取組を「ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜市の取組」として策定した。

「横浜市の取組」は状況の変化に対応しながら、毎年度更新。横浜市では、両大会の開催を契機に、スポーツ振興はもとより、文化芸術の振興、経済、教育分野、シティプロモーションなど幅広い取組により、次世代を担う子どもたちへの「贈り物」となるような有形無形のレガシーを遺していくことに努めた。

③ 市民局スポーツ統括室 オリンピック・パラリンピック推進部

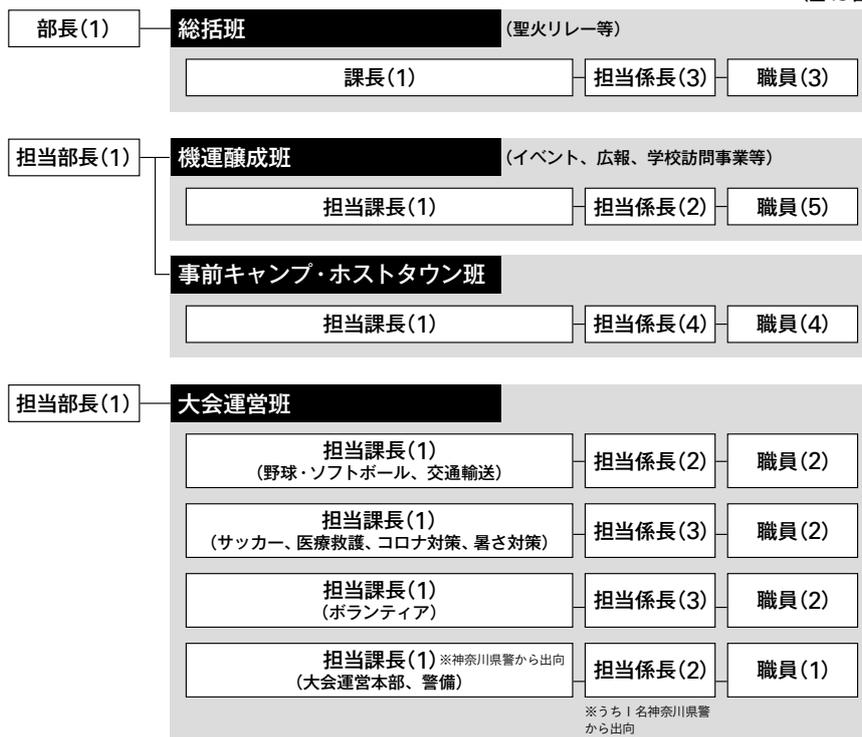
市民局スポーツ統括室内にオリンピック・パラリンピック推進部が設置され、東京2020大会関連施策に係る総合調整を行った。また、区局統括本部の関係各課長が「オリンピック・パラリンピック横浜市推進担当」を兼務し、横断的な組織体制で大会の成功に貢献した。

東京2020組織委員会へも係長級職員を派遣し、2021年度は13名(4月時点)が業務にあたった。

オリンピック・パラリンピック推進部 体制図

(2021年6月30日時点)

(全48名)



④ 東京2020オリンピック・パラリンピックを成功させる 横浜市会議員の会

東京2020大会の成功を目指して、2020年2月13日に「東京2020オリンピック・パラリンピックを成功させる横浜市会議員の会」を設立。大規模スポーツの大会運営に関する調査・研究や、議会・市民・行政が一丸となった大会機運を盛り上げるための取組推進を目的とした。

スケジュール

- 2020年2月13日 設立総会
- 2020年6月23日 新議場のオープニングセレモニーにおけるJOC山下泰裕会長の講演
- 2020年11月20日 横浜スタジアム、横浜国際総合競技場視察
- 2020年12月18日 橋本聖子東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣(当時)、JOC山下泰裕会長への表敬訪問及び要望活動
- 2021年10月22日 解散総会



←設立総会にて横山正人会長(当時)が挨拶

→新議場オープニングセレモニーにて、JOC山下泰裕会長が講演



↑横浜スタジアム視察の様子。同日、横浜国際総合競技場も訪れた



↑橋本聖子東京オリンピック・パラリンピック担当大臣(当時)を表敬訪問。コロナ対策を含む要望活動も行った



→解散総会にて清水富雄会長が挨拶→→東京2020組織委員会の中村英正ゲームズ・デリバリー・オフィサーによる講演で、大会の振り返りを行った



第2章

安全・安心な大会運営

横浜市では野球・ソフトボール、サッカー各競技を安全かつ円滑に開催・運営するため、東京2020組織委員会、警察、消防、交通事業者、医療機関などの関係各所と緊密に連携し、万全の体制を整えた。また、観客のおもてなしのため、各種事業の事前検討を進めたが、最終的には無観客開催等に伴い、縮小・中止を余儀なくされた。



大会運営本部・支部

新型コロナウイルス感染症の影響で無観客開催となり、来街者向けに準備していた案内デスクの設置や暑さ対策の実施、CCY(横浜市・都市ボランティア)活動などの中止を余儀なくされた。そのため、大会運営本部(現地支部)の活動は、主に大会運営に必要な都市情報(ライフラインや公衆衛生など)や危機事案などの情報を集約し、東京2020組織委員会や大会警戒本部(総務局危機管理室)、神奈川県などとの情報共有や連絡調整に特化する形となった。

大会期間中は、様々な情報伝達手段を活用して、迅速な情報共有を図った。また、競技会場内外の情報伝達要員として、東京2020組織委員会から大会運営本部に派遣された「自治体リエゾン」とも常時、情報共有・連携し、競技運営や台風接近時の対応など、不測の事態が起きても即応できる体制を整えた。

競技開催日における大会運営本部(現地支部)の設置場所に関しては、【関内地区】関内中央ビルと【新横浜地区】セブン&アイ・ホールディングス伊藤研修センター(以下「伊藤研修センター」という。)にそれぞれ設置した。

大会運営本部(現地支部)は、総括班(特命班を含む)、大会運営班(野球・ソフトボール班/サッカー班)、医療救護対策班(コロナ対策を含む)から構成された(P50記載の「横浜市の大会運営体制」参照)。

設置場所

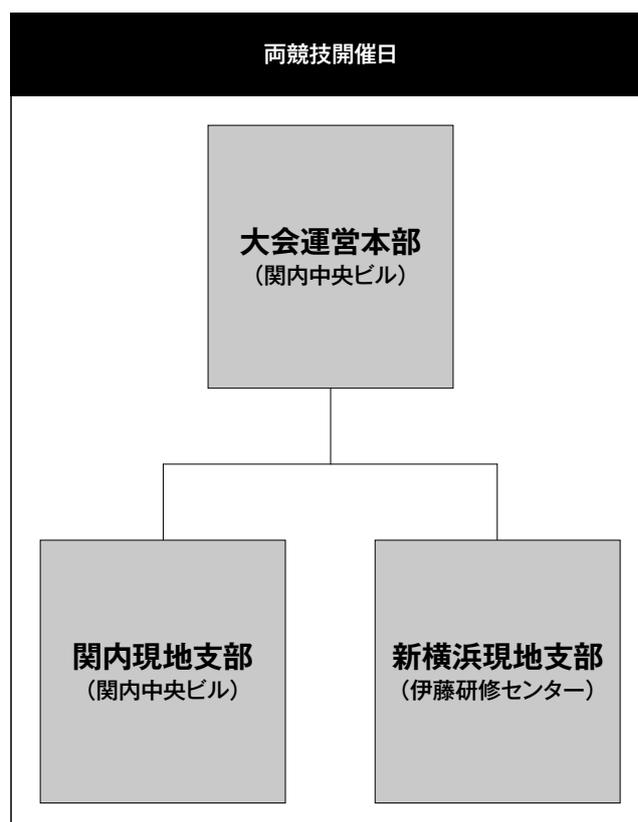
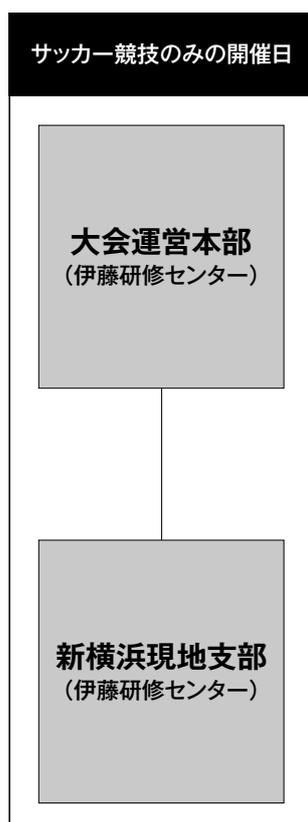
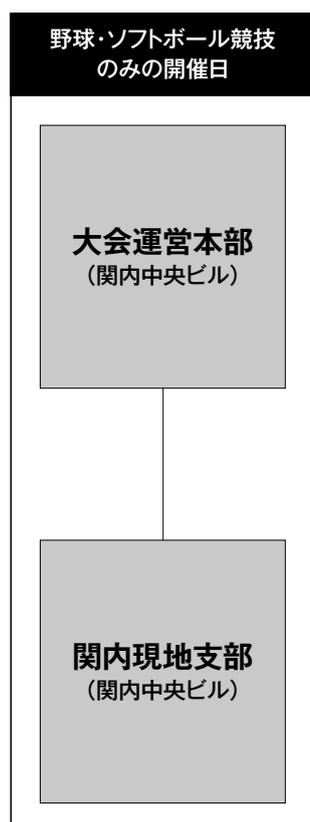
●関内中央ビル(関内地区)

●伊藤研修センター(新横浜地区)

※運営時間は、競技開始3時間前(サッカー競技は4時間前)から競技終了2時間後までを予定していたが、無観客開催に伴い、競技開始1時間前から競技終了1時間後までで実施した

大会運営本部の組織体制

※野球・ソフトボール競技のみ7日間、サッカー競技のみ3日間、両競技開催日6日間



サッカー女子決勝の会場変更への迅速な対応

8月6日のサッカー女子決勝(スウェーデン-カナダ)は、当初、オリンピックスタジアムで試合が予定されていたが、気温上昇による選手の健康への配慮、陸上競技による芝コンディションへの懸念から、急遽、横浜国際総合競技場でのナイター開催に変更された。

決勝前日の夕方に、東京2020組織委員会から大会運営本部に横浜開催の可否について確認の連絡が入った。危機管理体制や医療救護体制の確保に関して関係区局が対応可能であること、大会運営本部を伊藤研修センターに設置可能であることを確認し、開催可能と判断した。

決勝戦はPKまでもつれ込んだ試合となったが、最小限の人員体制で大きなトラブルなく無事に終えた。

総括

無観客開催となったが、大会運営本部として大会運営に必要な都市情報や危機事案などの情報を集約し、東京2020組織委員会や大会警戒本部、神奈川県などの情報共有や連絡調整を徹底して実施することができた。特に自治体リエゾンを通じて、競技会場内外の情報共有が行える体制を構築したことで、横浜市と東京2020組織委員会における連絡窓口として十分機能を果たすことができた。

また、医療機関などから大会関係者の新型コロナウイルス感染症や一般傷病に関する相談窓口として対応するため、医療救護対策班を配置し、24時間体制で東京2020組織委員会などの連絡・調整を迅速に行うことができた。

大会運営本部(現地支部)



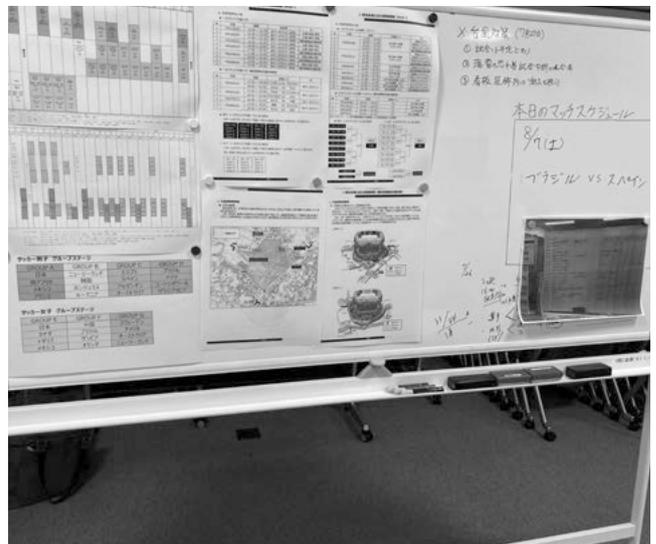
↑関内中央ビルに設置された大会運営本部(関内現地支部)



↑伊藤研修センターに設置された大会運営本部(新横浜現地支部)



↑両現地支部でモニターを使用して、開催試合の動向をチェック

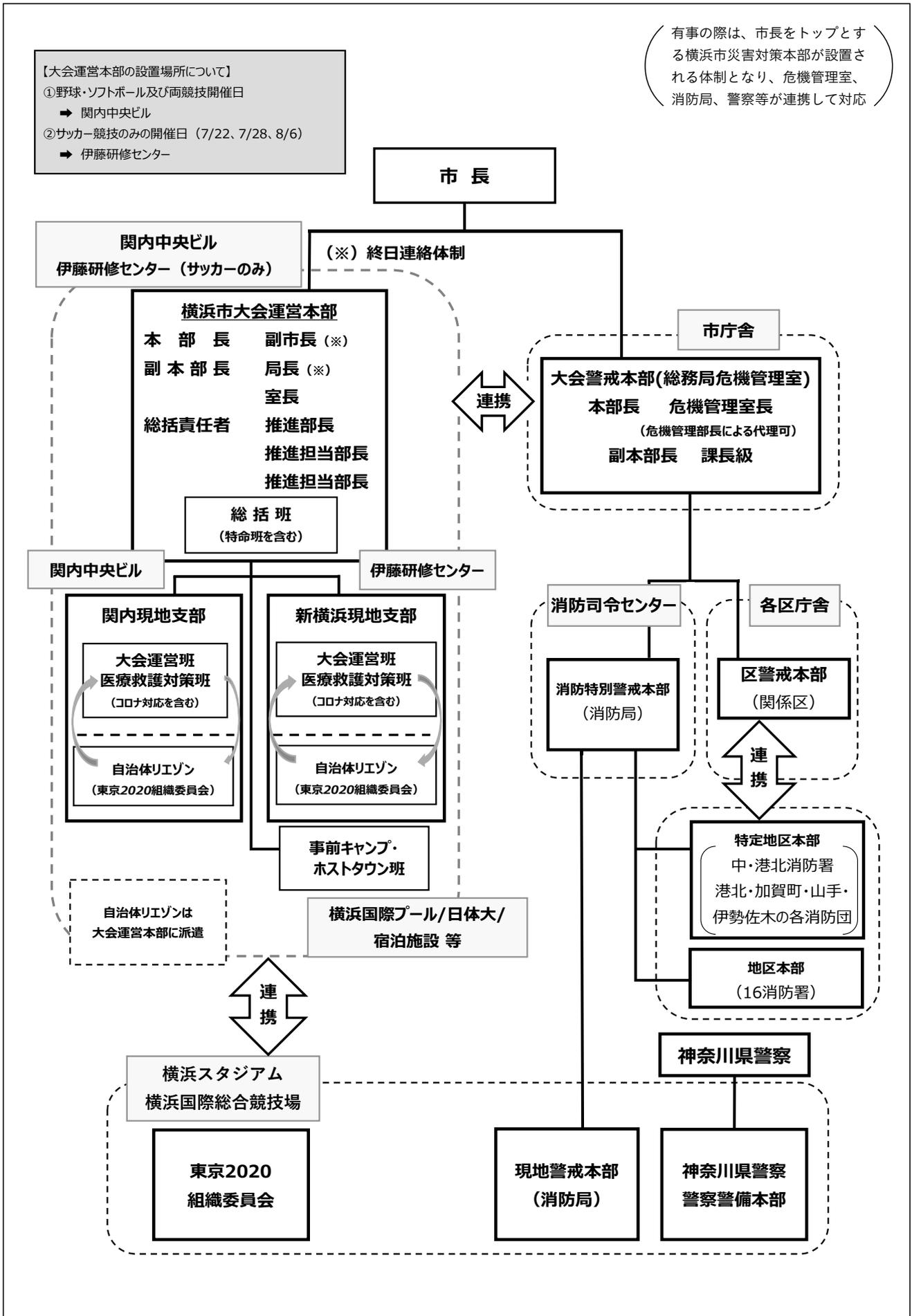


↑新横浜現地支部のサッカー男子決勝当日のホワイトボード

横浜市の大会運営体制



東京2020大会 組織体制全体イメージ図(試合開催)(平時)



ラストマイル

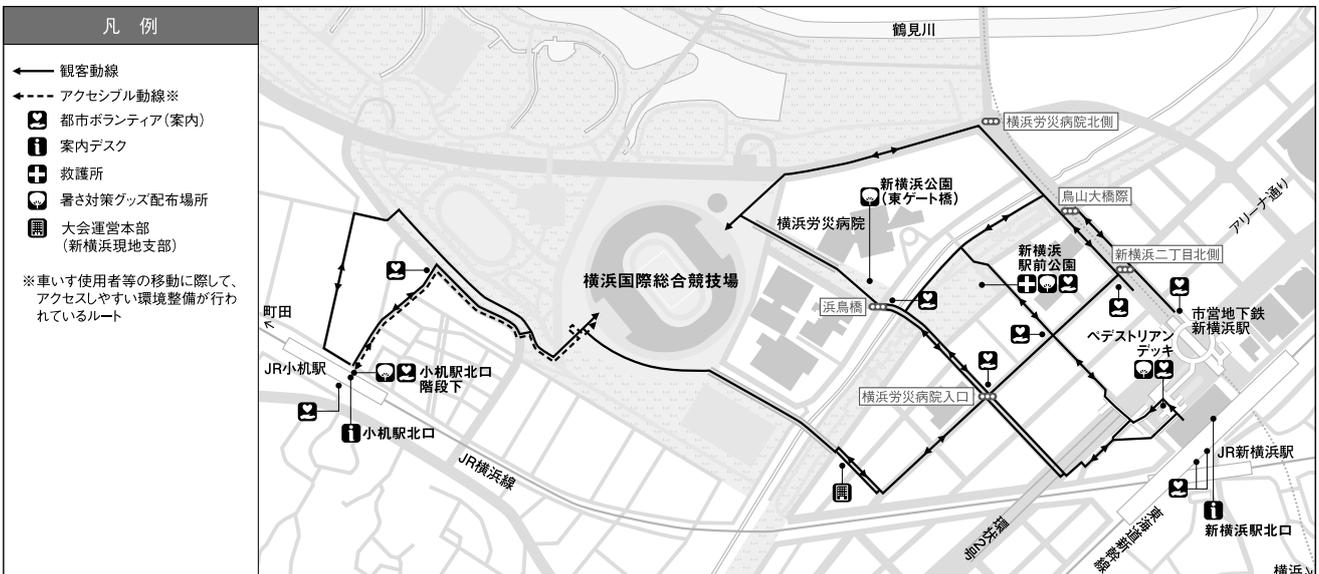
観客が競技会場の最寄り駅から競技会場まで入退場する経路がラストマイル。大会期間中は多くの来街者が集まり、相当な混雑が予想されるほか、日中の競技開催時には熱中症などの健康リスクも高まることから、案内デスクの設置や暑さ対策等、ラストマイル上で様々な取組を検討して、準備を進めた。しかしながら、無観客開催が決定されたことにより、ラストマイルでの取組の多くは中止となった。

各競技会場のラストマイルマップ

●横浜スタジアム



●横浜国際総合競技場



暑さ対策

大会期間中は多くの来街者が集まり、野球・ソフトボールが日中にも開催されるなど、熱中症などの健康リスクが高くなり、暑さ対策が求められた。競技会場外では、横浜市と東京2020組織委員会が積極的に連携して暑さ対策を検討。しかしながら、無観客開催が決定されたことにより、(2)の交通広告、(4)のその他の対策以外の対策はすべて中止となった。

情報提供・啓発

(1) ポスター・チラシ・Web配信など

熱中症注意喚起のポスター・チラシの配架を予定していた。東京2020大会横浜市ウェブサイトでは、競技会場に来場するにあたっての注意事項(水分補給、日差しを避けるなど)や、暑さ対策グッズの配布場所の情報を掲載する予定だった。

●ポスター

JR東日本各駅(横浜、関内、小机など12駅)、みなとみらい線(全駅)、市営地下鉄(一部の駅)、競技会場周辺のコンビニやドラッグストア(関内周辺15店舗、新横浜周辺13店舗)、区役所、スポーツセンターほか

●チラシ

市内ホテル(11か所)、観光案内所、案内デスク、市内PRボックスほか



→熱中症予防とコロナ感染防止のポスターイメージ

(2) 既存の情報媒体の活用

●交通広告

・市営地下鉄の車内デジタルメディアを使った熱中症注意喚起(健康福祉局)
・市営バスの接近表示及び市営地下鉄(ブルーライン)のテロップを使った熱中症注意喚起(健康福祉局)

→市営地下鉄の車内デジタルメディアのイメージ



●構内アナウンス

試合開催日に合わせた、駅構内(JR関内駅、みなとみらい線日本大通り駅、JR小机駅、JR新横浜駅)のアナウンスで熱中症の注意喚起(市民局)

大会当日における予防

(1) 暑さ対策グッズの配布や注意喚起

競技会場の最寄り駅前や暑さ対策グッズ配布場所にて、CCY(横浜市・都市ボランティア)によるグッズ(下写真参照)の配布を予定していた。また、大型のうちわ形式のパネルを作成し、熱中症への注意喚起の実施を予定していた。



↑横浜市PRポストカード(全5種、写真は三溪園)付きの冷却シート

→円形うちわ。表面は競技会場周辺MAP、裏面は熱中症と新型コロナウイルス感染症の注意喚起



←塩分補給対策として配布予定だった塩飴

→横浜市PRデザインパッケージのかわり水



(2) 重点実施場所

特に競技会場周辺にて重点的に暑さ対策を実施する場所については、関係各所から協力を得て、対策に取り組む予定だった。

(ア) 場所

- ・横浜スタジアム:旧市庁舎第二駐車場
- ・横浜国際総合競技場:新横浜駅前公園



↑旧市庁舎第二駐車場



↑新横浜駅前公園

(イ) 対策内容

- ・日よけテント・スポットクーラーの設置(東京2020組織委員会)
- ・冷却ミストの散布(水道局・パナソニック株式会社^{※1})
- ・冷却ミストやスポットクーラーの電源として燃料電池自動車(トヨタMIRAI)の使用(神奈川県オールトヨタ販売店等7社^{※1、2})

※1横浜市との連携協定締結事業者

※2神奈川トヨタ自動車株式会社、横浜トヨペット株式会社、トヨタカローラ神奈川株式会社、ネットトヨタ神奈川株式会社、株式会社トヨタレンタリース神奈川、株式会社トヨタレンタリース横浜、トヨタモビリティパーツ株式会社神奈川支社

(3) 観客向け休憩所

中区役所と調整し、来街者の休憩場所として、開港記念会館を活用する予定だった。また、文化観光局の協力を得て、休憩室内にて横浜市のPRポスターの掲示やPR動画の放映を予定していた。



↑開港記念会館

(4) その他の対策

両競技会場周辺や最寄り駅周辺、ラストマイル上の公園等において以下を実施した。

●横浜公園

樹木の育成による緑陰の形成(環境創造局)

●横浜公園周辺

街路樹育成による緑陰の形成(道路局、環境創造局)

●新横浜駅前公園

緑陰とミストによる暑熱緩和アーチの設置(環境創造局)

●新横浜駅周辺

街路樹育成による緑陰の形成(道路局、環境創造局)

●横浜国際総合競技場 東ゲート広場

フラクタル日よけの設置(環境創造局)

●JR新横浜駅ペDESTリアンデッキ

ミスト式冷却機(港北区)

大会当日における救護対応

東京2020組織委員会、消防局と協力して熱中症患者の発見・処置、救護所案内、救急搬送のフローを作成。東京2020組織委員会は関内の旧市庁舎第二駐車場内1か所、新横浜駅前公園内1か所に救護所の設置を検討した。

暑さ対策にあたっての新型コロナウイルス感染症への対応

暑さ対策グッズを配布するCCY(横浜市・都市ボランティア)は、活動前の検温、マスクの着用、定期的な手指消毒を徹底。グッズ配布時の対策は、来街者との接触を減らすため、お盆やかごに入れて配置し、手指消毒した上で希望者が自ら持っていく形式とする予定だった(東京2020組織委員会作成「新型コロナ対策分野別ガイドライン ラストマイル」に準拠)。

また、熱中症の注意喚起の内容を掲載したうち型パネルを掲げることで、来街者に対して大声を出さずに視覚的にメッセージを伝えようとした。

案内デスク

来街者へのおもてなしの一環として、CCY(横浜市・都市ボランティア)による競技会場への経路案内や観光案内などを目的とした案内デスクの設置(横浜スタジアム周辺3か所、横浜国際総合競技場周辺2か所)を予定していた。業務の実施に向けた事前準備として、「設営スケジュール」「事案別対応マニュアル」「緊急時対応」「問合せ対応用FAQ」等を記載した運営マニュアルの作成や配布物の調達など、具体的な準備を進めていた。

設置場所

●横浜スタジアム



↑JR関内駅南口



↑地下鉄関内駅の横浜スタジアム方面改札内



←みなとみらい線日本大通り駅三塔広場(出口2前)

●横浜国際総合競技場



↑JR新横浜駅中央改札前



↑JR小机駅北口

配布物

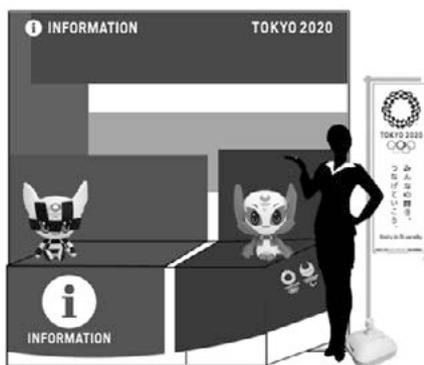
コロナ対策の観点から袋にパンフレット類を入れて観客へ配布予定だった。



↑左が袋の表面、右が袋の裏面



↑パンフレットの一例



←案内デスクのイメージ。大会PRや観光のチラシ、パンフレットも配布予定だった

総括

事前調整を通して、民間企業(ホテル、コンビニ、ドラッグストア、公共交通機関等)と協力して、実施する関係を築くことができた。また、関係区局が実施できる基本的な対策をまとめ、今後の大規模イベント時の基礎資料とすることができた。

美化対策

市内両競技会場のラストマイル上には、多数の来街者で混雑することが予想されたため、ごみ問題など美化対策についても東京2020組織委員会を交えて協議した。特に1日数試合が行われる日の美化対策については、関係各所が役割分担し、対応にあたる予定だった。

●資源循環局

試合当日の午前及び試合日の翌日の午前に、委託による清掃

●CCY(横浜市・都市ボランティア)

複数の試合がある日の試合と試合の間に、ボランティアによる清掃

●東京2020組織委員会

- ・誘導スタッフが休憩に入る前にごみ拾いし、各開催日の最終試合後に一斉清掃
- ・手荷物検査等によって入場待ちの時間が長くなることを想定し、旧市庁舎第二駐車場に仮設トイレを設置

喫煙対策

競技会場及び会場周辺に喫煙所を設置しない方針だったため、喫煙対策について東京2020組織委員会を交え、庁内関係部署と調整を行った。対策として、歩きタバコや吸い殻のポイ捨てを防止するために、資源循環局が会場周辺にマナー啓発員を委託で配置し、喫煙マナーの啓発や既存の公設喫煙所への案内を行う予定だった。

安全確認

CCY(横浜市・都市ボランティア)の活動状況の把握や危機事案発生時に迅速な対応がとれるよう、横浜市が管理している繁華街安心カメラを活用し、試合当日、両競技会場の現地支部にてそれぞれの会場周辺の安全確認を実施した。また、職員による巡視も適宜行った。

交通輸送

観客や選手をはじめとする大会関係者を競技会場まで安全かつ円滑に輸送する業務が、交通輸送。本大会においては無観客開催となったが、選手・大会関係者の輸送確保のため、競技会場周辺の一部で交通規制及び公園や一部施設の利用制限などを行った。また、それに伴う横浜スタジアム周辺を運行する市営バスや歩行者の迂回ルートが設けられ、市民をはじめとする利用者の皆様のご協力をいただいた。

交通規制

無観客開催により、当初予定していた規制が縮小され、選手・大会関係者が専用利用する部分のみ規制することになった。また、混雑緩和のために迂回エリアを設定し迂回を呼びかけたほか、道路工事の抑制についても関係区局へ協力を依頼し、約1か月の規制期間中に、大きな混乱もなく終了した。

横浜スタジアム周辺 2021年7月11日～8月9日

- ①旧市庁舎と横浜スタジアムとの間の関内駅南口交差点内にフェンスを設置し、大会関係者専用通路を確保。一部区間は終日車両通行止め及び歩行禁止。
- ②横浜スタジアムと首都高速道路の間の道路は、選手・大会関係者のバス乗降場所となるため、終日車両通行止め及び歩行禁止。
- ③首都高速横羽線横浜公園(上り)出口は通行止め。横浜公園(下り)の出口規制は大さん橋方面のみ通行可能とした。

横浜国際総合競技場周辺 2021年7月22日～8月7日

競技会場エリアに隣接している新横浜公園交差点の一部を規制した。ただし、小机地区は通行規制を予定していたが、無観客開催により実施しなかった。



↑横浜スタジアムー旧市庁舎間の交通規制



↑新横浜公園交差点で行われた交通規制

交通規制に伴う市営バス迂回

市営バスは7月11日から8月9日までの約1か月間、迂回ルートを行い、当該期間は一部バス停の位置も変更した(バス停の地下鉄関内駅は休止、港町は移設、横浜スタジアム前は本牧方面行のみ移設)。神奈川県警察による路上駐車取り締まりなども行い、概ね順調に運行することができた。



↑関内駅北口に設置した港町(仮設)バス停

公園の利用制限

7月23日～8月9日の間、横浜スタジアムが位置する横浜公園は終日立入禁止とした。

横浜国際総合競技場に隣接する新横浜公園は、試合日のみ有料施設(テニスコート・ドッグランなど)の利用を中止。共に大きな混乱もなく無事に終了した。



↑横浜公園利用制限(ハラスター入口交差点方面出入口)



↑横浜公園立ち入り制限のお知らせチラシ配布の様子

交通輸送

横浜スタジアム、横浜国際総合競技場ともに大きな混乱もなく、選手・大会関係者の輸送を実施した。



↑輸送ルートの一部(関内・本牧線)

広報活動

交通規制の詳細の内容については、6月中に競技会場周辺へのチラシのポスティングや、各町内会の掲示板などを通じて周知を呼びかけた。

東京2020大会横浜市ウェブサイト、横浜市LINE、「広報よこはま」6月号及び7月号などでも広く周知を行った。



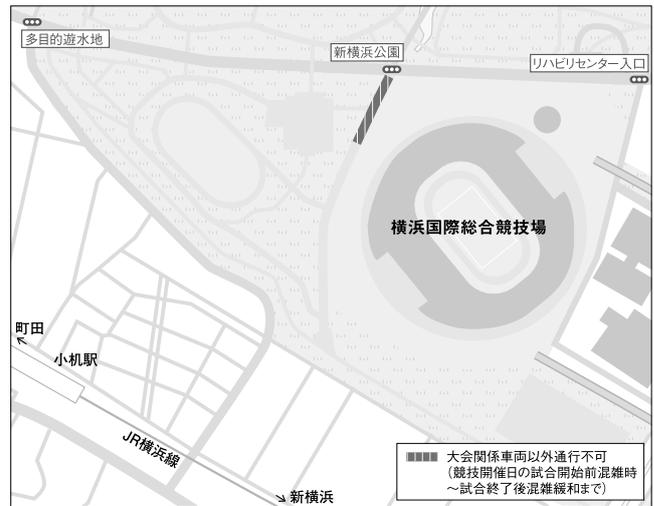
↑交通規制実施時の東京2020大会横浜市ウェブサイト

←横浜スタジアム用の交通規制のお知らせチラシ

横浜スタジアム 交通規制図



横浜国際総合競技場 交通規制図



横浜スタジアム 市営バス迂回図



横浜スタジアム 歩行者迂回図



危機管理・医療救護体制

危機管理

競技会場及び会場周辺などで危機事案が発生した場合に、迅速・的確な対応を行い、大会関係者や市民の安全を確保するため、全庁的に危機管理体制を確立して対応した。また、大会に関連する危機事案を未然に防止し、発生した場合に被害を最小限にとどめるための対処方針を迅速に決定する大会警戒本部体制の全体統括として、市庁舎に大会警戒本部を設置した。

体制

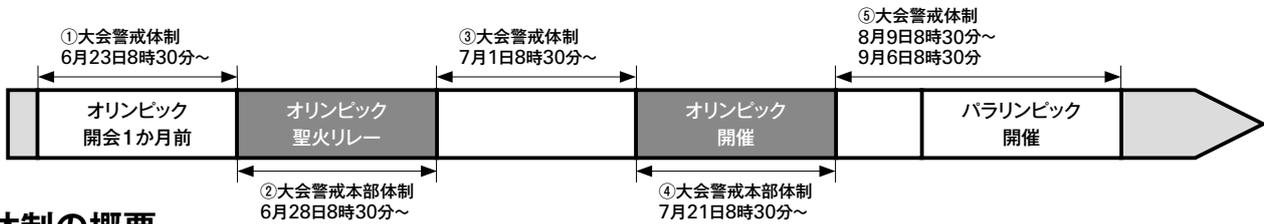
体制確立期間

大会警戒体制

大会警戒本部体制を確立する前に大会警戒体制を確立し、全庁的な危機管理体制の強化を図る。

大会警戒本部体制

大会開催期間を中心に、全庁的な体制を大会警戒体制から一段強化し、関係区局により大会警戒本部を設置するなど、あらゆる危機事案の未然防止と発生時の迅速・的確な対応体制を確立する。



体制の概要

組織	設置場所	構成区局
大会警戒本部	市庁舎本部運営室	総務局(市民局、健康福祉局、医療局、環境創造局、港湾局、消防局、中区、港北区) ※()は情報受伝達体制を確保した局
医療救護本部	市庁舎医療局執務室	医療局
消防特別警戒本部	消防司令センター	消防局
消防特別警戒現地本部	競技会場内	消防局
区大会警戒本部	各区役所内	中区、港北区

危機管理体制に従事した人員は、計16日間で総員1,903人。内訳は総務局計130人、医療局計124人、消防局計1,560人、中区計49人、港北区計40人だった

総括

ラグビーワールドカップ2019™の経験を踏まえ事前対策や危機管理体制について検討を重ね、万全な体制を確立できた。構成区局を始め、オブザーバーとして神奈川県、神奈川県警察、海上保安庁、東京2020組織委員会等関係機関の協力を仰いだ。本大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により市内競技会場では無観客開催となり、テロや熱中症の集団発生などの危機事案の発生もなく、無事に終了。ラグビーワールドカップ2019™、今大会の横浜市危機管理体制において得た経験を、将来横浜市で実施される大規模イベントなどにおける危機管理体制の構築に生かしていく。



←大会警戒本部ではモニターによる開催状況などの確認が行われた



→市庁舎本部運営室に設置された大会警戒本部

医療救護

大会の開催期間中に迅速かつ確実な医療サービスを提供するための医療救護体制構築等を検討することを目的に、市内の医療機関や東京2020組織委員会、行政の関連部局が連携して議論する場として医療救護検討部会を設置し、検討を重ねた。医療救護検討部会での検討は大会後の総括も含めて9回に及んだ。

庁内においては、大会警戒本部、消防特別警戒本部及び医療機関などと連携。大会関連施設などで多数の傷病者が発生した際には、医療機関での円滑な受け入れを図るため、医療局内に医療救護本部を設置した。

体制

市内競技会場の医療救護体制は、都内競技会場のように1会場を1医療機関で対応する体制ではなく、競技会場や練習会場、宿泊先からの傷病者の受入や、競技会場内の医務室への医療スタッフの派遣(下図参照)等、横浜市内の複数の医療機関が一体となって対応する体制(オール横浜体制)を敷いた。

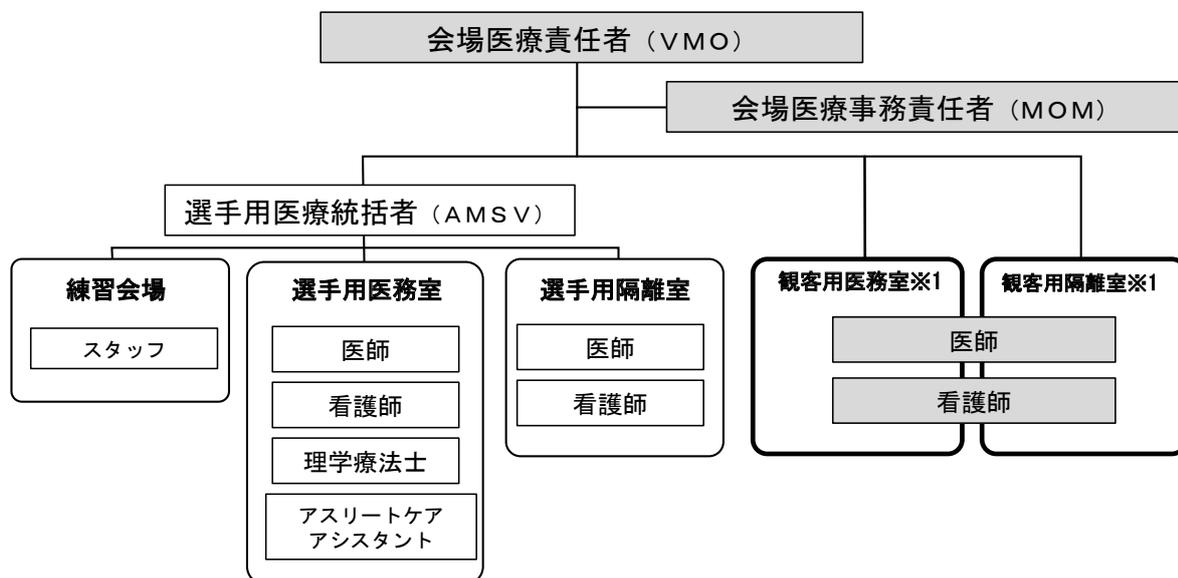
医療スタッフについては、28医療機関から医師30名、看護師60名が派遣される予定だったが、無観客開催の決定に伴い医師23名、看護師37名の体制となった(新型コロナウイルス感染症対策については、P61参照)。

総括

オール横浜体制で臨み、大きな問題もなく大会を終えることができた。また、1医療機関に負担が偏ることもなく、各医療機関からも概ね好評を得ることができた。特に会場医療事務責任者(MOM)を担うこととなった薬剤師の存在は大きかった。医療救護検討部会において、今後の横浜市で開催される大規模スポーツイベントでもオール横浜体制で臨んでいくことを確認した。

大会期間中の医療救護体制

グレー部分:横浜市から派遣や配置を行った部分



救急車：横浜スタジアム 3台（選手用1台、観客用1台※1、補完用1台）
横浜国際総合競技場 3台（選手用1台、観客用1台※1、補完用1台）※2

※1 無観客開催となったため、関係者用として活用

※2 8月6日女子サッカー決勝戦のみ2台（選手用1台、関係者用1台）

※競技会場内の医療救護体制図。横浜市内の複数の医療機関から派遣されたスタッフがそれぞれの役割を担った

食品衛生対策

大会開催中に飲食を原因とする健康被害が発生してしまうと、大会運営だけでなく市内外の公衆衛生維持に大きな影響を及ぼすことが考えられたため、健康福祉局食品衛生課及び福祉保健センターが一丸となって食品衛生対策を実施した。また、今大会は新型コロナウイルス感染症が流行している中での開催だったため、東京2020組織委員会等と綿密に情報共有し、感染対策に万全を期すことに加え、監視計画を常時見直しながら対策を進めた。

内容

大会開催前の対策として、弁当・ケータリングの製造施設、競技会場内調理場・売店、会場周辺の宿泊施設・商業施設・繁華街等の食品取扱施設に対し、302件の立入検査を実施した。また、会場周辺の飲食店等を中心に13,636件に対して食中毒予防等の啓発資料の配付を実施した。大会当日、市内競技会場は無観客となったが、調理場や弁当などの保管場所、会場周辺の立入検査を35件実施し、食の安全を確保した。

大会前の対策

2021年6月3日～7月21日

実施内容

- 会場周辺飲食店への屋外調理注意、食中毒・新型コロナウイルス予防啓発資料送付
- 宿泊施設への監視、収去、食中毒・新型コロナウイルス予防啓発資料送付
- 商業施設、繁華街への監視、食中毒・新型コロナウイルス予防啓発資料送付

実施結果

	対象施設数	監視件数	収去検体数	啓発資料配付枚数
弁当・ケータリング	8	11	10	2
競技会場内売店	45	34	0	22
競技会場周辺	1,317	0	0	4,991
宿泊施設	大規模	78	9	143
	ビジネスホテル	—	1	261
商業施設、繁華街	27*	247	0	8,217
計	—	302	10	13,636

※商業施設、繁華街の「対象施設数」のみワールドポーターズ、赤レンガ倉庫のような施設数を計上し、他対象は許可数を計上
 ※パブリックビューイングなど、東京2020大会に関連した食品提供イベントが開催された場合、監視等を行う予定だったが、開催されなかった

大会当日の対策

(1) 監視日時

横浜スタジアム:競技実施13日間のうち、3日間実施(7月24日、29日、8月3日)

横浜国際総合競技場:競技実施9日間のうち、2日間実施(7月22日、30日)*

*追加開催された8月6日の試合における食品提供事業者に対しては、電話にて食品提供状況の確認を行い、従事者の健康管理及び手洗いの徹底等を指導した

(2) 実施内容

競技会場内のケータリング提供施設、食品提供・保管場所、会場周辺の屋外調理等の各監視

(3) 実施結果

	対象施設数	監視件数	指導件数	備考
競技会場	ケータリング調理場	3	8	1
	食品提供、保管場所	19	24	1
商業施設、繁華街	—	3*	1	※会場周辺の繁華街を巡回した回数
計	—	35	3	

→横浜市健康福祉局食品衛生課発行の食品衛生対策のチラシ



新型コロナウイルス 感染症対策

国、東京都、東京2020組織委員会で構成される「新型コロナウイルス感染症対策調整会議」において総合的な検討、調整が行われた。横浜市においては、東京2020組織委員会や市内内外の関係者と連携・調整しながら、安全・安心な大会運営及び事業実施に向けて準備を進めた。

大会期間中の主な対策

国や東京2020組織委員会の定める主なコロナ対策が、選手・大会関係者などに実施された。出入国時の検査や原則14日間の宿泊施設待機といったプレイブックの基本原則をはじめ、行動管理、健康管理が徹底的に行われた。

(1) プレイブック(抜粋)

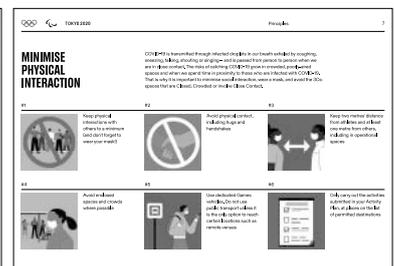
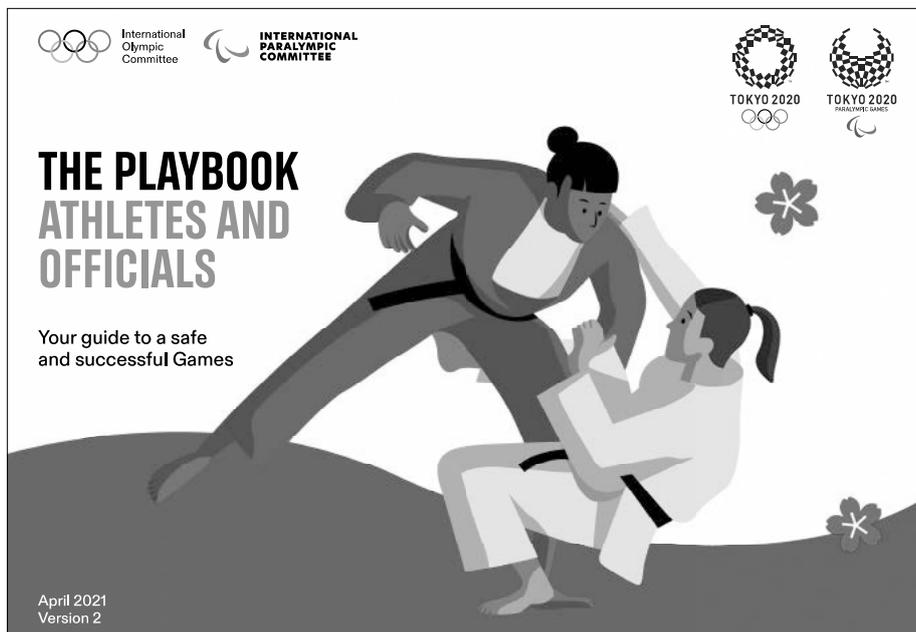
- ・ 出国前(96時間以内)に2回検査を受検(出国前[72時間以内]の陰性証明を検疫又は入国審査時に提出)
- ・ 入国時、空港において検査を受検(検査結果判明まで、指示した待機場所に留まる)
- ・ 入国後、大会関係者は、原則14日間宿泊施設で待機する。アスリートは、原則毎日検査を実施し、用務先を原則、宿泊施設、練習会場、競技会場に限定し、行動管理・健康管理を行うとともに、入国初日からの練習を認める

(2) 行動管理

- ・ 用務先(競技会場、練習会場など)と移動手段等を記載した本邦活動計画書を事前に提出
- ・ 行動計画書遵守させる旨の誓約書を提出など

(3) 健康管理

- ・ アプリ等による健康状態の報告など
- ・ 感染疑いを把握し、又は陽性判明時に陽性登録を行うため、接触確認アプリを利用
- ・ 陽性者が判明した場合、さかのぼって行動を確認するため、地図アプリで位置情報保存など

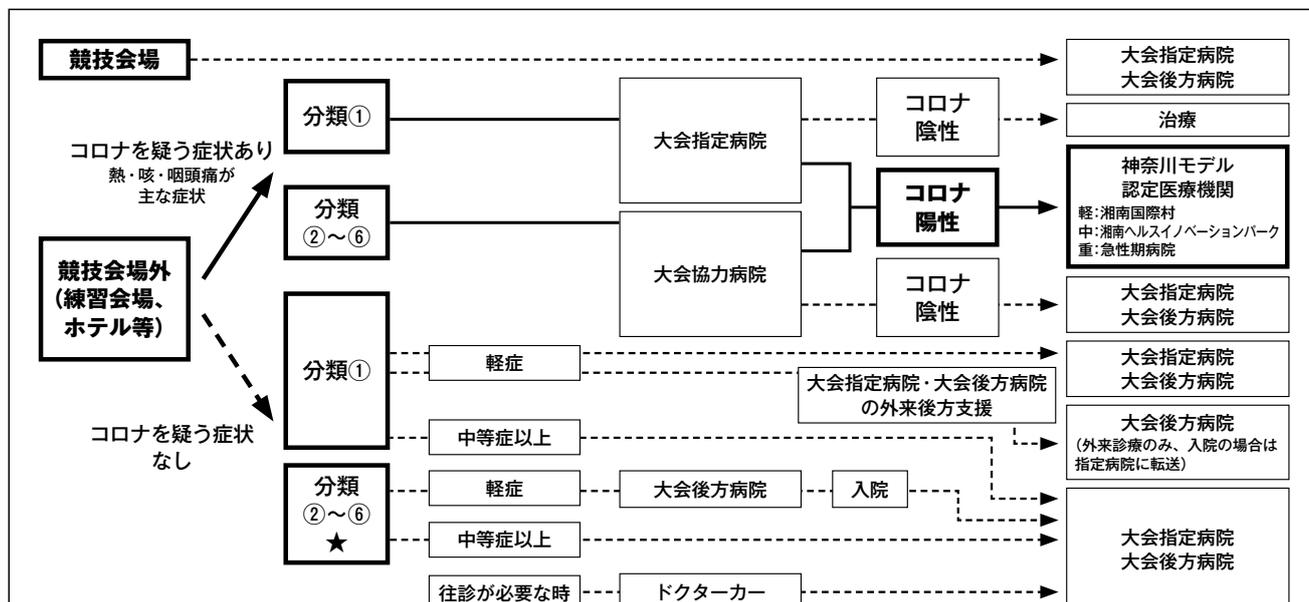


↑プレイブックにはアスリート向けのルールが記されている

↑2021年2月に初版、4月に第2版が公表されたプレイブック(英語版)

医療救護 大会関係者の一般傷病及び新型コロナウイルス感染者の対応体制

横浜市内の医療救護体制を維持しつつ、万全なコロナ対策を行うため、大会関係者の一般傷病については対応フローを分けた体制を構築。神奈川県や東京2020組織委員会と調整の上、体調不良が発生した場所、対象者の属する分類、症状ごとにそれぞれ受入を担う各医療機関を下図のように整理した。



★緊急性や受診の必要性に迷った際は対応を相談できる#7119を利用(オリンピック用の対応フローを用意)

上記図内の大会関係者の分類

分類 (アクレディテーションカード保持者)	
①	選手及び各国選手団
②	国際競技連盟(審判、技術役員、スタッフ等)
③	オリンピック・パラリンピックファミリー(国際オリンピック委員会及び国際パラリンピック委員会関係者、次回大会以降の組織委員会関係者、要人等)
④	メディア関係者(出版、カメラマン等)、放送関係者
⑤	マーケティングパートナー
⑥	大会スタッフ(東京2020組織委員会が雇用する有給スタッフ、委託先事業者の従業員及びボランティア等)

ボランティア関係者に対するワクチン接種

東京2020大会において横浜市で活動するボランティアなどの安全で安心な活動を実施するために、横浜市ボランティア関係者などに対して新型コロナウイルスワクチン接種を行った。ボランティア活動自体は中止になったが、職域接種を活用して接種を希望する1,212人に2回の接種を実施した。

- ①**実施日** 【1回目】7月13日～15日
【2回目】8月10日～12日、18日
- ②**実施会場** 関内中央ビル
- ③**実施対象者** 横浜市・都市ボランティア
英国事前キャンプ横浜市ボランティア
横浜市関係職員など
- ④**接種ワクチン** モデルナ製ワクチン



↑関内中央ビル内に設けられたワクチン接種会場

会場責任者インタビュー ～横浜スタジアム～

東京2020組織委員会
横浜スタジアム会場責任者

坂口裕之さん

プロフィール●ENEOS株式会社より東京2020組織委員会に出向し、横浜スタジアムの会場責任者を務める。選手時代は、バルセロナ1992オリンピック・野球日本代表で、銅メダル獲得。引退後は日本石油野球部監督、日本代表チームコーチなどを歴任。NHK高校野球の解説者なども務める。



開催前の取組について

2019年4月1日に東京2020組織委員会へ赴任し、横浜スタジアムのVGM（会場責任者）を拝命いたしました。私は、1992年のバルセロナ大会にアスリートとしてオリンピックへ出場した経験もありました。オリンピックへの思いは人一倍強く、日本で行われるこの大会を必ず成功させることを思いながら業務に取り組んでいました。

2020年3月に大会の延期が発表された時、予測を超える出来事が起こってしまい、変化対応に追われ、さらに1年延期でモチベーションを維持させなければならない多くの苦労を経験いたしました。その後も新型コロナウイルス感染症の脅威は収まらず、不安の中コロナ対策を講じながら、メンバーと日々、大会準備を進めていくことになりました。

大会が近づき、なんと無観客での開催となりました。お客さまの「おもてなし」のことを、何年もかけて考えてくれたメンバーの顔を思い浮かべましたら涙が止まりませんでした。

ソフト、野球の決勝会場に。大会中の取組

2021年7月21日に野球・ソフトボール競技は福島あづま球場でスタートしました。福島あづま球場でソフトボール競技の開幕試合をテレビで拝見した時に、喜びと嬉しさと緊張感に包まれました。

7月24日が横浜スタジアムでの開幕日です。ほどよい緊張感の中、大会は順調に進みました。大会期間中は、天候にも恵まれ、予定通りに7月27日にメダルマッチとなり、ソフトボール日本代表が見事に金メダルを獲得しました。勝利した瞬間に職員やフィールドキャストのメンバーが涙を流していて、その涙を見た時にオリンピックの偉大さ、スポーツの偉大さを再確認することができました。

7月28日から野球競技が福島あづま球場でスタート。翌日

の7月29日から横浜スタジアムでの野球競技が始まりました。こちらでも緊迫した試合が続き、息の抜けない毎日でした。天候に恵まれ順調に試合が進み、8月7日にメダルマッチになります。野球日本代表が見事に金メダルを獲得してくれました。メダルセレモニー後に日本代表の稲葉監督へ「おめでとうございます」と声をかけましたら「スタッフ、ボランティアの皆さんに本当にお世話になりました」との声が返ってきました。稲葉監督の気配りに感動し、勝つチームは選手とスタッフが一体となり、周囲からも共感を呼ぶチーム作りができるものだと実感いたしました。

大会期間中、多くのフィールドキャストの方にご参加いただきました。私はすべての方に「競技運営、大会運営の金メダルを獲得しましょう」と言葉をかけました。参加した皆さんが横浜スタジアムに来てよかった、この大会に参加してよかった、と言えるような活動をしましょうと言いつづけました。大会後に多くの方からお礼のメッセージをいただき、大会運営に携わった多くの方が大会運営の金メダルを獲得されたと感じました。

最後に

この大会を運営するにあたり、横浜市さんには大変お世話になりました。特に延期になった際の会場調整には多大なるご協力をいただきました。また、東京2020組織委員会に配属されました横浜市のメンバーは優秀な方ばかりで、大会への思いも強く、その方々の結束が大会成功につながったことは間違いありません。

横浜スタジアムさんにも大変お世話になりました。東京2020組織委員会からの依頼に対して、いつも快く迅速にご対応いただきましたし、大会期間中も多大なるサポートをいただきました。オリンピック仕様になった横浜スタジアムはベイスターズブルーが映え、オリンピックカラーとマッチし、IOCメンバーも球場の美しさに魅了されていました。

そのほかにも治安機関の方々は、大会期間中24時間体制で大会の安全を守っていただきましたし、医療機関の方々にはアスリート、大会関係者の体調管理をしていただきました。

多くの方々に支えられた東京2020大会は、大会に携わっていただいた方々が準備を滞りなく行い、心から大会の成功を信じ、粛々と取組んだことで無事に終えることができました。

結びに、ソフトボールと野球の日本代表が同時に金メダルを獲得したオリンピックは初めてのことです。ここ横浜市にレガシーとして残る大会になりました。アスリートに感謝し、横浜市さんに感謝し、大会を支えてくれたメンバーにも感謝しかありません。横浜で行われたこのオリンピックは、仲間の大切さを教えてくれた後世に残る素晴らしい大会でした。

会場責任者インタビュー ～横浜国際総合競技場～

東京2020組織委員会 サッカー統括
横浜国際総合競技場会場責任者

岸部明彦さん

プロフィール●パナソニック株式会社に勤務。大会期間中は東京2020組織委員会直接契約職員として横浜国際総合競技場の会場責任者を務める。これまでJリーグ・ガンバ大阪のホームスタジアムである、パナソニックスタジアム吹田の建設や、ガンバ大阪の運営に関わってきた。



開催前の取組について

2014年から、オリンピックトップスポンサーの立場でオリンピック・パラリンピックに関わり、2018年11月に東京2020組織委員会のサッカー統括、かつ横浜国際総合競技場の会場責任者を担当することになりました。Jリーグクラブチームへの出向経験を生かして、会場運営を任せたいと依頼を受けました。

サッカー競技の試合は男子16か国、女子12か国が出場し、日本全国7会場(オリンピックスタジアム・札幌・宮城・鹿島・埼玉・東京・横浜)にて58試合を予定していました。JFA(日本サッカー協会)・Jリーグ・Jリーグクラブ・地方サッカー協会の協力を得て、無事終了することができました。結果は男子がブラジル、女子はカナダが金メダルでした。

東京2020大会は真夏の酷暑と台風シーズンの開催であり、当初から準備が大変で、どこの会場でも暑さ対策が一番の課題でした。観客用の暑さ対策テントや冷風機の準備、学校連携生徒の動線の確保など、経費をにらみながら検討を重ねました。

横浜国際総合競技場は鶴見川に隣接した公園の中にあり、台風が来れば越水のため、地下駐車場に水が入り使えなくなります。その対応も必要でした。それにもまして開催が近づくとつれ、新型コロナウイルス感染症の患者数の拡大は深刻に。開催が危ぶまれましたが、大会の1週間前に無観客での開催が決定しました。

サッカー男女の決勝会場に。大会中の取組

私は、横浜国際総合競技場のVGM(会場責任者)として、チームスローガンを「THE BEST FINAL～ISY笑顔でお迎えしよう(Instantly we Say Yes with smile)」としました。2002FIFAワールドカップ™決勝、ラグビーワールドカップ2019™決勝、これらの大会に負けない素晴らしい東京2020大会サッカーの

決勝会場を、みんなで作り上げようとの思いからでした。

Jリーグの試合との関係もあり、会場入りは7月に入ってからでした。関係者全員の協力を得て、短期間で会場作りが急ピッチで進められました。大会準備を進めるにあたり、朝夕会で毎回チーム全員で以下の確認をしました。

- ①施設内ルールの順守(制限時速、喫煙、コロナ対策など)
- ②情報共有の徹底
- ③他者への気遣い、感謝

おかげさまで大会期間中は天候にも恵まれ、事故もなく無事終了することができました。

横浜市をはじめ、指定管理者、ボランティア、スタッフ、関係者の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。特にサッカー女子の決勝がオリンピックスタジアムから横浜国際総合競技場に変更になりました。前代未聞の会場変更の連絡を受けたのは、決勝前日(8月5日)の夕方7時でした。スタッフ全員に集合してもらい、開催可能か徹底議論しました。とはいえ、実行するしか結論はありませんでしたが…課題は明確でした。

- ①選手スタッフ医療体制の不足
- ②表彰式の準備不足(メダル、国旗掲揚、表彰台など)
- ③選手スタッフ食料準備不足

連絡を受けてから、スタッフ全員で深夜まで課題の解決に奮闘、翌日は全員寝不足ながらなんとか乗り切りました。ただ、試合は延長・PK戦までもつれ、ホテルに帰ったのが早朝4時だったのは幾分余計でした。翌日は男子決勝があり、延長戦までもつれました。ボランティアスタッフを含め全員くたくたになりながらも、終わった瞬間は達成感で一杯でした。

最後に

大会後、コロナ禍で全員が集まることはできませんが、この運営チームは最高のメンバーでした。いつかまた集まり苦労を語り合いたいと思います。最近のテレビ番組で東京2020大会のメダリストが活躍している姿を拝見し、無観客とはいえ開催をして良かったと感じています。

改めて、大会開催に多くの皆様のご協力をいただきましたことに、御礼申し上げます。スローガンのとおり、男女2試合の素晴らしい決勝を横浜国際総合競技場で開催できたことは一生の宝物です。次の世界大会でも、この会場が活躍の場になることを心から願っています。

第3章

CCYのあゆみ (横浜市・都市ボランティア)

東京2020大会に向け、約3年にわたり“横浜の顔”として入念な準備を重ねてきたCCY（横浜市・都市ボランティア）。無観客開催が決定し、残念ながら大会当日の活動は中止になってしまったが、ボランティアの輪、その精神は、これからも続いていく。



CCY(横浜市・都市ボランティア)

都市の「顔」として、国内外からの旅行者・観光客等を「おもてなしの心」を持ってお迎えするとともに、明るく、楽しい雰囲気以案内することで、大会を盛り上げる役割を担う都市ボランティア。横浜市では2018年9月に募集を開始し、2,500人程度の募集に対して5,834人が応募。抽選を行い当選した3,000人のうち、約2,700人がCCYとして、様々な研修を通じて大会に向けた準備を進めた。

しかし2020年3月24日、新型コロナウイルス感染症の影響で大会の1年延期が決定。その後もコロナ禍でのオンライン研修等を通じて準備を進めてきたが、2021年7月8日にオリンピックの無観客開催が決定したことをもってCCYの活動はすべて中止となった。

実際に活動することは叶わなかったが、先の見えない新型コロナウイルス感染症拡大の中、集合型の研修からオンラインを活用した動画配信での研修への切替えにも対応しながら習得した東京2020大会の精神やボランティア活動に役立つスキルなどは、大会終了後のレガシーとして新たなボランティア活動へつながっていく。

東京2020大会 ボランティア

東京2020大会のボランティアには、大会の運営をサポートする「Field Cast(大会ボランティア)」と、国内外から訪れる多くの観客をお迎えする「City Cast(都市ボランティア)」があり、大会の成功に向けて重要な役割を担うこととされていた。

Field Cast(大会ボランティア)

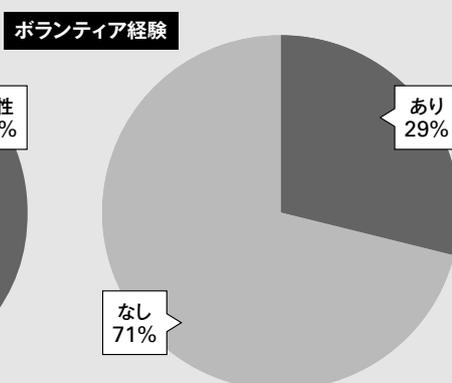
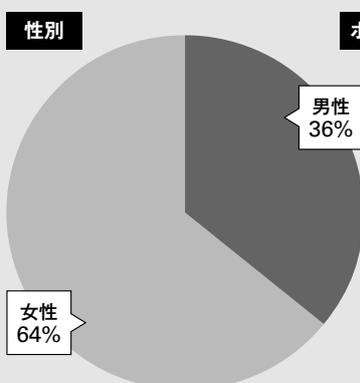
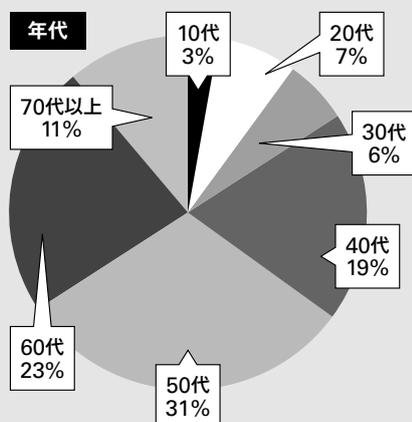
主に大会前後及び期間中、競技会場や選手村などの大会関係施設における案内・誘導など、大会運営において重要な役割を果たす。

City Cast(都市ボランティア)

都市の「顔」として、国内外からの旅行者・観光客等を「おもてなしの心」を持ってお迎えするとともに、明るく、楽しい雰囲気以案内することで、大会を盛り上げる。

City Cast Yokohama DATA

※2019年10月時点



幅広い世代、様々なバックグラウンド、強みを持つメンバーがチームで活動することを想定。

東京2020大会をきっかけにボランティア活動を初めて行う人が多くいた。

2018年

横浜市の基本方針の策定

「ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピックにおける横浜市ボランティア基本方針」を策定。

- 方針1 円滑な大会運営支援と来訪者へのおもてなし
- 方針2 質の高いおもてなしを提供できる人材育成
- 方針3 多様な参加者の活躍促進
- 方針4 両大会経験者の活動継続

横浜市・都市ボランティア募集

- 募集期間：9月12日～12月12日
- 募集人数：2,500人程度

募集PRイベント

- ・開催日：9月15日
- ・会場：クイーンズサークル
- ・ゲスト：西山 麗氏(北京2008オリンピックソフトボール 金メダリスト)

安全で円滑な大会運営を支援し、横浜を訪れる世界中の方々に『おもてなしの心』でお迎えする横浜市・都市ボランティアを募集(5,834人が応募)。「City Cast」のネーミングは、応募者による投票で決定。

2019年

オリエンテーション

- 開催日及び会場：
 - 5月25日、6月8日・9日 開港記念会館
 - 6月2日、7日、13日～15日 関内ホール
- メッセージビデオ出演：中澤佑二氏
(シドニー2000オリンピックサッカー男子 日本代表)

抽選に当選した3,000人を対象に、説明会・面談などを実施。CCYへの応募動機などを共有。



↑関内ホールで行われた説明会の模様

キックオフイベント

- 開催日：10月6日
- 会場：横浜文化体育館
- 主催者代表：横浜市副市長 小林一美
- ゲスト：立石 諒氏(ロンドン2012オリンピック競泳男子200m平泳ぎ 銅メダリスト)
花岡伸和氏(アテネ2004パラリンピック車いすマラソン男子6位入賞、ロンドン2012パラリンピック車いすマラソン男子5位入賞)
- ファシリテーター：工藤保子氏(大東文化大学スポーツ・健康科学部准教授)
- パネリスト：西川千春氏(公益財団法人 笹川スポーツ財団 特別研究員)
星野恭子氏(スポーツライター)
竹澤正剛氏(ボランティア経験者)

約2,100人のCCYが横浜文化体育館に集結。オリンピック・パラリンピアンによるトークショーでは、大会での思い出やエピソードを紹介。また、ボランティア経験者などによるパネルディスカッションでは、実際の活動に役立つ体験談など参考になる話を披露。

共通研修

- 開催日及び会場：
 - 11月16日・17日、12月6日 戸塚公会堂
 - 11月22日、30日 神奈川公会堂
 - 11月24日 西公会堂

すべてのCCYが参加した「共通研修」。東京2020大会に向けた横浜市の取組や、オリンピック・パラリンピックの歴史、大会ビジョン、東京2020大会の概要やCity Castの基礎知識などを、講義やクイズ、参加者同士の意見交換を通じて学習。また、会場ではCCYカード(写真入りボランティアカード)に使用する顔写真の撮影も実施。



↑研修当日に配付されたテキスト

2020年

任意研修①

※新型コロナウイルス感染症の影響により、2月22日以降の研修は中止、動画配信に切り替え

障害者サポート研修

- 開催日及び会場：
2月16日、3月15日 開港記念会館
- 講師：小田芳幸氏（横浜市総合リハビリテーションセンター自立支援部長）
宮地秀行氏（障害者スポーツ・文化センター横浜ラポール スポーツ課長）

障害者へのインタビューを通じて、不自由に感じている点や助かったサポート事例が紹介された。また、実際の車いすの誘導や、アイマスクを使用している介助などを体験し、最適なサポートを学んだ。

コミュニケーション研修

- 開催日及び会場：
2月22日 戸塚公会堂
3月 6日 鶴見公会堂
- 講師：橋本一郎氏（亜細亜大学 障がい者学生修学支援室支援コーディネーター）

ボランティア活動を円滑に行うために重要となるコミュニケーション。表情・ジェスチャーや「相手に伝えたい気持ち」などの非言語コミュニケーションや身近な気付きを通じたダイバーシティ（多様性）について考えた。

危機管理研修

- 開催日及び会場：
2月23日 旭公会堂
3月 6日 鶴見公会堂
- 講師：福島圭介氏（一般社団法人日本救急救命士協会副会長）
神保正裕氏（ALSOK東京株式会社 営業部営業課課長代理）

夏場の体調管理、熱中症への対策や、不審物・不審者の早期発見と対策など意識すべき点を実例で紹介し、すぐに実践できることを確認。また、ケーススタディを通じて、感染症予防のポイントや、不審物・不審者への対応などを学んだ。

東京2020大会開催延期決定、活動継続意向確認

2020年3月24日、東京2020大会の延期が決定された。大会が2021年に開催されることとなったため、CCYとして活動を継続してもらえるかについて、意向確認を実施。併せて、安心して活動できるよう、感染症や暑さへの対策等について検討を重ねた。

CCY通信 発行開始

大会の1年延期を受けて、大会に向けた準備状況や取組をCCYへ伝えるために、「City Cast Yokohama通信 (CCY通信)」の発行を開始。第1号を2020年7月に発行して以降、2021年10月まで隔月で発信を続けた。

任意研修②

語学×コミュニケーション研修

- 開催日：11月19日～
- 実施方法：動画配信によるオンライン研修
- 講師：西川千春氏（公益財団法人笹川スポーツ財団 特別研究員）

過去大会のボランティア経験者へのインタビューを通じて、外国人とのコミュニケーションについてのヒントを得た。英語によるケーススタディでは、「ちょっとした英語の言い回し」など、日常生活に役立つ内容を学んだ。

横浜市スポーツボランティアインタビューリレー

- 開催日：11月19日～
- 実施方法：動画配信によるオンライン研修
- ゲスト：市内開催のスポーツイベント等で活躍するボランティア7名

市内開催の大規模スポーツイベントや障害者スポーツでボランティアとして活躍する7名の方々へのインタビューから、ボランティア活動のヒントを得た。

横浜市スポーツボランティア インタビューリレー ～活動から得たレガシー～



※本収録は 出演者・スタッフともに感染症対策に配慮して撮影しています

↑スポーツボランティア経験者7名のインタビュー動画を配信

2021年

オンライン交流会

- 開催日：1月30日、2月2日
- 実施方法：ウェブ会議
- ファシリテーター：工藤保子氏(大東文化大学
スポーツ・健康科学部准教授、
特定非営利活動法人日本スポーツ
ボランティアネットワーク 講師)

東京2020大会が延期となり、集合型研修開催が難しい中「都市ボランティアをもっと楽しもう！」をテーマにオンライン交流会を開催。「あなたにとってのおもてなしとは?」「大会本番に向けた準備」など、ファシリテーターと参加者同士が双方向に意見交換を行った。

役割別研修

- 開催日：3月18日～
- 実施方法：動画配信によるオンライン研修
- ゲスト：立石 諒氏(ロンドン2012オリンピック
競泳男子200m平泳ぎ銅メダリスト)
花岡伸和氏(アテネ2004パラリンピック
車いすマラソン男子6位入賞、
ロンドン2012パラリンピック 車いすマラソン
男子5位入賞)

活動本番への準備として、CCYの役割や1日の活動の流れを、感染症や暑さ対策の観点も踏まえて確認。スペシャルゲストのオリンピック、パラリンピアンから“活動に向けたエール”が送られる。新型コロナウイルス感染症拡大後、初めての必須研修を動画配信により実施し、本研修以降、研修で使用するテキスト類は、動画配信開始までにCCYの自宅等へ配送した。

リーダーシップ研修

- 開催日：6月4日～
- 実施方法：動画配信によるオンライン研修
- ゲスト：中竹竜二氏(公益財団法人日本ラグビー
フットボール協会 理事)

ボランティアリーダーの役割と「サポート型のリーダーシップ」を実践するためのコミュニケーションのポイントについて確認。スペシャルゲストの元・早稲田大学ラグビー蹴球部監督の中竹竜二氏から、多様なメンバーがいるチームでのリーダーシップの発揮について学んだ。

フォローアップ研修

- 開催日：6月16日、19日
- 実施方法：ウェブ会議
- ファシリテーター：竹澤正剛氏(特定非営利活動
法人日本スポーツボランティア
ネットワーク 講師)

任意参加のボランティアリーダー向けのフォローアップ研修を開催。多様なボランティアのメンバーとの活動に向けて、「活動当日、初対面で緊張しているメンバー同士の緊張感をどのように解き、チームを盛り上げますか?」など、実践的なテーマで意見交換。リーダー同士の交流の場ともなった。

ライブサイト・パブリックビューイング中止決定

大会期間中に横浜市内での開催が予定されていた「東京2020ライブサイト」、「コミュニティライブサイト」及び「パブリックビューイング」は、コロナ対策の観点から、6月11日に中止を決定。これにより、「イベント補助」でのCCYの活動は中止となり、新たな役割や日程等について急ぎで検討。決定次第CCYへ連絡することとなった。

ユニフォーム配付

City Castのユニフォームは、暑さ対策、持続可能性、多様性の観点から、様々な年代、性別の方が快適に活動できるよう開発され、大会カラーである「藍」と、エンブレムの「組市松紋」をあしらうことで、一体感を醸成するデザインが採用された。CCYへの配付にあたっては、感染症予防の観点から、配送により自宅等に届けられた。

- 暑さ対策 ▷吸汗速乾性や通気性を実現する素材
- 持続可能性▷再生ポリエステル材等を取り入れ環境へ配慮
- 多様性 ▷性別を問わないシルエットと幅広いサイズ展開



活動場所別研修

- 開催日及び会場：
6月20日、22日、25日・26日 関内中央ビル
6月21日、27日 伊藤研修センター

活動本番前最後の研修として、活動エリアごとに集合型の研修を開催。研修当日は「CCYカード」「CCYハンドブック」など、活動に必要な備品も配付。研修終了後、「音声ガイド」を使い、各自で活動予定エリアの各ポイントを実際に確認した。

東京2020オリンピック 無観客開催決定、活動中止決定

緊急事態宣言中である7月8日深夜に、五者協議及び関係自治体等連絡協議会が開催され、1都3県で実施される競技については無観客による開催とすることが正式に発表された。これに伴い、CCYの活動はすべて中止となった。

大会期間中に予定していた 役割と活動場所

大会期間中は「案内」「美化推進」「事務局補助」「イベント補助」の4つの役割で、競技会場周辺やイベント会場、ラストマイル上などでの活動を予定。活動にあたっては、感染症対策、暑さ対策を行い、ハンドブックや健康管理表も活用予定だった。

- 案内：競技会場周辺や最寄り駅などで、観客を案内
- 美化推進：清掃活動を通じて国内外からの観客をきれいな街でお迎えする
- 事務局補助：ボランティア事務局をサポートする
- イベント補助：大会期間中に開催されるライブサイト・パブリックビューイングにおいて案内などを行う

※具体的な活動場所の想定はP52参照

City Cast Yokohamaの活動	
1日の流れ(例)	
活動開始前	12:00 チェックイン 受付、検温、健康管理表の確認、備品の受け取り
	12:00~13:00 フリーフィング スタッフ・メンバーとの顔合わせ役割・休憩の確認
活動中	13:00~13:45 活動 役割ごとの活動
	13:45~14:30 休憩
	14:30~15:15 活動 ボランティアリーダーやディレクターへの報告・連絡・相談
	15:15~16:00 休憩
	16:00~16:45 活動 休憩の取替、体調確認
活動終了後	16:45~17:15 チェックアウト ボランティアリーダーやディレクターからの撤収指示、備品返却など
上記の流れはあくまで一例です。チェックインからチェックアウトまでの時間は活動役割や日程によって異なりますが、最長で4時間15分、最長で7時間30分程度となる予定です。	
※活動時間と休憩時間は原則同程度とっていただく予定です。(活動場所、役割によって変更となる場合があります)	

City Cast Yokohama感謝会

- 開催日：10月16日
- 会場：パシフィコ横浜ノース、ライブ配信
- 参加人数：約700人(うち、約100人は配信で参加)
- 主催者代表：横浜市長 山中竹春
- ゲスト：文田健一郎選手(東京2020オリンピックレスリング男子 グレコローマンスタイル 60kg級 銀メダル)
屋比久翔平選手(東京2020オリンピックレスリング男子 グレコローマンスタイル 77kg級 銅メダル)
富田宇宙選手(東京2020パラリンピック水泳男子 400m自由形 S11銀メダル、水泳男子100mバタフライ S11 銀メダル、水泳男子200m個人メドレー SM11 銅メダル)
- ファシリテーター：花岡伸和氏(アテネ2004・ロンドン2012パラリンピック陸上競技 車いすマラソン 日本代表、競技解説者)
- パネリスト：星野恭子氏(スポーツライター)
竹澤正剛氏(ボランティア経験者)
新田祐己氏(ボランティア経験者)

大会に向けて、約3年にわたり準備をともに進めてきたCCYへの感謝を込めて、感謝会を開催。参加者はCity Castのユニフォームを着用し、「ボランティアジャーニー」を締めくくる時間を多くの仲間と共有した。オリンピック・パラリンピアンによるトークセッションでは、コロナ禍での練習の難しさなど、選手本人からの貴重な話も。

また、感謝会当日の運営ボランティアを募ったところ、定員を大幅に超える申込が。当日は抽選で当選したCCYが、受付や検温、会場までの案内等で活躍した。

なお同日、「横浜市スポーツ栄誉賞贈呈式」も開催され、東京2020大会でメダルを獲得した横浜市ゆかりの選手22名に、横浜市スポーツ栄誉賞が贈呈された。



←CCY代表の2名に、市長から感謝状と記念品の目録が手渡された



→運営ボランティアが活動している様子

City Cast Yokohama インタビュー

大会本番に向けて、約3年間にわたり研修等の準備を進めてきた「City Cast Yokohama」。無観客開催により残念ながら大会期のボランティア活動はできなかったが、研修等を通じてさまざまな学びがあり、今後もボランティア活動を続けたいという声も多かった。「City Cast Yokohama」を代表して、5名の皆さんに率直な感想を聞いた。



↑配付されたユニフォームを着て満面の笑みを見せた5名。大会を終えた様々な思いを胸に、それぞれが「これからもボランティア活動を続けたい」と話したのが印象的だった



鈴木隆司さん

今後もいろいろなボランティアを

オリンピックが日本で開かれ、しかも横浜でも行われるなんて、一生に一回のことでしょうし、また海外や日本の様々な地域から来られる方を迎え入れたいと思い、都市ボランティアに応募しました。最初のキックオフイベントで言われた「私は輝く」と、「ボランティアジャーニーの始まりです」という言葉に、とても共鳴しました。

私は横浜スタジアム近くの事務局補助という役割だったのですが、自主的に関内エリアをかなり歩きました。特にAEDやコンビニ、ドラッグストア、多目的トイレがどこにあるかを調べ、自分で専用の地図も作って大会に備えました。今後は、横浜マラソンのボランティアは毎回参加しているので、続く限りはやりたいのと、パラ神奈川SCという車いすバスケットボールチームがあるのを知りまして、そのボランティアや、防災関連にも関わっていきたいと思っています。



坂本欣也さん

選手を応援する気持ちがより強く

世界中の方に、横浜市民は歓迎しているよという気持ちを伝えたいと思い、この都市ボランティアに参加しました。研修では最後に行った「これから頑張るぞ!」という集会で、気持ちも上がりましたし、その中で運営のボランティアもさせていただいたので印象に残っています。また、知り合いからボランティアのテキストをもらったり、街のガイドブックや英会話のテキストを読んだり、あとはテレビでの英会話の番組なども見るようにして、イメージを膨らませていました。

応募してみて、実際の活動は中止になりましたが、選手の皆さんをより応援する気持ちが強くなったことは良かったですね。スポーツの見方も変わりました。今後もやはりスポーツボランティアを続けていきたいですし、時間が許すなら介護や福祉、また環境問題にも興味がありますので、そういったボランティアもあれば、ぜひやってみたいですね。



横山美恵さん

知らない情報や考え方がためになった

海外旅行に行って困ったことがあったら、現地の方が助けてくださったことも多かったので、今回はそれをお返ししたいという気持ちで応募させていただきました。日本に来て困っている外国の方や、日本の方でもそういった方がいたら助けてあげたくて、その方とのつながりも楽しみたいと思っていました。研修では、いろんなボランティアの方と交流できるオンライン交流会が好きでしたね。皆さんが今、どういう準備をしているかということも聞けて助かりました。

この都市ボランティアに参加してみて、いろいろな方と話しますと、自分の知らない情報や考え方なども知ることができて、とてもためになったことが良かったですね。現在も、別のボランティアをしています。これからスポーツボランティアは続けていきたい。私の得意なことは、大きな声を出せることなので、受付業務などを元気にやりたいです。



伊藤祐子さん

応募を機によく歩くように

横浜マラソンのボランティアをしているので、最初はマラソン競技でと思っていたのですが、フィールドキャストの締め切りが過ぎてしまい(笑)。それでも何かに関わりたいと思い、この「City Cast Yokohama」に応募しました。

最初のキックオフイベントで経験者の話を聞いているうちに、とてつもない(規模が大きい)ところに来てしまったなと思ったのが印象的でした。応募してからは、大会が真夏なので体力を付けたいと思い、なるべく空いた時間にウォーキングをするようにしました。ボランティアも体力勝負ですし、他のボランティアの方にも迷惑を掛けたくないのでからね。

そのおかげで今もよく歩くようになりました。また、これからはコロナ関係の検査など、新しいお手伝いも増えますので、そういう方面でも勉強していきたいです。今後もマラソンのボランティアを中心にやっていければと思います。



水野直樹さん

「オープン横浜」の気持ちを大切に

自分が生きているうちにはもうないであろう、オリンピックに参加したいということと、他の地域から訪れる方をハッピー気質でお出迎えしたいと思い応募しました。車いすの方への接し方など、技術的なことを多く学ばせていただいたことは、とても有益でしたし、参加してみて良かったです。

研修をする中で「オープン横浜」の気持ちを大切に、来てくださる方には丁寧に、言葉遣いなどもきちんとやっていかなければいけないことを再認識できたのは、とてもありがたかったです。いろいろな研修を通じて学びが多かったですし、世代を超えて皆さんと接することができ、その考え方などにも触れられて、とても自分のためになりました。今後は、地域に根差したボランティアや、横浜マラソンなどのスポーツイベントにももっと参加していき、今回学ばせていただいたことを発揮できればいいな、と思っています。

第4章

横浜から 大会を盛り上げる

東京2020大会開催の機運醸成や開催競技のPRなどを目的に、2017年から節目ごとに開催までのカウントダウンを実施してきた。また、子どもたちがオリンピック・パラリンピアンと直接触れ合う取組やSNSを活用した情報発信などを通じて、市全体で開催ムードを盛り上げていった。



イベント

2017年9月に開催した「東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー」を皮切りに、節目ごとに多彩なゲストも交えて様々なイベントを行い、大会の機運醸成や開催競技のPR、スポーツ振興に取り組んできた。また、同じく野球・ソフトボール競技の開催自治体である福島県とも連携し、定期的な交流を行った。

2020年3月の新型コロナウイルス感染症の影響による開催延期以降も、オンラインを活用したイベントを積極的に実施。さらに大会終了後には、企画展やアスリート感謝会など、振り返りイベントも開催した。

大会開催前 2017~2020

2017年

東京2020オリンピック・ パラリンピック フラッグツアー (9月3日~12日)

オリンピックとパラリンピックのフラッグが全国を巡回。横浜市内は神奈川県庁本庁舎正門前を会場に、三浦大輔さん(元野球代表)がフラッグアンバサダーとして神奈川県知事・横浜市長・藤沢市長へフラッグを引き継ぎ、その後区役所などを回った。引継式では、三浦さんのトークショーや神奈川県警察音楽隊による演奏などのステージイベントも行われた。



←旧市庁舎に飾られた
オリンピック・パラ
リンピックのフラッグ

東京2020 オリンピック・パラリンピック 1000日前キャンペーン in 横浜 (10月28日、11月4日、25日)

開催1000日前を記念するキャンペーン。10月28日は横浜赤レンガ倉庫で開催された横浜マラソンEXPOステージにおいて山田恵里選手・泉礼花選手・岡村奈々選手(ソフトボール)や監督ら5人によるトークショー、11月4日は横浜国際総合競技場でのラグビー日本代表戦の開催に合わせたPRブース出展を行った。また、11月25日には福島県の子どもたちを招待し、

横浜スタジアムで横浜市の子どもたちと野球の親善試合を行ったほか、ゲストの中畑清さん・三浦大輔さん(元野球代表)、室伏広治さん(元ハンマー投代表/東京2020組織委員会スポーツ局長)によるトークショーも行った。



←ラグビー日本代表戦
で出展したPRブース。
東京2020組織委員会
とともにSNSでの魅力
発信を促進した

2018年

横浜にオリンピックがやってくる! 【Tokyo 2020 2 Years to Go!】 in Yokohama (8月4日)

クイーンズスクエア横浜を会場に、2年前を記念して開催。三浦大輔さん(元野球代表)と山口宏さん(横浜市体育協会会長)の対談や、北原照久さん(大会マスコット審査会メンバー)のトークショーを実施したほか、大会マスコットパネルのフォトスポットや、審判員ファッションショー、オリジナル缶バッジ作り、フォトモザイクアート撮影会など、ステージから体験ブースまで盛りだくさん。パラリンピック競技のポッチャの体験会なども行われた。



←英国事前キャン
プをPRするステー
ジも行われ、開催
当日は約3,800人が
会場に訪れた

ジャパンウォーク in YOKOHAMA 2018秋

(11月10日)

東京2020大会を盛り上げ、障害の有無に関わらず誰もがともに暮らす社会を目指すきっかけ作りとして、大勢のオリンピック・パラリンピアンと一緒に歩き、触れ合うウォーキングイベントを開催(横浜市は共催として参画)。象の鼻パークを発着地として、12km、8km、4kmの3コースが設定され、松田丈志さん(元競泳代表)、田口亜希さん(元パラ射撃代表)ら29人が伴走した。



←大会マスコットのミライトワ、ソメイティも応援に駆け付けた

2019年

500日前セレモニー in 横浜

(3月12日)

東京2020オリンピック開催500日前から、サッカー競技会場の横浜国際総合競技場の大型ビジョン(浜島橋交差点前)で、カウントダウンを開始。それを記念し、遠藤彰弘さん(元サッカー代表)や若山英史選手(車いすラグビー)が参加し、除幕式を行った。



←当日は地元自治会町内会長や太鼓チームも登壇・出演し、にぎわった

500 Days to Go! フェスティバル ～東京2020開催まであと500日!～

(3月16日)

新横浜公園一帯で行われた開催500日前イベント。ステージでは、港北区舞踊団の皆さんによる「東京五輪音頭-2020-」や、アルケミストと岡村小学校の児童の合唱など、多彩なコンテンツが披露された。また、車いすバスケ体験や、タンDEM自転車体験、陸上競技用車いす速度測定などパラスポーツの体験ブースも用意。秋田豊さん(元サッカー代表)、上與那原寛和選手(パラ陸上競技)、篠原信一さん(元柔道代表)、寺田明日香選手(陸上競技)らも登壇。



←Foarinによる「パプリカ」などのステージが行われ、来場者を楽しませた

フラワーフォトスポット ～Welcome to TOKYO2020～

(4月13日～6月2日)

「ガーデンネックレス横浜」と連携し、東京2020パラリンピック開催500日前から期間限定で開港広場公園に花壇を設置。初日のお披露目式には内野洋平選手(自転車BMX)と円尾敦子選手(パラトライアスロン)も駆け付け、盛り上げた。また、最終日には、花壇の花を活用した「写し染めワークショップ」を開催。「写し染めワークショップ」は里山ガーデン(旭区)においても、近隣学校と連携して小学生に体験してもらった。



←初日のお披露目式には内野洋平選手と円尾敦子選手が登壇。内野選手の自転車パフォーマンスも披露された

1 Year to Go! フェスティバル ～東京2020開催まであと1年!～ in 横浜市

(7月13日)

横浜スタジアムで行われた開催1年前イベント。第1部では、山田恵里選手(ソフトボール)、河合来夢選手(ブレイクダンス)、本堂杏実選手(パラアルペンスキー)、田口亜希さん(元パラ射撃代表)らが登壇し、アスリートならではの過去大会での経験や今後の意気込みなどを語った。第2部の大盆踊り大会では、ミライトワ、ソメイティらによる「東京五輪音頭-2020-」のほか、市内全18区の舞踊団体らによる地域独自の盆踊りなどが披露された。また、ブースではBaseball5体験やボッチャ体験、ブラインドサッカー体験なども行われた。



←イベントの告知ポスター



←多くの大会パートナー企業も参加し、グラウンドを全面的に使用した大規模イベントとなった

~Tokyo 2020 Paralympic Games 1 Year to Go!~ 1年前記念イベント in 神奈川 (8月17日)

東京2020パラリンピック開催1年前を記念し、横浜赤レンガ倉庫で神奈川県とともに開催。森末慎二さん(元体操代表)、益子直美さん(元バレーボール代表)、三阪洋行さん(元車いすラグビー代表)、葭原滋男さん(元パラ陸上競技代表)、田口亜希さん(元パラ射撃代表)、丸山桂里奈さん(元サッカー代表)ら大勢のアスリートによるトークショーのほか、ダンスパフォーマンスショーや書道パフォーマンスショー、パラスポーツデモンストレーションや体験イベントなどを行った。



←イベントの告知ポスター

2019 ASOBALL体験会 (11月16日)

東京2020オリンピックのソフトボールの開催盛り上げイベント。野球・ソフトボール未経験の市立小学校の親子を対象に、スポンジ製のバットとボールを使い、投げる・打つなどベースボールの基本動作を学ぶ、親子参加型の球技体験会を横浜スタジアムで開催。同日開催の日本女子ソフトボールリーグ1部・決勝トーナメントの試合後に行われた。参加者は元街小学校、本町小学校(中区)の1・2年生の親子24組48名。参加者の親子が初めての球技体験を楽しんでいた。



←参加者の親子たちが、スポンジ製のボールを持って笑顔でポーズ!

→初めてのキャッチボールを体験。皆が思い思いに一生懸命投げている



~みんなでソフトJAPANを 応援しよう!~ソフトボール女子 日本代表ふれあいフェスティバル (11月19日)

オリンピック競技のソフトボールの機運を盛り上げるイベント。立野小学校(中区)の6年生約90名と、英国コヴェントリー市の10歳~11歳の児童10名、横浜商業高等学校の生徒10名らが、ソフトボール女子日本代表とソフトボール体験会や、4チーム対抗玉入れ大会などを実施。子どもたちからソフトボール女子日本代表の選手たちへ質問や、オリンピックへのエールを送った。最後は参加者全員でフォトセッションも行っなど、思い出深いイベントになった。



←参加者全員で記念撮影も行った。子どもたちにとっては絶好の体験機会となった

→ソフトボール女子日本代表選手による、子どもたちとのソフトボールの体験会



2020年

200 Days to Go! フェスティバル in 横浜市 ~東京2020開催まであと200日!~ (1月25日)

開催200日前を記念して行ったイベント。中澤佑二さん(元サッカー代表)、具志堅幸司さん(元体操代表)、森田淳悟さん(元バレーボール代表)、富田宇宙選手(パラ水泳)、兎澤朋美選手(パラ陸上競技)など、様々なアスリートが登壇し、オリンピック・パラリンピックの思い出や意気込みなどを話した。併せてパラスポーツ体験や、聖火リレートーチ展示なども行われ、当日約30,000人が会場を訪れた。



←イベントの告知チラシ

大会延期決定後 2020~2021

2020年

今、スポーツにできること in 横浜。for Tokyo2020

(7月23日、8月24日)

大会延期後、初の本格的なイベントをオンラインで実施。石川佳純選手(卓球)、上田藍選手(トライアスロン)、入江聖奈選手(ボクシング)、兎澤朋美選手(パラ陸上競技)、古澤拓也選手(車いすバスケットボール)、清原奈侑選手(ソフトボール)らによるメッセージや、子どもたちから選手に向けたエールなどを配信した。また、コスモクロック21では特別ライトアップも行った。



←ももいろクローバーZの高城れにさんをスペシャルコメンテーターに迎えて配信した

250 Days to Go! オンラインフェスティバル for Tokyo2020 in 横浜

(11月15日~2021年1月4日)

開催250日前を記念するオンラインキャンペーン。市内のオリンピック競技会場である横浜スタジアムと横浜国際総合競技場の内部や学校での取組を紹介する動画、上原大祐さん(元パラアイスホッケー代表)や、栗栖良依さん(パラ・クリエイティブプロデューサー/ディレクター)らのトークショーやオンライン講座などを配信した。



←キャンペーンのコアイベントの発信拠点となった横浜ハンマーヘッドには、大会パートナー企業の関係者らも集まった

2021年

100日前キャンペーン in 横浜

(4月14日~5月16日)

開催100日前を記念するキャンペーン。市庁舎では、東京2020公式アートポスター全20作品の展示や、金澤翔子さん(書家)、鴻池朋子さん(アーティスト)、佐藤卓さん(グラフィックデザイナー)、野老朝雄さん(美術家)、山口晃さん(画家)ら、横浜に縁のあるポスター制作者5名のメッセージ動画の

放映・配信などを行った。また、東京2020オリンピック100日前の4月14日と、東京2020パラリンピック100日前の5月16日には、横浜スタジアムや横浜国際総合競技場などで特別ライトアップも行い、医療従事者らへの感謝の気持ちと、横浜スタジアムで開催される「野球・ソフトボール」を応援する気持ちを表現した。



←施設の協力を得て、市内各所でライトアップを実施した

神奈川県・横浜市ゆかり選手 オンライン壮行会

(6月19日)

東京2020大会に出場が内定した、神奈川県・横浜市にゆかりのある選手を対象とした壮行会を、神奈川県とともにオンラインで開催。須長由季選手(セーリング代表)や荒川龍太選手(ボート代表)、日向楓選手(パラ水泳代表)とのライブ中継のほか、ゲストとして中畑清さん(元野球代表)、大日方邦子さん(元パラアルペンスキー代表)、田中理恵さん(元体操代表)らが出演。多くのアスリートから届いたメッセージを紹介した。



←イベントの告知チラシ

フォトゲイニングで横浜めぐり ~もうすぐ横浜に オリンピックがやってくる!~

(7月4日)

時間内にチェックポイントを回って写真を撮り、得点を重ねるスポーツ「フォトゲイニング」。みなとみらい駅が発着地となり、オリンピック競技会場の横浜スタジアムや横浜国際総合競技場をはじめ、1964年東京オリンピック聖火リレーコースなど、オリンピック・パラリンピックにまつわる市内の名所がチェックポイントとなった。



←イベントの告知チラシ

大会期間中 2021

2021年

オリンピックシンボルを活用した 大型モニュメント設置

(6月29日~8月8日)

高さ約6m、幅約9.5mの鉄骨製のオリンピックシンボルを使った巨大なモニュメントを赤レンガパークに設置。横浜港大さん橋客船ターミナルに停泊する大型客船とのコラボレーションも楽しめ、写真に収める人が多かった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で緊急事態宣言が発出されるまで(~8月1日)は、夜間は19時から白く発光するライトアップと、オリンピックシンボルの5色(青・黄・黒・緑・赤)での水面照射を行い、遠距離からでも際立って光る景色がよく見えた。幻想的で、昼とはまた違う雰囲気が醸し出されていた。



↑大さん橋から見たオリンピックシンボル

©Tokyo 2020



↑夕方のライトアップ。開催地の横浜ならではの光景

©Tokyo 2020

「動くスポーツピクトグラム」を 活用したライトアップ

(7月23日~8月1日)

みなとみらい21エリアの象徴であるコスモクロック21を活用し、「動くスポーツピクトグラム」のライトアップを実施。緊急事態宣言の発出に伴い、終了日が8月8日から短縮されたが、オリンピック全33競技のピクトグラムが種目ごとの象徴的な動作を再現し、躍動感にあふれた様子は、多くの人の心に刻まれた。動くスポーツピクトグラムは、東京2020組織委

員会がオリンピック33競技50種類、パラリンピック22競技23種類を、オリンピック・パラリンピック史上初めて作成した。



←ライトアップされたピクトグラムを動画撮影し、SNSに投稿する人が続出した

横浜スポーツガーデン 市庁舎内アトリウム展示

(7月21日~8月8日、8月24日~9月5日)

市庁舎内の1階にあるアトリウムで開催。スポーツアートやフォトモザイクアートなどの体験、体感、展示を通してスポーツや横浜の魅力を再発見するイベント。東京2020オリンピック聖火のライブ映像配信や、スポーツをテーマとしたアート作品展示などを行った。このほか大会パートナー企業の協力により、巨大なメガホンモニュメントの展示や、大会での選手の活躍を速報で紹介するデジタル報道写真展も行われた。



↑側面に選手への応援メッセージが装飾された巨大メガフォン



↑金メダル獲得と大活躍したソフトボール競技の号外や山田恵里選手の等身大パネルを展示

大会期間後 2021

2021年

東京2020大会関連企画展 (報道写真展・特別展・巡回展) (9月7日～12月28日)

東京2020大会の感動や興奮を改めて感じてもらえるよう、大会を振り返る企画展を開催。メダルラッシュに沸いた選手の活躍を中心に展示する報道写真やオリンピック聖火リレートーチ、事前キャンプをした選手団のサイン入り横断幕、各競技の各国代表選手サイン入りユニフォーム、野球・ソフトボール競技で実際に使用されたベースの展示などを実施した。9月7日～17日の市庁舎を皮切りに、12月28日までその一部が各区を巡回した。



←事前キャンプを行った英国などの記念写真やサイン入り横断幕などが飾られた



←実際に走行したランナーが着用したユニフォームとともに展示された聖火リレートーチ

神奈川・横浜アスリート感謝会 ～おうちから ARIGATOを届けよう!～ (9月26日)

コロナ禍で開催された東京2020大会で、多くの勇気と希望を与えてくれた神奈川県・横浜市にゆかりのある選手に対し、感謝の声を伝えるとともに、選手が大会に挑んだ思いに迫るオンラインイベントを神奈川県と開催。金メダリストの山田恵里選手(ソフトボール)、銀メダリストの富田宇宙選手(パラ水泳)、古澤拓也選手・鳥海連志選手(車いすバスケットボール)が出演。記念すべき自国開催となった今大会に懸けた思いなどを選手自身が語ってくれた。



←中澤佑二さん(元サッカー代表)と畠山愛理さん(元新体操代表)もゲストとして出演し、選手からよりリアルな感想を引き出した

福島県との交流

横浜市と同じく野球・ソフトボール競技の開催自治体である福島県と連携することで、震災復興支援にも寄与できるよう取り組んできた。東京2020組織委員会主催イベントに共同でブース出展したほか、両自治体の小・中学生がそれぞれを訪問し、交流試合などを行った。

2017年

東京2020 オリンピック・パラリンピック 1000日前キャンペーン in 横浜(第3弾) (11月25日)

横浜スタジアムで行った、東京2020オリンピック競技種目である野球をPRするためのイベント。JX-ENEOS野球部を招いての野球教室の開催や、笹篠賢治さん・G.G.佐藤さん(元野球代表)らとのキャッチボール企画、さらに中畑清さん・三浦大輔さん(元野球代表)、室伏広治さん(元ハンマー投代表/東京2020組織委員会スポーツ局長)のトークショーなど、野球への関心を高める様々なイベントを開催した。



↑野球教室やアスリートとの練習など貴重な体験の場となった

2019年

東京2020オリンピック 開幕300日前イベント (10月5日)

横浜市と同じく野球・ソフトボール開催地の福島県で行った300日前イベント。横浜市の女子中学生15名が同県を訪問し、地元の子どもたちとソフトボールを実施。また、田端健児さん(元陸上競技代表)、堀畑裕也さん(元水泳代表)、佐藤寿治さん(元体操代表)、田中琴乃さん(元新体操代表)、荻原次晴さん(元スキー代表)、勅使川原郁恵さん(元スケート代表)のトークショーも開催。

市内18区との連携

東京2020大会の開催に向けて、18区においても、イベントでの競技体験コーナーの設置や、パネルやのぼり旗などの広報ツールを活用した開催PRブースの出展等を通じて、機運醸成に取り組んだ。また、オリンピック・パラリンピアンをゲストに招いたスポーツ教室を開催するとともに、国際理解や障害理解をテーマとした講演会を行うなど、大会を契機とした一層のスポーツ振興や共生社会実現にも取り組んだ。

18区のイベント・取組(一例)

2017年度から2021年度にかけて区ごとに工夫を凝らし、さまざまな取組が行われた。ここではその一部を紹介する。

●鶴見区



フォトモザイクアートを活用したラッピングバスが、区内を巡回走行した(2021年度)

●神奈川区



オリンピックを講師としたバスケットボール講座を開催した(2017年度)

●西区



壁面装飾など区庁舎にフォトスポットを設置し、インスタグラムでの投稿を促進した(2021年度)

●中区



地元プロ野球チームOBコーチらを講師とするキッズベースボールクリニックを開催した(2021年度)

●南区



きれいな街で来訪者をお迎えしようと、地域住民や事業者などが区内全域にわたって清掃した(2019年度)

●港南区



区のイベント内でオリンピック競技であるスポーツクライミングを体験できるコーナーを設置した(2019年度)

●保土ヶ谷区



マラソン大会においてオリンピックによる「走り方講座」を開催した(2018年度)

●旭区



パラリンピック競技であるポッチャを体験できるイベントを開催した
(2020年度)

●磯子区



エレベーターへのラッピングや横断幕の掲出で区庁舎内を装飾した
(2020年度)

●金沢区



オリンピックやパラアスリートをゲストにトークショーを開催した
(2020年度)

●港北区



文化・芸術を通じた障害理解の促進として聴覚障害者向け人形劇を開催した
(2019年度)

●緑区



1964年の東京パラリンピック大会記録映画を上映し、NHK解説委員によるトークが行われた
(2021年度)

●青葉区



区のブックフェスタにおいてオリンピック競技に関連する特設図書コーナーを設置した
(2020年度)

●都筑区



ボランティアに焦点を当てた国際理解講座を開催した
(2019年度)

●戸塚区



元野球日本代表の監督をゲストに招き、トークショーを行った
(2019年度)

●栄区



おもてなしをテーマとした、トークショーとパネルディスカッションを行った
(2019年度)

●泉区



区のイベントにおいて、大会関連物品の展示などを行うレガシーブースを出展した
(2021年度)

●瀬谷区



オリンピックを講師として「かけっこ教室」を開催した
(2019年度)

学校と連携した取組

東京2020大会の開催を契機に市内のスポーツ振興を図り、大会への機運を高めるため、子どもたちがオリンピック・パラリンピアンやパラアスリートと直接触れ合う事業を実施した。

2014年度から市立小・中学校などでオリンピック・パラリンピアンによる学校訪問事業を始めたほか、2018年度からはスポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業[※]」を受託し、市立学校でのオリンピック・パラリンピック教育を推進するなど、次代を担う子どもたちを対象とした事業を展開した。

※オリンピック・パラリンピックへの国民の関心を高め、スポーツの価値や効果の再確認を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成するため、全国各地においてオリンピック・パラリンピック教育を推進する、スポーツ庁の事業

オリンピック・パラリンピアンによる学校訪問事業

市立小・中学校などにオリンピックやパラリンピアンが来校し、スポーツの楽しさや素晴らしさ、共生社会の大切さを伝えてきた。講演のほか実技指導や部活動指導が行われ、トップアスリートと直接交流できる貴重な機会となった。



↑オリンピックからフォームの指導を受ける野球部員



↑パラリンピアンによる講演会で、熱心に耳を傾ける生徒たち

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

本事業の一環として、市立学校の中からモデル校「オリンピック・パラリンピック教育推進校」（オリパラ推進校）を指定し、年間を通じて重点的にオリンピック・パラリンピック教育を推進した。推進校では、ブラインドサッカーなどの体験プログラムや、横浜国際プールで開催されたジャパンパラ水泳競技大会の観戦などを通じて、特にパラスポーツの普及や生活の中で相手を尊重する姿勢に関する学習が積極的に行われた。



↑ブラインドサッカー体験。パラスポーツの奥深さを実感

JOCオリンピック教室

JOCパートナー都市の横浜市では、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶ学校教育の一環で、市立中学校でJOCオリンピック教室を実施してきた。本教室ではオリンピックが講師を務め、身体の使い方やチームプレーの大切さを体験する「運動」と、過去大会での経験に関する講話を踏まえてディスカッションする「座学」を通じて、オリンピックの価値(卓越・友情・尊重)などについて理解を深めている。



↑長岡千里さん(元ボブスレー代表)による教室での座学の様子

横浜市立学校 カウントダウンリレー

東京2020大会横浜市ウェブサイトでは、2019年3月から東京2020オリンピックが開幕するまで、横浜市立学校の全510校が協力して、1校ずつカウントダウンを実施。多くの生徒たちが力を合わせて人文字で数字を表現した学校や、ステンドグラス風にしてまるでアート作品のように表現した学校、様々な柄を切り取って切り絵のように貼った学校など、各校の個性あふれる作品が勢揃い。

※全作品→資料編「横浜市立学校カウントダウンリレー全作品」(P132~参照)

東京2020大会パートナー企業 との取組

横浜市では、大会パートナー企業とともに、次代を担う子どもを対象とした共生社会の実現や競技の普及・啓発に関する取組を進めた。その一例として、神奈川小学校(神奈川区)において「つながりワークショップ」が行われ、視覚障害がある人もスポーツ観戦を楽しむためにはどのような工夫をしたらよいか、田中章仁選手(5人制サッカー)らとともに学んだ。また、元街小学校(中区)や北山田小学校(都筑区)などで「Baseball5体験会」が行われ、野球・ソフトボール振興の一環として発表された新アーバンスポーツを児童が実際にプレーした。



←つながりワークショップ(協力:日本電信電話株式会社(NTT))



→Baseball5体験会(協力:読売新聞社)

横浜市立学校全校が参加した 学校作品展示

東京2020大会にエールを送る取組として、市立学校の全校が参加したアート作品が、2021年8月19日・20日に市庁舎アトリウムに展示された。また、オリパラ推進校を中心に、大会がさらに楽しみになるような、手作りによる温かみのある作品が各校から集まった。市庁舎を訪れた人も思わず立ち止まって見ていくほど、各校の斬新なアイデアがたくさん詰まった作品が並んでいた。



↑5色のお皿の上で日本で親しまれている鍋料理を紹介する作品

「フラッグリサイクル YOKOHAMA」事業

資源を無駄にしない大会運営や持続可能な社会の実現のため、横浜市初の取組として、市が製作した東京2020大会バナーフラッグはリサイクルすることを前提に、素材の選定や再資源化(粉碎・溶解)などが行われ、多目的ボックスとして再形成された。この事業の一環で、旭小学校(鶴見区)では2022年1月・2月に、リサイクルの重要性や方法を学ぶワークショップが行われた。



←バナーフラッグが敷きつめられた体育館で授業をする様子

©Takumi Taniguchi

→実際にフラッグに触れ、素材を確かめる児童の姿もあった



©Takumi Taniguchi

SNS等を活用した 情報発信

東京2020大会を市民により身近に感じてもらうため、2018年8月には東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市ウェブサイトを開発。また、2019年3月にTwitter、2020年6月にInstagramとYouTubeも開設し、広報よこはまなどの紙媒体に加え、ウェブサイトやSNSで随時情報発信を行ってきた。特に大会延期後は、コロナ対策としてオンラインの取組が増え、それぞれの媒体の特性を生かし、イベント告知やプロジェクトのプロモーション、映像での魅力発信と、様々な取組が行われた。

東京2020オリンピック・ パラリンピック横浜市ウェブサイト

大会についての横浜市の情報を発信する主な場として、2018年8月1日に開設。東京2020大会の大会概要(開催競技、試合日程)やイベント・取組の紹介ほか、事前キャンプやホストタウン紹介、ボランティア募集、学校での取組などの関連最新情報を随時掲載した。



↑大会の開催により親しみを持ってもらえるように展開

SNS

●Twitter (2019年3月12日開設)

イベントの告知や事業の紹介など最新情報を発信するため、東京2020オリンピック開催500日前に開設。大会期間中には、コスモクロック21での特別ライトアップに関する投稿が2,600件以上ツイートされるなどの反響があった

●Instagram (2020年6月1日開設)

大会延期決定後、コロナ禍でもプロジェクトを実施できるようにと開設。新型コロナウイルス感染症の困難に打ち勝ち、「世界の人々が平穏に暮らせる日々を取り戻せるように」という願いを込めて、東京2020組織委員会の事業「PEACE ORIZURU」に賛同し、プロジェクトとして展開した。競技をする折り鶴などでプロモーションを行った



↑(左から)野球、サッカー、ポッチャをする折り鶴

●YouTube (2020年6月18日開設)

2020年5月のステイホーム期間中に制作した「みんなで踊ろう! 『東京五輪音頭-2020-』横浜 #STAYHOME編」を皮切りに、大会延期後のオンラインイベントのライブ配信やアーカイブ配信で活用した



↑映像の特徴を生かした楽しく盛り上がるような動画も配信

ハッシュタグキャンペーン

神奈川県とともに、2021年6月から9月にかけてSNS上の企画として展開。TwitterやInstagramにおいて、ハッシュタグ「#神奈川からエール」を付けて投稿してもらうことで、選手への応援メッセージを募った。集まったメッセージや質問の一部は、神奈川県と開催した「神奈川・横浜アスリート感謝会〜おうちからARIGATOを届けよう!〜」(2021年9月26日)で紹介され、出演選手らに届けられた。

広報ツール・PRグッズ

横浜市では、東京2020大会開催の機運醸成を目的に、各区役所などでポスターを掲出したほか、ピンバッジなど大会プロパティを活用した広報ツールや、横浜開催をPRするオリジナルグッズを配布し、イベントの来場者や参加者に向けて市内開催競技・会場などの周知を図った。

さらに大会期間中には、横浜市にゆかりのある選手などを応援する取組として応援メッセージボードやウェルカムガイドブック、来街者へおもてなしする取組として市内の障害者施設と連携してプチギフトが製作され、各区役所や横浜スポーツガーデンで配布された。

ポスター

市内の開催競技(野球・ソフトボール、サッカー)や開催会場(横浜スタジアム、横浜国際総合競技場)をPRするポスターや、ラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック両大会の決勝開催をPRするポスターを制作し、各区役所やスポーツセンターなどに掲出した。



←大会エンブレムを大きく据えた市内開催PRポスター。2017年度から各区役所などで掲出された



→ラグビーや野球・ソフトボール、サッカー選手の躍動感とともに「決勝横浜」をPRするポスター



←試合中の写真をコラージュした市内開催をPRするポスター。期間中の都市装飾に活用された

ピンバッジ・バッグ型クリアファイル

東京2020大会エンブレム入りの広報ツール。カウントダウンイベントの来場者や、他のイベントへのブース出展時の体験会参加者に向けて配布した。

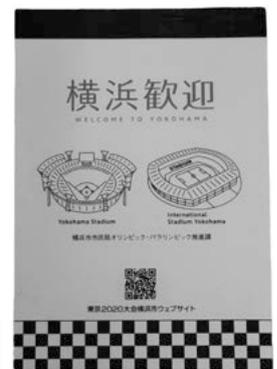


シール・メモ帳・不織布バッグ

「横浜歓迎」の思いを込めて、市内のオリンピック競技会場の横浜スタジアムと横浜国際総合競技場、開催競技の野球・ソフトボールとサッカーをPRするデザインとなっている。



↑競技会場などのシール



↑メモ帳



←バッグは表裏面でデザインが異なる

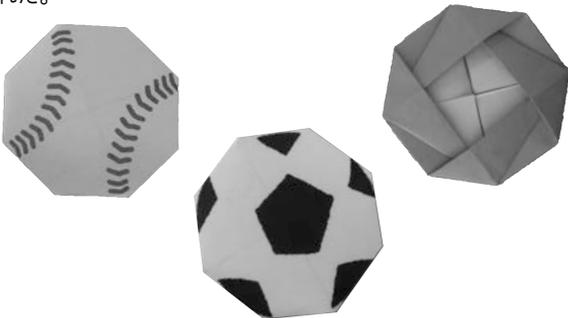
年賀はがき

延期前の開催年(2020年)到来を記念し、2019年11月から販売された。市内のオリンピック競技会場と「決勝横浜」をPRするデザインとなっている。



折り紙

市内の開催競技のPRを目的に製作されたオリジナル折り紙で、表面は野球ボール・ソフトボール・サッカーボールに、裏面は横浜市の花であるバラになるデザイン。バラは英国の国花でもあることから、英国事前キャンプのPRにも用いられた。



応援メッセージボード

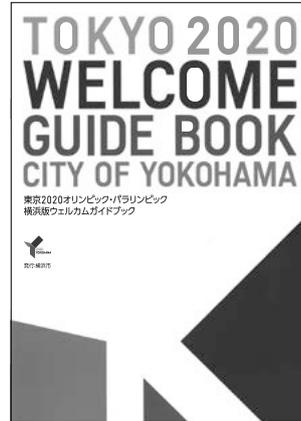
選手への応援メッセージを書き込めるボード。5色展開で、蛇腹に折るとハリセンにもなる。自宅から観戦を楽しんでもらえるようにと、東京2020大会横浜市ウェブサイトからダウンロードできた。



↑期間中の企画「横浜スポーツガーデン」でも配布。メッセージを掲げた写真をSNSに投稿するキャンペーンも展開した

横浜版ウェルカムガイドブック

横浜市にゆかりのある日本代表選手情報や市内の開催競技、事前キャンプ・ホストタウン情報などを掲載している。自宅から観戦を楽しんでもらえるように、各区役所で配布したほか、東京2020大会横浜市ウェブサイトからも閲覧できた。



←横浜のシンボリックな色である青を基調とした表紙

Welcome to YOKOHAMA おもてなしプチギフト

市内障害者施設20か所と連携して製作。それぞれの施設の特長を活かしたメモスタンドやマグネットなどの製品に「ようこそ横浜へ」の思いが込められた。市庁舎アトリウムで、期間中に開催されたイベント「横浜スポーツガーデン」で配布された。



←カラフルな刺繍が施されたポケットティッシュケース



↑海をイメージした青色の、コードなどを束ねる小物



↓横浜赤レンガ倉庫など横浜の名所を形取った木製のメモスタンド



→錨など港町を連想したデザインのマグネットセット

都市装飾

大会に向けた機運醸成とともに、横浜への来訪者に対するおもてなしの一環で、オリンピック競技会場の横浜スタジアムと横浜国際総合競技場の周辺、また東京2020ライブサイト周辺のみなどみらい地区などの市街地で計画が進められた。しかし、コロナ対策としての不要不急の外出自粛・人流抑制の観点から、東京2020ライブサイト・パブリックビューイングが中止となったため、当初の予定から装飾箇所の縮小、装飾期間の短縮が行われた。

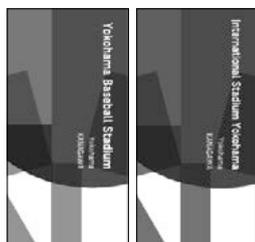
バナーフラッグ等の装飾

競技会場の横浜スタジアムと横浜国際総合競技場の周辺には各競技会場のカラー（藍・紅）を基調としたバナーフラッグの掲出を予定していたが、無観客の判断を受け、多くを中止することとなった。一方、市街地には、市内開催競技のPRを目的に、選手らの躍動感ある試合中の写真をコラージュした装飾が展開された。

区分	エリア	箇所	実施期間	
ラストマイル	関内	旧市庁舎周辺	中止	
		日本大通り		
		旧市庁舎仮囲い		
	新横浜	新横浜駅交通広場(横断幕・柱巻き)		7/15~8/8
		ペDESTリアンデッキ		
		新横浜駅~スタジアム		
		東ゲート橋		
小机	小机駅改札出口付近(看板)	中止		
	小机駅北口(柱巻き・壁面装飾)			
	小机駅階段(壁面装飾)			
	小机駅~スタジアム	7/15~8/8		
市街地	関内	日本大通り	中止	
		県庁前海岸通り~大さん橋		
	桜木町	クロスゲート(懸垂幕)	7/19~8/8	
		桜木町駅前広場		
		汽車道		
		万国橋周辺	7/15~8/8	
	横浜	横浜駅きた・みなみ通路(ポスター)		
	横浜駅西口			

※横浜市が製作した東京2020大会のバナーフラッグは、横浜市初の取組としてリサイクルすることを前提に、素材の選定や再資源化などが行われた(「フラッグリサイクル YOKOHAMA」事業)

→第4章「学校と連携した取組」(P83参照)



←横浜スタジアムは藍、横浜国際総合競技場は紅を基調に、会場名などがデザインされたラストマイル装飾

→4人の選手の躍動感があふれる市街地装飾



オリンピックシンボルを活用した大型モニュメント／「動くスポーツピクトグラム」を活用したライトアップ

→第4章「イベント」(P78参照)

東京2020マスコットマネキン(ミライトワ・ソメイティ)

大会史上初の試みとして、全国の小学生と海外の日本人学校の児童によるクラス単位の投票で選ばれた大会マスコットのミライトワとソメイティ。横浜市では、高さ約150cmのマネキンを製作し、2020年に竣工した新市庁舎において、来庁者やイベント来場者を出迎えた。



カウントダウンボード

旧市庁舎、桜木町駅前、野毛山動物園前、横浜駅みなみ西口、新横浜駅ペDESTリアンデッキにカウントダウンボードを設置(旧市庁舎は移転に伴い途中撤去)。大会延期に伴う中断を挟んだものの、延期前の200日前にあたる2020年1月から開催まで、また開会後も閉会までの時を刻んだ。



↑旧市庁舎にて

ライブサイト

(コミュニティライブサイト・パブリックビューイング)

ライブサイトとは、東京2020大会の期間中、大型スクリーンを利用した競技中継を中心に、競技体験やステージイベント、飲食・グッズ販売等を行い、競技会場外で誰もが大会の感動と興奮を共有できる機会を提供する場である。

ライブサイトには、競技開催自治体として、東京2020組織委員会と共同で開催する「東京2020ライブサイト」と、自治体が単独で開催する「コミュニティライブサイト」、また競技中継のみを行う「パブリックビューイング」がある。

大会延期前の計画

横浜市では、大会延期前には、当時としてはオープン直後のお披露目となる新市庁舎アトリウムと、1964年の東京オリンピックでバレーボール競技が行われた横浜文化体育館^{*}の2施設を会場に、「東京2020ライブサイト」を開催し、横浜の街全体のにぎわいにつなげていこうと計画していた。

^{*}横浜文化体育館では、東京1964大会開催直前に「東京オリンピック・バスケットボール競技予選横浜大会」も開催された。

●東京2020ライブサイト

会場	期間
市庁舎アトリウム	オリンピック開催期間(2020年7月22日~8月9日) [*] 7月22日はソフトボール競技開始日 パラリンピック開催期間(2020年8月25日~9月6日)
横浜文化体育館	オリンピック開催期間(2020年7月24日~8月9日)



大会延期後の計画

大会延期後は、簡素化の方針や新型コロナウイルス感染症の影響、また、横浜文化体育館が再整備工事により利用できなくなった事情を踏まえ、会場・内容・開催期間について検討し、計画を変更して調整を進めた。しかし、コロナ対策としての不要不急の外出自粛・人流抑制の観点から、ライブサイト・コミュニティライブサイト・パブリックビューイングはいずれも中止となった。併せてCCY(横浜市・都市ボランティア)についても、イベント補助での活動が中止となり、新たに活動について急遽検討し、決定次第連絡することとなった。

東京2020ライブサイト →中止

- 会場：大さん橋ホール
- 開催期間：2021年7月31日~8月7日
- ※オリンピック期間の8日間

横浜市では大会延期前には、市庁舎アトリウムと横浜文化体育館の2か所を会場として準備し、横浜の街全体の賑わいにつなげていこうと計画。大会延期決定後は、大さん橋ホール1か所をライブサイト会場に変更し、大会パートナー企業9社の出展も予定されていたが中止となった。



↑大さん橋ホールで計画されていた東京2020ライブサイトのイメージパース

コミュニティライブサイト

→中止

●会場：「臨場感LIVEビューイング」を予定していた磯子区を含め6区7会場

東京2020大会の様様を大スクリーンで中継することに加え、大会にちなんだイベントなどの催し物も行うことができるコミュニティライブサイトは、市内6区7会場で検討されていた。特に、横浜こども科学館・プラネタリウムでは、全国でわずか1か所のみで計画された「臨場感LIVEビューイング」（ドーム全体が360度のスクリーンと化し、会場で観戦しているような迫力あふれる競技中継）を予定していたが、これを含めてすべて中止となった。



←広報よこはま磯子区版2021年6月号では、コミュニティライブサイトを紹介していたが、その後中止が決定

パブリックビューイング

→中止

●会場：市庁舎アトリウム
●開催期間：2021年7月21日～8月8日、
8月24日～9月5日

大会の様子をスクリーンでライブ中継するパブリックビューイング。市庁舎アトリウムは当初、東京2020ライブサイトを予定していたが、延期後はパブリックビューイングに変更して行うことが決定していた。主に市役所や施設内にある飲食店に向かう人たちが気軽にオリンピック・パラリンピック大会を楽しめる場として期待されていた。



↑市庁舎アトリウムでのパブリックビューイングのイメージパース

パブリックビューイング中止後の企画

横浜スポーツガーデン

●会場：市庁舎アトリウム
●開催期間：2021年7月21日～8月8日、
8月24日～9月5日

パブリックビューイング中止決定後、市内でオリンピックが開催されていることを市民とともに実感できる場、横浜市ゆかり選手を自宅で応援していただくための情報発信の場、スポーツを通じた市民との協働の場として、市庁舎アトリウムを活用し、スポーツに関連した展示などを楽しめるスペースとして企画。`密`を作り出さないようレイアウト上の工夫と運営面で配慮しながら、市民から寄せられた多数の写真で制作した「笑顔でつくる！フォトモザイクアート」や、神奈川県内で行われた競技の魅力を紹介する展示などを行った。オリンピック期間・パラリンピック期間合わせて約12,000人が来場した。



↑お台場・夢の大橋で灯っていたオリンピック聖火の中継

オリンピック聖火リレー

オリンピック聖火リレーは、2021年3月25日から7月23日までの121日間で全都道府県にて実施された。このうち、神奈川県は6月28日から6月30日までの3日間の日程で、横浜市では6月30日に行われた。新型コロナウイルス感染症の影響により、神奈川県内の公道走行は中止となったため、それに代わる点火セレモニーと、聖火の到着を祝うセレブレーションが横浜赤レンガ倉庫で行われ、集まったランナーによって聖火がつながれた。

点火セレモニー

(主催:東京2020組織委員会、
東京2020オリンピック聖火リレー神奈川県実行委員会)

6月30日に走行を予定していた約100名の聖火ランナーが、複数のグループに分かれてトーチキス(ランナーが次のランナーに聖火を受け渡すこと)で聖火をつないだ。なお、点火セレモニーはランナーとその関係者のみで実施され、その様子はオンラインで配信された。

セレブレーション

(主催:日本電信電話株式会社、東京2020組織委員会、
東京2020オリンピック聖火リレー神奈川県実行委員会)

県内の最終聖火ランナーのUSAさんによる聖火皿への点火をはじめ、ステージイベントや聖火リレーパートナー企業による展示が行われた。

ステージイベント	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市消防音楽隊による演奏 ●神奈川県立市ヶ尾高校ダンス部によるダンス ●EXILEのUSA氏、TETSUYA氏、福島県相馬地方、熊本県益城町・西原村のキッズダンサーによるダンス ●登壇者のご挨拶 ●神奈川県最終聖火ランナー(USA氏)による聖火皿への点火 ●武田双雲氏によるライブパフォーマンス ●GENERATIONS from EXILE TRIBE及びSAMURIZE from EXILE TRIBEによるライブパフォーマンス
当日の登壇者 (役職は2021年 6月30日時点)	<ul style="list-style-type: none"> ●橋本聖子氏(東京2020組織委員会会長) ●黒岩祐治氏(神奈川県知事) ●井上福造氏(東日本電信電話株式会社・代表取締役社長) ●田口亜希氏(東京2020聖火リレー公式アンバサダー) ●石原さとみ氏(東京2020聖火リレー公式アンバサダー) ●TETSUYA氏(EXILE) ●山下泰裕氏(日本オリンピック委員会会長) ●林文字(横浜市長)

聖火リレー走行予定ルート

(横浜市内)

6月30日12時10分に横浜国際総合競技場前を出発し、市庁舎前など7区間に分かれて、全長約17kmを約90名のランナーが走り抜ける予定だった。

出発		到着	
予定地	予定時間	予定地	予定時間
①横浜国際総合競技場前	12:10	新矢之根交差点付近	12:26
②三ツ沢公園陸上競技場横	14:10	横浜西口KNビル裏	15:03
③金港町交差点付近	16:00	横浜市庁舎付近	16:51
④横浜市庁舎前	17:00	万国橋交差点	17:24
⑤万国橋北	17:45	トヨタレンタカー元町石川町店前	18:35
⑥トヨタレンタカー元町石川町店前	18:35	マリントワー前バス停	19:11
⑦マリントワー前バス停	19:11	横浜赤レンガ倉庫	19:48





パラリンピック 聖火フェスティバル

東京2020パラリンピックでは、英国のストーク・マンデビル(パラリンピック起源の地)と、47都道府県で採火された火が集火され、パラリンピックの聖火となった。トーチによるリレーは、競技開催都県(静岡、千葉、埼玉、東京)で行うこととされ、採火等を行う「聖火フェスティバル」が、全国で実施された。神奈川県では、2021年8月12日から15日までに県内全市町村及び神奈川県で採火し、8月15日に神奈川県が主催する「集火・出立式」で一つの「ともに生きる社会かながわの火」となった。

横浜市では、8月13日に採火式を実施し、開港広場公園前のガス灯の火を「横浜の火」として採火した。

横浜市採火式

- 開催日：2021年8月13日
- 採火者：大日方邦子氏
(パラリンピック アルペンスキー 金メダリスト)
平井孝幸氏
(横浜市スポーツ推進委員連絡協議会会長)
林琢己(横浜市副市長)
- ゲスト：大日方邦子氏(同上)
上原大祐氏
(パラリンピック アイスホッケー 銀メダリスト)

開港広場公園前のガス灯から採火する様子の中継をつなぎ、オンラインで配信。パラリンピアンによるトークセッションでは、パラリンピックの見どころや過去大会のエピソードなどが披露された。さらに、パラスポーツの魅力や、東京2020大会で注目している選手も熱く語られ、大会開催へのムードを盛り上げた。



↑トークセッション会場にランタンで運ばれた「横浜の火」



↑過去大会で獲得したメダルも披露され、選手の活躍に期待が高まった

神奈川県集火・出立式

- 開催日：2021年8月15日
- 出立者：二條実穂氏
(パラリンピック 車いすテニス ダブルス 4位入賞)

県内全市町村で採火された火が集められ、「ともに生きる社会かながわの火」として、一つに集火。二條実穂さんが出立者として、東京2020パラリンピック聖火リレートーチに灯し、開催都市東京に送り出した。



↑イベントの様子はオンラインで配信された

横浜市ゆかりの代表選手インタビュー

山田 恵里選手

～東京2020オリンピック～

金メダルの重圧に押し潰されそうに

2016年にソフトボールが東京2020オリンピックの追加種目に決定した時は、ようやくあの舞台に戻ることができると、本当にうれしくて。2大会連続でオリンピック種目から除外されていた間、ソフトボールをもう辞めようと思ったことが何度もあったんですけど、続けてきてよかったです。

一方で、大会本番が近づくにつれて、精神的にしんどくなりました。私はキャプテンであり、年齢的にも野手で一番年上だったので、背負わなければいけないものがたくさんありましたし、「金メダルを取って当たり前」というプレッシャーが、競技人生で初めて重くのしかかりました。それでも大会が始まれば楽しめるかなと考えていたのですが、逆に本番の方が苦しかったですね。プレッシャーに押し潰されそうになり、不安や恐怖心は消えることがなかったです。

2年前から狙い球を決めていた

3戦目のイタリア戦(5対0)でも調子が上がらず途中交代。そんな経験をしたことがなかったですし、絶望感を味わいました。けれど最悪のところまで落ちたので、後はそこから上がるだけだと、逆に切り替えることができましたね。

ただ、ナイターだったイタリア戦後は、明け方4時ぐらいに目が覚めてしまったんです。その時ふと思い出したのが、2009年のWBCでのイチローさんのこと。その大会では、イチローさんも準決勝までは調子が良くありませんでしたよね。それでも決勝の延長10回に勝ち越しタイムリーを放って、日本を優勝に導きました。当時の映像を観て「自分も次からは大丈夫だな」と気が楽になり吹っ切れたようで、イチローさんにも救われました。

そのまま朝を迎えて、4戦目のカナダ戦(1対0)に臨んだ時には寝不足という感覚もなく、試合前の練習からバッティングの調子が良かったです。打ち方を変えたわけではなく、気持ちの面でいい状態を作れたのが大きかったですね。延長タイブレーク、満塁で打順が回ってきた時には不安も消え、「ここで私が決める」という気持ちで打席に立ち、サヨナラヒットを打ちました。また、その日は猛打賞の結果も。それまでチームの足を引っ張ってきたのですが、勝利に貢献できて、やっとチームの力になれたなと思いました。

決勝のアメリカ戦(2対0)では、先頭打者の私が出塁して勢いをつければ、絶対にチームが乗ると思ったので、1回表の最初の打席にかけていました。相手の先発は戦前の予想通り、キャット・オスターマン投手。ソフトボールがオリンピック種目に復活すると決まってから、私は彼女と世界選手権などで対戦するたびに、打つべきボールをあえて見送るなど、い

ろんな球種を見て、すべては“最後に勝つ”ための情報収集をしてきました。それで2年前ぐらいから、ずっと狙い球を決めていたんです。本番で狙っていた外に逃げるボールが来て、ヒットを打つことができ、約4年間の準備が実りました。

横浜には感謝の気持ちでいっぱい

改めて、金メダルを取れて本当に良かったです。前回の北京2008大会の金メダルとは重みが全然違います！ それまで、うまくいかない経験をあまりしたことがなかったので、一番つらく苦しい大会を経験できたことは、今後にも生かせるはず。例えば指導者になった際に、良い時ばかりではなく悪い時の経験も伝えられます。代表選手としての最後の大会で、ああいった経験ができたのは意味がありましたね。

今大会でプレーした横浜スタジアムは、憧れの場所でした。所属していた少年野球チームが県大会に出場し、開会式にも出ました。プロ野球は、横浜大洋ホエールズ時代から地元のチームを応援していて、スタンドから観戦したことも。地元の会場でオリンピックが開かれ、さらにプレーできる確率なんてかなり低いでしょうし、とても誇らしかったです。

前所属チーム時代は戸塚に長く住んでいましたし、休日になると好きな街のみなとみらいの温泉施設によく行っていました。横浜はプロ野球、Jリーグなどプロチームがいろいろあって、地域とスポーツが一体になっているのも魅力ですし、ファンと選手の良い関係性が築けています。ソフトボールもそこに近づけるように価値を高めていきたいですね。

横浜市には、東京2020大会前のイベントに呼んでいただき、市民の皆さんから多くの応援をもらえて、感謝の気持ちでいっぱいです。ソフトボールは、次回2024年のパリ大会の種目に残念ながら入っていません。今後ソフトボール界を盛り上げ、2028年のロサンゼルス大会で再び復活させるためにも、皆さんに元気になってもらえるようなプレーを続けていきたいです。これからも応援してもらえたら、うれしく思います。

東京2020オリンピック
ソフトボール日本代表

山田 恵里選手

やまだ・えり●1984年生まれ、藤沢市出身。小学校から野球を始め、高校からソフトボールに転向。2002～2020年まで横浜の実業団チームに所属。現在は愛知の実業団チームでプレーする。キャプテンを務めた東京2020大会では、北京2008大会に続いて13年越しの連覇を達成



写真：長田洋平／アフロスポーツ

横浜市ゆかりの代表選手インタビュー

古澤 拓也選手

～東京2020パラリンピック～

メダルを取る自信はありました

小学6年生で車いすユーザーになってからパラリンピックに出るのが夢でした。今回の自国開催に向けて、6～7年間、人生を懸けてやってきた中で、銀メダルという結果を手に入れることができ、一生忘れることのない大会になりました。

日本は「メダル獲得」を目標に掲げ、準備してきたので、メダルが取れないことは考えなかったです。僕自身、初のパラリンピック出場だったため、前回まで日本が2大会連続9位だったという意識よりも、僕ら若手はU23世界選手権でベスト4（2017年）に入ったという意識の方が強かったです。メダル圏内に行くイメージはできていたし、自信がありました。

大会前は新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期になり、その後、開催されるかも分からない中で、不安はもちろんありました。ただ、トレーニングの強化など自分たちがコントロールできる部分は、チームとしてしっかりやっていたので、極端なダメージを受けることはなかったです。

最初の緊急事態宣言後には、リモートでこまめにミーティングをしたり、映像をつなげながら選手同士でトレーニングを行うなど、選手同士の結び付きを大事にしました。大会本番までの約1年半は、国内外の大会が一切開催されず、代表チームの選手だけで紅白戦をし続けたので、一緒にいる時間も長く、チームメイトが家族のような存在になりましたね。

決勝で日本の実力を証明できた

久々の国際試合となった東京2020パラリンピックでは、日本代表は試合を追うごとにゲームに慣れていき、強くなっていったのは間違いありません。ただ、楽に勝てた試合は一つもなかったです。前半リードされても、後半で粘って最後に逆転すればいいというのが、日本のスタイルなんです。

準決勝の英国戦(79対68)も前半は3点差でリードされましたけど、それも想定内のことでした。焦りも全くなかったですね。英国は2018年世界選手権のチャンピオンですし、強いのは分かっています。自分たちは、前半から相手選手に食らい付いてガツガツ当たり、後半に逆転することだけを考えて挑みました。

メダルがかかった試合というプレッシャーも感じなかったです。僕自身もやるべき仕事を全うしようとしただけで「ここで活躍してやろう」などと逸る気持ちはなくて。後半に自分が決めた逆転シュートも、あの場面の状況判断でシュートエリアにいたので狙っただけ。そこはいつもシンプルに考えていて、シュートを決めたからうれしいとか、外したから悔しいとかも全然ないんです。むしろ「今、この場面でシュートが打てるのか打てないのか」という判断を気にしますね。

決勝のアメリカ戦(60対64)は、めったに経験できない金メ

ダルをかけた試合の中でも、楽しさがありました。持っている総合力はアメリカが断然強いけれど、日本は各々が持つ力をうまく使いながら、いい展開に持っていきました。ただ、後半の大事な場面で自分を含めてシュートを外してしまい、決められるか否かの重みを痛感しました。一方で、日本のトランジションバスケット(攻守の切り替えを速くして数的有利な状況を作る戦術)が通用することを証明できたと思います。

結果を出し続けることが僕の役目

それらは決勝の舞台に立てたから分かったこと。いい経験でしたし、「次は金メダルを」と思うようにもなりましたね。

銀メダルという成績の要因には、皆さんの応援の力が間違いなくありました。SNSへの応援メッセージの数がすごくて、試合を追うごとにフォロワーがどんどん増えていった印象です。僕のSNSでは、大会前は2,000人ぐらいだったのが、決勝が終わった時には10,000人にまで伸びました。大会後は、ローカルな試合にもお客さんが来てくださるようになり、ほぼ空席もなくなったみたいで。やっぱりスポーツ選手として、競技の認知度が上がったのはうれしいですね。

パラスポーツは、まだ障害のある人がやるスポーツだという認識を持つ方が多いと思いますけど、いざ観たらスポーツとしての魅力を感じてくれるはず。将来的にはパラスポーツがメジャーになってほしいですし、そのためにもこの競技の選手として、結果を出し続けることが役目だと思います。

僕の育った横浜は、遊びに行く場所がどこにでもあるのが魅力です。おしゃれな赤レンガ倉庫の周辺を散歩したり、特に抹茶とコーヒーが大好きなので、山下町の老舗ホテルから大さん橋近辺など、いろんなカフェ巡りもしています。

応援してくれた横浜市の方々に、感謝会などを含めてメダルを取った報告ができたことは、すごくうれしかったです。また世界大会のメダルを取ってお見せできるように頑張りますので、これからもずっと応援をよろしくをお願いします。

東京2020パラリンピック
車いすバスケットボール男子日本代表

古澤 拓也選手

ふるさわ・たくや●1996年生まれ、横浜市港北区出身。12歳で車いすユーザーになる。13歳から車いすバスケットボールを始め、高校2年でU23日本代表選出。17年のU23世界選手権では主将で出場し4位に。桐蔭横浜大学卒業。東京2020パラリンピックで日本史上初の銀メダル獲得



写真：長田洋平／アフロスポーツ

第5章

世界とつながる

東京2020大会前の最終調整として英国、ボツワナ共和国、チュニジア共和国など12か国が横浜市内で事前キャンプを実施。徹底したコロナ対策を行い、選手団から1人の陽性者も出さず選手村へ送り出した。また、市内小学生などの子どもたちとの交流機会を創出し、横浜市とホストタウン相手国との絆を深めた。



事前キャンプ

事前キャンプとは、大会前に、時差や気候への順応、コンディション調整のために行われるトレーニングキャンプのこと。横浜市は、英国、ボツワナ、チュニジアの事前キャンプを受け入れたほか、日本体育大学が実施する「戦略的二国間スポーツ国際貢献事業※」による9か国の事前キャンプ受入れをサポートした。

各国選手・スタッフのSNSでは、「これ以上ないほど素晴らしいホスト」「家のようにくつろげる場所」など感謝の言葉や横浜市の写真が数多く投稿され、英国オリンピック代表チームによる事前キャンプの様子は、国内メディアのみならずBBCなど英国メディアにより発信された。

※戦略的二国間スポーツ国際貢献事業:日本体育大学がスポーツ庁からの委託を受けて、主に開発途上国・地域のパラリンピック委員会の東京2020大会の出場支援等を実施するもの。パラリンピック競技大会への参加国の拡大に貢献した

オリンピック代表チーム 実施データ

国名	期間	人数	競技	練習施設	宿泊施設
英国	2021年 7月1日～ 8月4日 ※	630人	<ul style="list-style-type: none"> ●アーチェリー ●ボクシング ●柔道 ●ウエイトリフティング ●バドミントン ●ホッケー ●フェンシング ●テコンドー ●体操 ●近代五種 ●卓球 ●水泳 ●陸上 ●サッカー ●7人制ラグビー ほか計22競技	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜国際プール ●慶應義塾大学 日吉キャンパス ●横浜カントリークラブ ●バシフィコ横浜 ペDESTリアンデッキ 【川崎市内の施設】 ●等々力陸上競技場 ●補助陸上競技場	●ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル
ボツワナ共和国	7月7日～ 8月5日	24人	<ul style="list-style-type: none"> ●陸上 ●水泳 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本体育大学 横浜・健志台キャンパス ●武相中学・高等学校 	●ホテル横浜 キャメロットジャパン
チュニジア共和国	7月10日～ 7月26日	8人	<ul style="list-style-type: none"> ●アーチェリー ●柔道 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本体育大学 横浜・健志台キャンパス ●鶴見スポーツセンター 	●新横浜グレイスホテル

パラリンピック代表チーム 実施データ

国名	期間	人数	競技	練習施設	宿泊施設
英国	2021年 8月4日～ 9月3日 ※	189人	<ul style="list-style-type: none"> ●陸上 ●ボート ●馬術 ●アーチェリー ●バドミントン ●テコンドー ●パワーリフティング ●柔道 ●車いすフェンシング 	<ul style="list-style-type: none"> ●慶應義塾大学 日吉キャンパス ●横浜カントリークラブ ●バシフィコ横浜 ペDESTリアンデッキ 【川崎市内の施設】 ●等々力陸上競技場 ●補助陸上競技場	●ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル ●横浜ベイホテル東急
ボツワナ共和国	8月13日～ 8月22日	7人	●陸上	<ul style="list-style-type: none"> ●日本体育大学 横浜・健志台キャンパス ●横浜市スポーツ医科学センター 	●ホテル横浜 キャメロットジャパン
戦略的二国間 スポーツ国際貢献事業 9か国(セントビンセント及び グレナディーン諸島、バルバドス、 ウルグアイ東方共和国、 ザンビア共和国、マラウイ共和国、 タンザニア連合共和国、 レバノン共和国、モルディブ共和国、 イエメン共和国)	8月14日～ 8月20日	24人	<ul style="list-style-type: none"> ●陸上 ●水泳 	●日本体育大学 横浜・健志台キャンパス	●横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

※英国事前キャンプはスタッフによる事前準備・撤収期間を含む

英国オリンピック・パラリンピック代表チーム

経緯

世界でもスポーツ強豪国であり、選手団規模の大きい英国。オリンピック代表チームとは、2016年2月に覚書の締結、2017年3月に横浜国際プールの施設利用契約の締結を行い、パラリンピック代表チームとは2018年5月に覚書を締結して、事前キャンプ実施を合意。両チームとも市内の練習施設及び宿泊施設を使用することとなり、英国オリンピック委員会や英国パラリンピック委員会と5年にわたりオンラインでの会議や視察を重ねるなど、密に連携し、調整を行った。



↑2017年3月、英国オリンピック委員会との契約締結式



↑2018年5月、英国パラリンピック委員会との覚書締結式



↑横浜国際プールには何度も視察に訪れた

準備期間

事前キャンプ決定後、練習施設となった横浜国際プールの設備更新などを進め、2019年7月には英国水泳代表チームが横浜国際プールでプレ事前キャンプを行った。英国チームの市内施設でのキャンプは初であり、本番に向けたテストとして貴重な機会となった。



←スポーツ振興くじ助成も活用し、メインプールのスタート台20台分を国際規格に適合するよう更新。市民にとってもレガシーに

→老朽化していた飛込競技に使用する飛込台のマットと飛板も更新。事前キャンプ本番では、東京2020大会金メダリストのトム・デイリー選手も使用した



英国水泳代表チームプレ事前キャンプ

- 実施期間：2019年7月8日～16日(9日間)
- 参加人数：56名(選手30名、スタッフ26名)
- 練習施設：横浜国際プール メインプール、トレーニングルーム等

オリンピック金メダリストも輩出する英国水泳代表チームによる、世界水泳選手権大会(韓国・光州開催)に向けた事前キャンプ。横浜市は、施設との調整や警備、通訳、ボランティア(延べ33名)の配置など、キャンプ運営をサポートした。世界水泳選手権大会では、3つの金メダルを含む7個のメダルを獲得するなど、多くの選手が入賞や自己ベストを更新し、英国からは高い評価を得た。期間中は、児童との交流等も実施。

※交流の詳細については第5章「ホストタウン」(P108～参照)



東京2020大会事前キャンプ

大会延期を経て、コロナ禍という前例のない状況下で行われた東京2020大会の英国事前キャンプ。受入期間は計65日間、選手団は800人以上に及び、横浜国際プールをはじめ市内各所で練習を行った。

横浜市は、英国と市民双方の安全・安心、円滑なキャンプ運営を目標に、英国代表チームや練習施設管理者、宿泊施設事業者、国、神奈川県、東京2020組織委員会、医療機関など、様々な関係者と調整。拠点となる宿泊施設には、川崎市、慶應義塾大学と合同で運営本部を設置し、徹底したコロナ対策のため、毎日のPCR検査や、専用車両による移動時の対応、陽性疑い者発生時の対応などを実施した。

また、厳しい行動制限がある中でも、ランニングなどのトレーニングのための屋外活動場所(横浜カントリークラブ、パシフィコ横浜ペDESTリアンデッキ)の確保など、英国からのリクエストに最大限対応し、選手をサポートした。



←横浜国際プールは7月12日～31日で競泳競技と飛込競技の代表チームが使用



←宿泊施設での送迎

英国代表チーム東京2020大会成績

【オリンピック】合計メダル数64個
(金メダル22個、銀メダル20個、銅メダル22個)

【パラリンピック】合計メダル数124個
(金メダル41個、銀メダル38個、銅メダル45個)

川崎市・慶應義塾大学との連携

2016年の覚書締結以来、横浜市・川崎市・慶應義塾大学の3者で協力体制を構築。契約締結式等を合同実施したほか、2018年には“GO GB (ゴー・ジービー:がんばれ、英国)”を合言葉に、3者合同デザイン及びウェブサイト制作するなど、連携して取り組んだ。

英国代表チームの協力のもと作られた合同デザインは、キャンプ前の機運醸成から大会本番でも使われ、どの施設も同じ“GO GB”デザインで飾られて一体感を醸し出した。3者合同ウェブサイトでは、各練習施設や英国代表チームの紹介、3者のニュース、コラム記事等を掲載。横浜市は4年にわたり、市内小中高生からなるジュニア記者が取材・執筆した様々なレポートをアップした。

運営面でも、3者で協力してマニュアルを作成。事前キャンプ期間中は毎日オンライン会議を実施し、スムーズな情報共有や緊急時対応を行った。慶大では、学生主体の英国代表選手団サポート組織「KEIO 2020 project」が大会前から活動。市内でも、区民まつりでのブース出展や広報よこはまへの寄稿等で地域を盛り上げ、キャンプ期間中もボランティアとして慶大日吉キャンパス内の運営をサポートした。



↑3者合同ウェブサイトトップページ



←↑横浜国際プールや、慶應義塾大学の“GO GB 装飾”

横浜ホストタウンサポーター

円滑な事前キャンプ運営の背景には、英国事前キャンプ横浜ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」の活躍があった。約800人と大規模な英国選手団の受入れに向け、募集時には英語のレベルチェックも実施。毎日の運営サポートのみならず、メッセージを書き込んだ誘導時に掲げるプラカードや、選手たちに贈る日本らしいお土産も手作りし、英国代表チームが滞りなく、そしてホームのように横浜で過ごせるよう、感染症対策を徹底しつつ、心を尽くした力強いサポートを行った。



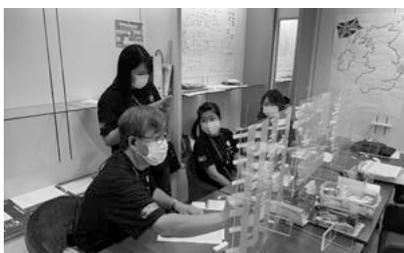
←募集時のチラシ。約1か月の応募期間にも関わらず、1,431名の応募があった

↓英国からオンラインで実施した研修。ボランティアの存在の大切さや、英国代表チームの一員としての心構えがレクチャーされた



←2021年6月に横浜市が実施したオンライン説明会。多くの質問が寄せられ、活動への疑問を解消する機会に

→熱烈な応援で事前キャンプを成功へ。宿泊施設では川崎市のボランティアも一緒に活動した



←サポーター同士でアイデアを出し合い、活動がブラッシュアップされた



↑10月31日には横浜市イギリス館でサポーター感謝会を実施。英国チームからの感謝のメッセージビデオを放映



←感謝会では、実際に横浜国際プールで使用された、英国代表チーム横断幕をリサイクルし作成した世界に一つのトートバックなど記念品を贈呈

ホストタウンサポーター情報

2019年12月20日～ 2020年1月21日	応募期間《応募総数 1,431 名》
1月31日	抽選結果通知《当選106名》
2月19日、22日、 23日	個別オリエンテーション実施
3月24日	東京2020大会開催延期 決定
10月2日	横浜ホストタウンサポーター活動継続の意向確認
2021年3月18日	研修1「英国オリンピック代表チーム・Team GB オンラインセミナー」実施
6月1日、7月3日	研修2「オンライン説明会」、 研修3「オンライン研修会」実施
7月5日～8月31日	横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」活動期間
10月31日	横浜ホストタウンサポーター感謝会 実施

- 活動期間:2021年7月5日～8月31日 計52日(ホテル52日、プール5日)
- ※活動期間中、原則5日以上活動。活動時間は、休憩時間を含み1日8時間程度
- 活動場所:ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル、横浜ベイホテル東急、横浜国際プール
- 累計活動数:304ポスト(サポーター 47 名)
- 活動内容:レンタカー使用時の駐車場誘導、スタッフ到着時のバブル動線ケア、英国バブルゾーンへの関係者以外立ち入り禁止の声かけ、プラカード作成、お土産作成、オンラインでの通訳、事務作業の補助など

英国オリンピック委員会 ～謝辞～

We want to take this opportunity to thank both your team and the people of Yokohama City for all the support that you have provided to Team GB over the last 5 years. Even during these incredibly challenging times, your support of Team GB has been unwavering and this is a testament to the wonderful friendship we have built over the last few years.

We recognise the huge sacrifices that everyone in Japan has made to ensure that the Games could be held safely and it has certainly created a Games which has resonated successfully around the world. The Japanese Government and Tokyo 2020 have done an incredible job hosting and creating very special moments for all of the athletes who have taken part and for everyone who has been watching all over the world.

We also recognise the huge amount of work that has been done by Team Yokohama to ensure our athletes were kept safe and had continued access to the best training facilities. Their contribution to the success of Team GB in Tokyo is immeasurable and we are extremely grateful.

Whilst the Tokyo 2020 Games has been very different to the one that we had all imagined, the relationship between Team GB and the City of Yokohama is a real symbol of the Olympic spirit and we are immensely proud of this.

Again, thank you for everything you have done for us.

Yours sincerely,

Andy Anson
Chief Executive Officer
British Olympic Association



過去5年間にわたる英国代表チームへのすべてのご支援に対して、横浜市の皆様にこの場を借りて感謝の意を表します。非常に困難な情勢にもかかわらず、横浜市から英国代表チームに対して揺るぎないご支援をいただきました。これは、過去数年間にわたり皆様と築き上げてきた、素晴らしい友好関係の証しです。

私たちは、日本の皆様がオリンピックを安全に開催するために多大な犠牲を払ってきたことを認識しています。そのおかげでオリンピックが無事に開催され、世界中が感動に包まれています。日本政府と東京2020組織委員会の素晴らしい働きともてなしにより、参加しているすべてのアスリートと世界中で観戦しているすべての人が、特別な瞬間を味わうことができました。

また、英国代表チームのアスリートが安全に過ごし、最適なトレーニング施設に継続して通うことができるように、横浜市のチームが尽力してくださったことも認識しています。東京2020大会における英国代表チームの成功に対する横浜市の貢献は、計り知れないほど大きなものであり、心から感謝申し上げます。

東京2020オリンピックは、私たち皆が想像した以上に非常に特殊なものとなりましたが、私たちTeam GBと横浜市の関係は、まさにオリンピック精神を象徴するものであり、非常に誇らしく思います。

改めて、私たちに提供いただいたすべてのご支援に感謝いたします。

英国オリンピック委員会CEO アンディ・アンソン

英国パラリンピック委員会 ～謝辞～

I want to send our deepest thanks to all of you and the people of Yokohama City for your support and friendship over the last five years.

The delivery of the Games was an incredibly challenging operation, and it is down to the strength of the partnership that has been built between ParalympicsGB and the City of Yokohama over the last five years that we were able to hold our pre-Games Preparation Camp safely. Our athletes benefitted enormously from the camp, and ParalympicsGB had a very successful Games: 2nd on the medal table, 124 medals, 41 golds and countless memorable moments that will live in our hearts and minds forever.

It is hard to believe that all of this was delivered against the backdrop of a global pandemic that caused so much additional work to create a safe and secure environment for both our team and yours, as well as the general public. Thank you to everyone for going the extra mile in ensuring we remained fit, healthy, and happy throughout our time in Japan and enabling our athletes to get to their respective start lines in such great shape. It made all the difference.

We know that the conclusion of the Games is not the end of our partnership, but rather the start of a journey that we will continue to go on together. We are very grateful for all the hard work of all the staff of the team who worked tirelessly to help with our operations.

We are also very thankful for the welcome provided by the volunteers by showing their spirit and determination. They created many beautiful displays that showcased Japanese culture for the athletes, and they greeted them every day with welcoming smiles. This cultural showcase was a particular highlight for the athletes, and really helped them to feel at home in Yokohama City.

I send my very best wishes and my thanks to the wonderful staff team in Yokohama.

Very best wishes,

Mike Sharrock
Chief Executive Officer
British Paralympic Association



横浜市の皆様からこの5年間にいただいたご支援と友情に、改めて心より感謝申し上げます。

本大会の開催においては、非常に困難な課題にも直面しましたが、横浜市の皆様と5年の年月をかけて築き上げた強力なパートナーシップのおかげで、英国代表チームの事前キャンプを安全に開催することができました。英国選手はキャンプによる多大な恩恵を得て、英国パラリンピック代表チームとして大成功を収めることができました。メダル総獲得数は124個で世界第2位、このうち金メダルは41個という素晴らしい結果でした。また、メダルの数だけでなく、数えきれないほどの永遠の思い出が私たちの心に刻まれました。

世界的なパンデミックの中、英国チームだけでなく横浜市の関係者や市民の皆様にとっても安全安心な環境を確保するために、非常に多くの苦労や時間が要求された本当に困難な状況の中で、このように素晴らしい成果が達成できたことは驚異的なことだと感じております。これもひとえに、キャンプ滞在中に英国代表団全員が心身ともに健康な状態を維持できるように、そして本大会でのスタートラインに万全の状態で臨むことができるように、惜しみなくサポートして下さった皆様のおかげです。皆様のお力添えがなければ、今回の成功を収めることはできませんでした。本当にありがとうございました。

大会の閉幕は、私たちのパートナーシップの終わりではなく、むしろ今後の継続的な連携のスタート地点となるでしょう。ここで改めて、運営面で献身的なサポートをして下さった、チームスタッフの皆様によるハードワークに対して、心よりお礼申し上げます。

また、ボランティアの皆様が示して下さった歓迎の心遣いやボランティア精神にも深く感謝申し上げます。ボランティアの皆様は、選手たちに、数多くの美しい展示を通して日本の文化を紹介して下さり、さらには、毎日温かい笑顔で選手たちに挨拶をして下さいました。選手たちは、日本文化の展示に大きく感銘を受けるとともに、横浜市を本当にホームのように感じていました。

素晴らしい横浜市の皆様に改めてお礼申し上げますとともに、横浜市のますますのご発展をお祈りいたします。

英国パラリンピック委員会CEO マイク・シャロック

横浜ホストタウンサポーター インタビュー

新型コロナウイルス感染症の影響により、難題も多かった英国代表チームの事前キャンプは、横浜市の英国事前キャンプボランティア「横浜ホストタウンサポーター」の尽力もあり円滑な運営に成功した。サポーターを代表して参加者6名から、2020年からの活動を振り返り、話を聞いた。



野田謙二さん

バブルを守ることが大切でした

私自身、英国に8年間住んでいたご縁もあり、英国代表チームが東京2020大会の事前キャンプを横浜市で行う時に、そのボランティアの一員になりたいと思い、応募しました。今回のボランティア活動では、コロナ対策が大切だということで、英国代表チームが到着する前に2度のワクチン接種を終えました。手洗い、消毒も人一倍、気を付けていたつもりです。活動中はバブルを守らなければいけないことと、そのために英国代表チームが円滑に動けるように、選手団の方々にもルールに沿って動いてもらうことが重要でした。

けれども、中には自分のわがままを押し出す方もいます。その際にどうやってコミュニケーションを取るかを考え、非常に気を遣いながらお話ししました。人に伝えることの難しさを痛感しましたね。これから横浜で国際大会がある時には、またボランティア活動に参加したいと思っています。



中西麻美子さん

みんなで作り上げるのが楽しい

30年近く、いろんなボランティアを続けています。ラグビー・トップリーグなどの経験もあります。また、横浜は地元ですし、東京2020大会は大きなイベントなので、「これはやるしかない」と応募しました。研修では、横浜市の方だけではなく、英国代表チームの方ともオンラインを通して、密なコミュニケーションを図れたことが印象に残っています。

苦労は特になかったです。楽しかったですし、中でも人生の財産になったのは、同じボランティアの皆さんに出会えたこと。その日、初めて会うグループだったにもかかわらず、まるでずっと一緒にいたかのように、最初から一致団結できました。問題が出てきたら話し合っ解決したりなど、みんなで楽しんでやろうという気持ちが一つになりました。みんなで何かを作っていくのが楽しいので、引き続き、横浜市のスポーツボランティアを続けていきたいです。



西松 香さん

選手を送り出した時が印象深い

ラグビーワールドカップ2019™で英国のハリ王子が来日された際に、横浜国際プールがある北山田の英語教室の教え子が、子ども記者として王子にインタビューする機会を得られました。それを機に国際プールで英国代表チームが事前キャンプを行うことを知り、しかもボランティア募集中だと。

東京2020大会に何かかわりたい気持ちがあったのですが、チャンスがなく、この機会を逃さないようにと応募しました。ボランティア初日は何をやればいいのか理解できず、どうしようという感じでしたが、日を追ってボランティアの方と横浜市職員の皆さんで、いろいろ意見を出し合ったら、何をすべきかが見えてきました。また、英国チームの方からも話を聞いて、すごくいい経験になりました。事前キャンプが終わって、選手団をみんなで手を振って送り出した、お別れの時は寂しかったですが、とても印象に残っています。



只野慶子さん

選手にエネルギーをもらいました

英国代表チームの方からオンライン研修で、事前キャンプの重要性を伝えていただきました。当時は事前キャンプを行う意味を、よく分かっていなかったのですが、英国代表チームがコロナ禍であっても事前キャンプを実施したいという強い思いを、研修中に話してくれたことが印象的でした。個人的にも、ラグビーワールドカップ2019™などの事前キャンプをネットで調べて、イメージトレーニングをしていました。

コロナ禍で人との接触が難しいため、何をしたらいいのかわからなくなり、最初はもどかしかったです。それでもボランティアとして日数を重ねていくうちに、SNSで選手が喜んでくれている姿を見て、自分たちが行っていることは間違っていないと思えました。私はアスリートにはなれませんが、彼らを支えることで良いエネルギーをもらえると信じています。今後もスポーツボランティアを続けていきたいですね。



田邊東彦さん

延期された1年で英語を勉強

5、6年前から横浜マラソンなどのスポーツボランティアをしていたので、ぜひ東京2020大会のボランティアにも参加したいと思い、応募しました。研修ではオンラインでの英国の方の話についていくのが大変でした…。ただ、大会が延期されて1年間の準備期間ができたと考え、英語のヒアリング力を高めようとTOEICを受けたりできたのは良かったです。

英国代表チームとは、コロナの影響もあったため、接する時間は短かったです。それでも会話を楽しむとまではいかないのですが、駐車場やエレベーターホールなどで、いろいろやり取りできたことが印象に残っています。また、何か問題が出てきたら、同じボランティアの皆さんと意見を出し合っ解決するといった共同作業が、忘れられない思い出になりました。これをきっかけに、横浜と英国の交流イベントなどが開かれれば、またボランティアとしてお手伝いしたいです。



玉川祐之さん

感謝された瞬間が良い思い出に

もともとラグビーやマラソンが好きで、自分で参加する方だったんですけど、ラグビーワールドカップ2019™の時に支援する側の楽しみを知り、応募しました。研修では、英語で案内する体験が印象に残っています。自主的には、英国の歴史や食事のなどを本やネットで勉強しました。コロナ禍でも東京2020大会を開催できて良かったと思いますし、大会に参加できたことは非常にうれしかったですね。

本来なら、もっといろんなコミュニケーションや活動の中での交流があったと思います。ただ、少ない時間ながらも、英国代表チームの方々や接して、感謝される瞬間がありました。最後にチームのバッジを私にくれた方がいて、「ありがとう。君たちのおかげですごく助かったよ」と言われました。うれしかったですし、思い出になっています。横浜市のスポーツボランティアには、ぜひ若い人も参加してほしいですね。

ボツワナ オリンピック代表チーム

- 実施期間：2021年7月7日～8月5日
- 練習施設：
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス、
武相中学・高等学校

人口約235万人を抱えるアフリカ南部の国・ボツワナ共和国から陸上、水泳の選手・関係者たち24人が参加して行われた横浜市内の事前キャンプ。6月21日に事前キャンプに関する覚書を締結し、キャンプ・イン直前の7月6日に事前キャンプ実施を公表した。日本体育大学 横浜・健志台キャンパスでは陸上競技選手がトラックを使った練習、プールでは競泳選手がそれぞれに練習を行った。武相中学・高等学校ではトレーニングルームが利用され、選手らが汗を流した。

また、今回の東京2020大会では、ここで最終調整を行った陸上競技男子4x400mリレーの代表選手が、同国で唯一のメダルとなる銅メダルを獲得した。

キャンプ中の1日の主なスケジュール

朝食	6:00～8:00頃
練習	6:30～11:00頃
昼食	11:30～14:00頃
練習	15:00～20:00頃
夕食	18:00～21:30頃

※時間は競技・日により異なる



↑大会後、銅メダルを首に掛けて大さん橋で記念撮影

→ボツワナ大使館より、事前キャンプ受入れに対するお礼として横浜市に贈られた記念品



ボツワナ パラリンピック代表チーム

- 実施期間：2021年8月13日～22日
- 練習施設：
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス、
横浜市スポーツ医科学センター

ボツワナオリンピック代表チームの事前キャンプ中に、急遽、パラリンピック陸上競技チームから事前キャンプ実施のオファーが横浜市へ届き、急ピッチで準備を進めて8月6日に事前キャンプに関する覚書を締結。8月11日に事前キャンプを行うことを公表した。横浜市の事前キャンプの対応が、同国から高く評価されたことだった。選手団は陸上競技チームの7人で、日本体育大学 横浜・健志台キャンパスをメインに、横浜市スポーツ医科学センターでも練習を行った。

オリンピック代表チーム同様に、毎日の検温やPCR検査、移動時には公共交通機関を使わずに専用車両を利用、練習会場は貸切として、一般市民との接触機会をなくすなど、コロナ対策を万全にして行われた。



←パラ陸上競技女子400mT13に出場した選手。日体大 横浜・健志台キャンパスでの直前の調整に力が入る



↑お揃いのジャージを身にまとい練習

チュニジア オリンピック代表チーム

- 実施期間：2021年7月10日～26日
- 練習施設：
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス、
武相中学・高等学校、鶴見スポーツセンター

これまでホストタウンとして交流を深めていたアフリカ北部に位置するチュニジア共和国。人口約1,169万人の同国から柔道とアーチェリーの選手ら8人の選手団が訪れ、事前キャンプを行った。2021年6月29日に事前キャンプに関する覚書を締結し、7月10日～26日までの期間に、オリンピック選手村へ入るまで日本の気候に慣れる目的などもあり行われた。

日本体育大学 横浜・健志台キャンパスでは柔道選手が柔道場で連日熱の入った練習を行い、武相中学・高等学校や鶴見スポーツセンターではトレーニングルームで、バーベルなど器具を利用して、オリンピックへ向けた調整を行った。



↑ウエイトトレーニングを行った女子柔道代表選手たち。鶴見スポーツセンターにて



↑宿泊施設ではコロナ対策のため距離を取って、にこやかに食事を摂る選手たち



↑チュニジアオリンピック委員会より、事前キャンプ受入れに対するお礼として、横浜市に感謝状が贈られた

スポーツ庁事業参加国の パラリンピック代表選手

- 実施期間：2021年8月14日～20日
- 練習施設：
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス

スポーツ庁から委託を受けて、中南米や中東、アジア、アフリカ諸国、主に開発途上国・地域のパラリンピック委員会の、東京2020大会の出場支援などを実施する「戦略的二国間

スポーツ国際貢献事業」として、日本体育大学が9か国から24人のパラリンピック代表選手を受け入れ、横浜市がサポートした。競技は水泳と陸上で、水泳は2021年8月14日～20日の日程で行われ、セントビンセント、バルバドス、ウルグアイの3か国から計6人の選手が参加。陸上は8月15日～20日の日程で行われ、ザンビア、マラウイ、タンザニア、レバノン、モルディブ、イエメンの6か国から合わせて18人が参加した。

大学内の陸上トラックやフィールド、プールなどを使って、パラリンピック本番に備えての最終的な調整を行ったが、時差や日本特有の高温多湿な気候など、それぞれの母国とは違う環境への適応準備に大きな役割を果たしたキャンプだった。



←レバノンのパラ陸上競技代表



→セントビンセントのパラ水泳代表



←ザンビアのパラ陸上競技代表



→マラウイのパラ陸上競技代表

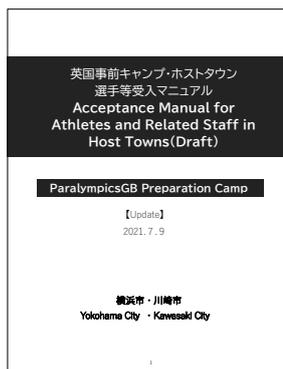


←モルディブのパラ陸上競技代表

事前キャンプにおける 新型コロナウイルス感染症対策

英国、ボツワナ、チュニジアなど12か国の事前キャンプを受け入れた横浜市は、国等からの指示に基づき、移動、宿泊、練習などの各場面に応じた感染症対策に取り組んだ。具体的には、国が策定する「ホストタウン等における選手等受入れマニュアル作成の手引き」に基づきマニュアルを作成。マスク着用など基本的な対策はもちろん、相手国や関係各所と調整の上、場面ごとの選手団と市民等との接触を避けるための対策や選手等の行動管理、選手及び関係者等へのスクリーニング検査の方法等を策定し実施した。

また選手団は、滞在期間中の用務先を宿泊施設、練習施設、競技会場に原則限定され、用務先と移動手段等を記載した活動計画書と計画書を遵守させる旨の誓約書を提出。横浜市はマニュアルをもとに、選手団の行動管理を行った。選手団及び関係者の徹底した感染症対策により、事前キャンプ中、各選手団からの新型コロナウイルス感染症陽性者は、1人も発生しなかった。



←各施設の仕様に合わせた行動可能エリアや動線、手指の衛生方法、換気方法、荷物の取扱、施設器具の消毒に至るまで、マップとともに細かく明記した受入れマニュアル



→感染症対策以外の項目も網羅した独自のマニュアルも策定。川崎市・慶應義塾大学とともに作成した英国版のマニュアルは140ページ以上になる

【遵守すべき基本事項(制限・行動ルール)】

- (1) 密閉・密集・密接の回避: 換気の悪い密閉空間や多数が集まる密集場所、間近で発声や会話をする密接場面を避ける
- (2) フィジカルディスタンスの確保: 選手等と接触する人は、原則2mの距離を確保
- (3) 飛沫対策: 全員が原則マスクを着用
- (4) 手指衛生: 手洗いや手指消毒を徹底
- (5) 換気: 30分に1回以上、数分間程度窓やドアを開ける、または換気設備等による換気を行う。複数の窓やドア等がある場合、2方向開放
- (6) モノ經由の接触感染回避: 可能な限り、共有使用物の使い回しを避ける。避けられない場合は消毒を実施する
- (7) 体調管理: 選手等は入国する14日前から毎日の体温や体調等を記録し、東京2020組織委員会に報告。関係者等も活動14日前から毎日の体温、体調等を記録。体調不良や発熱等の症状のある者は活動停止等の措置を徹底する

ゾーニングの考え方

場面ごとの対策を考える際は、一般市民との接触を避けるためゾーニングを徹底し、相手国専用エリアを形成した。エリア内で活動できるのは原則相手国のみ、基本的には空間ごと貸切とし、どうしても選手団と一般市民が交差する公共空間などでは、時間ごとの占有としたり、パーティションなどで境界線を区切るなど、選手団とのフィジカルディスタンスが確保できるよう、各場面でのゾーニングや動線を設定した。

また、関係者は、具体的な接触場面を想定した上で、相手国との接触可能性ごとにレベル分けし、接触頻度が高い場合は選手団と同様に毎日検査を行うなど、スクリーニング検査の頻度を規定。相手国選手団と市内関係者及び市民、両者を守るため、エリア内を完全にクリーンにするよう、対策を講じた。



↑英国事前キャンプでは、IDカードをレベルで色分けして、分かりやすく容易に識別できるように管理。ゾーニング設定に向け、英国と何度も協議を重ねた



←宿泊施設の選手団専用エントランス。パーティションとスタッフによりゾーニング

入国

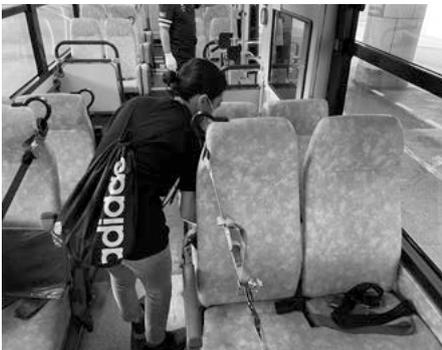
選手団は、出国前96時間以内の2回の検査、入国時の空港での検査に加え、陰性証明の提出が求められた。入国ピーク時には、多くの選手団が空港に到着し、長時間検査結果を待つことも。空港から事前キャンプ地までの移動時は、必ずアテンドが付いた。



←選手団専用の動線内を移動

移動

事前キャンプ中の選手団の移動については、原則として専用車両を利用。徒歩で移動せざるを得ない場合は、全員がマスクを着用した上で大声での会話を避け、住民等とのフィジカルディスタンスを確保するため、スタッフ同行のもと移動した。



←練習施設への往復の合間にバス内を消毒

宿泊施設

宿泊施設においては、選手等と他の宿泊客との接触を避ける措置として、原則フロアごと貸切とし、他の宿泊客との動線を分離した。食事の際も、アクリル板などで仕切るなど、飛沫対策が徹底され、リネンの取扱いやごみの廃棄方法、清掃方法など、細かい部分も事前に確認が行われた。



←駐車場から宿泊施設間も、フィジカルディスタンスを保ちボランティアなどスタッフが同行

練習施設

使用する練習施設すべてについて、基本事項に基づきゾーニングや動線、換気方法、飲食方法が決められた。練習前後には消毒を実施。マニュアル作成の際は、各施設も協力。スタッフ含めコロナ対策を徹底し、万全な受入れ体制構築を行った。



←専用エリアが分かりやすいようにゾーニング

スクリーニング検査

選手団は毎日検査を実施。そのほか、運営本部スタッフや、移動時の運転手、宿泊施設・練習施設スタッフ、横浜市関係者などを対象に、選手団との接触頻度に応じて検査を行った。検査方法は唾液を検体としたPCR検査で、結果は原則当日中に判明。キャンプ期間中に横浜市が実施した検査は、約15,000件以上に上った。



←検査の際も、フィジカルディスタンスが確保できるように動線を工夫



→採取した検体は、氏名ごとに確実に管理

医療体制

選手団から陽性者等が発生した場合は、「神奈川モデル」にて対応。英国については陽性疑い時の再検査等を慶應義塾大学と連携して実施することとした。

また、事前キャンプ期間中は、新型コロナウイルス感染症対応や発熱外来に限らず、練習時の外傷など一般傷病の対応が発生する。事前に選手等の受入可能な医療機関を調整したほか、選手団のチームドクターとオンラインなどで対応できる体制を整えた。

ホストタウン

ホストタウンとは、東京2020オリンピック・パラリンピック開催をきっかけに、大会参加国と地域との人的・経済的・文化的な交流を図るとともに、地域の活性化などを推進するため、内閣官房による登録を受けた地方公共団体のこと。横浜市は9か国のホストタウンに登録された。

横浜市のホストタウン相手国(登録順)

英国、イスラエル国、チュニジア共和国、ベナン共和国、ボツワナ共和国、コートジボワール共和国、ブルガリア共和国、モロッコ王国、アルジェリア民主人民共和国

英国

(2016年1月26日登録)

1859年の横浜開港以来、歴史的にも長い関係性のある英国は、東京2020大会の事前キャンプ地決定を契機に、2016年に横浜市の最初のホストタウン相手国となった。登録以降、英国代表チームと調整し、来日機会を捉えた交流事業を実施。英国関係者との交流事業や英国文化に関する講演会、事前キャンプPRによる応援の機運醸成などにも取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症の影響により直接的な交流が難しくなったが、オンラインを活用し、2021年の事前キャンプでも交流を実現。2018年の最初の交流から、市内児童を中心に延べ約2,800名が英国代表チームとの交流に参加した。

●英国代表チームとの交流

2018年度

実施日	英国の交流相手・内容	参加人数
5月11日 ・12日	英国トライアスロン・パラトライアスロン代表チームとの交流会 (世界トライアスロンシリーズ横浜大会)	41人 (市内小学生)
9月21日	英国パラ水泳チームとの交流会 (2018ジャパンパラ水泳競技大会)	86人 (市内小学生)
	合計	127人



←9月の横浜国際プールで行われたパラ水泳大会に英国パラ水泳代表チームが参加したことで実現。選手たちの自己紹介の後、児童からの質問やプレゼントの贈呈があり、大会の公式練習も見学した



←参加者全員で集合写真



→選手と児童とのグループワーク



↑5月の世界トライアスロンシリーズ横浜大会に出場する選手たちとの交流会。選手と児童がグループになって自己紹介や質問したり、交流後には選手たちと試合観戦一緒に英国を応援。

2019年も交流会を行ったが、2020年はコロナ禍で大会が中止。2021年は交流会はできなかったものの横浜市から応援動画を贈ったところ、英国パラトライアスロンチームから感謝の動画が届くなど、交流が続いている

2019年度

実施日	英国の交流相手・内容	参加人数
5月17日	英国トライアスロン・パラトライアスロン代表チームとの交流会(世界トライアスロンシリーズ横浜大会)	31人(市内小学生)
7月8日	歓迎セレブレーション	369人(市内小学生)
7月12日・13日	英国水泳代表チームとの交流 (世界水泳選手権大会(韓国・光州開催)に向けたプレ事前キャンプ)	公開練習 12日:663人(市内小学生) 13日:111人(市内中学生)
7月12日、15日		日本文化体験プログラム 12日:6人 15日:9人(講師等)
7月16日		歓送セレモニー 67人(市内小学生)
	合計	1,256人

●英国プレ事前キャンプ

9日間のプレ事前キャンプ期間を通し、延べ1,225名の市民が参加。



歓迎
セレブレーション

←練習初日、サプライズで児童が拍手・旗振りでお出迎え。選手たちも思わず笑みがこぼれる

公開練習

→世界的なトップアスリートの迫力ある泳ぎを間近で見学。熱心に声援を送り、練習後は選手たちへ質問タイムも。リオ2016大会銀メダリストのジェームス・ガイ選手は「3歳まで全く泳げず金づちだったけど、学校に通ってから水泳の楽しさを知り、地元の大会に出られるように頑張って練習を積み重ねた結果、今の僕があるよ」と教えてくれた



日本文化体験
プログラム

←都筑区で活動する講師ボランティアの協力により、着付け、書道、折り紙体験を提供。家族の名前を漢字で書いて持ち帰る選手も

歓送セレモニー

→最終日、世界水泳に向かう選手たちにメッセージカードや演奏のプレゼント。最後は児童による花道でハイタッチしながらお見送り



2020年度

実施日	英国の交流相手・内容	参加人数
11月18日	英国オリンピック委員会(マーケティング責任者)によるオンライン授業の実施	22人(市内高校生)



↑横浜商業高等学校スポーツマネジメント科・国際学科の1～3年生を対象に「英国オリンピック委員会のブランド開発と東京2020大会に向けたキャンペーン」をテーマにオンラインで講演。生徒からの具体的な質問にも、丁寧に回答とアドバイスもらった

2021年度

実施日	英国の交流相手・内容	参加人数
7月5日	応援メッセージ入り旗の作成・掲出、選手団に贈呈	938人(市内小学生)
7月19日	英国水泳代表チームとの交流	オンライン交流(英国選手・コーチへの質問、エール)
7月20日		フェアウェル(国際プールから選手村へのお見送り)
7月28日		英国キャンプディレクターへのオンライン取材
	合計	1,376人



↑オンライン交流会には計8クラスが参加し、画面越しにエールを贈った。選手村へ移動する際のサプライズのお見送りには、選手たちも驚き笑顔。横浜への感謝のメッセージとともに、SNSにも数多く投稿してくれた

●広がる英国との交流

英国の公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルと協力し、英国の先進的な文化や取組を知るための交流や講演を実施。英国からスタディツアーで訪れていた児童との交流事業も実施した。

また、英国事前キャンプ応援の機運醸成のため、関連するイベントへのブース出展やGO GB英国応援動画を市内各所で放映。英国生まれの世界的人気キャラクター「ひつじのショーン」も、英国と横浜をつなぐ親善大使として、英国事前キャンプの盛り上げに貢献した。市民局だけにとどまらず、文化観光局や事前キャンプ地となる都筑区、港北区など、英国関連事業を実施する区局とも連携。英国ホストタウン関連事業として、2018年から4年にわたり、英国の文化、教育、音楽などの分野において、英国関係者と様々な交流を行った。

英国と横浜を知る講座

→2018年12月、栗栖良依さんを講師に「英国と横浜を知る講座～英国の共生社会文化から学ぶ～」を横浜市イギリス館で実施。英国オリンピック委員会CEOもゲストとして参加し、慶應義塾大学ケルト音楽愛好会の演奏や、英国の代表的なメニューが並ぶティータイムなど、英国文化を体験できるプログラムに



横浜ローズウィークでブース出展



↑2019年5月「横浜ローズウィーク」のローズ&ガーデンマーケットで日本大通りにブース出展。ひつじのショーンオリジナル缶バッチのワークショップや大きなバラを持ったショーンの撮影会は大人気。ブース出展や交流事業に向け、「GO GB 2020」や「ひつじのショーン」をデザインしたPRグッズが作成され参加者らに配られた

BBCスコティッシュ交響楽団との交流



↑2019年10月、初来日した「BBCスコティッシュ交響楽団」が市内2校の小学生203人と音楽による交流を実施。ボディパーカッションで一つの曲を作り上げたり、世界的なプロフェッショナルの演奏を聞いたり、伝統音楽で踊ったり。最後は給食を一緒に

英国コヴェントリー市児童との交流



←2019年11月、英国コヴェントリー市からオリンピックスタディツアーで来日した児童10名が市内児童・生徒と交流。横浜スタジアムでソフトボール女子日本代表チームと市内小学生の交流会に参加し、横浜国際総合競技場を見学。活動中は市内中高生19名が語学サポートを行った

英国ハリー王子との交流



↑2019年11月、当時ラグビーワールドカップ2019™決勝戦のため来日された英国王室のハリー王子が、日本のパラスポーツの拠点「日本財団パラアリーナ」を訪問。同席したつづきジュニア編集局の記者たちが交流と記念撮影

英国アーティストの招聘



←文化観光局は、2019年10月「ホッチポッチミュージックフェスティバル2019」でバクパイプ演奏家のジェラルド・ミューヘッドさんを招聘。スコットランド伝統のタータンチェックの民族衣装に身を包み、独特の音色のバクパイプを演奏し観客を魅了。横浜のアーティストとのセッションでは相互の文化交流を深めた

日英文化交流講座



↑都筑区では、北山田駅から横浜国際プールに向かう階段に「GO GB 2020」装飾を設置。さらに、2017年から2019年にかけて、食や自然など日本と英国に共通する文化をテーマに文化交流講座を開催した

港北オープンガーデンとの連携



←港北区では、ガーデニングの本場・英国で始まった、個人の庭等を一般開放し季節の草花を楽しむ取組「オープンガーデン」を通じ、英国文化をPR。「ひつじのショーン」のグリーティングやスタンプラリー企画も

イスラエル国

(2018年4月27日登録)

2012年、横浜市がテルアビブ-ヤッフォ市と「交流協力共同声明」を行って以来、記念植樹やダンス、音楽分野での交流を進めている。

ホストタウン応援サイトへのメッセージ投稿

選手や自治体の皆様の声を、広く国内外から集めて発信する応援サイト「みんなであつなげよう！ 応援の輪 #HostTownMessage」に応援メッセージを投稿した。



横浜スポーツガーデン特設サイトにイスラエル料理のレシピを掲載

大会期間中に市庁舎アトリウムで実施された、展示・体験イベント「横浜スポーツガーデン」の特設ウェブサイトに、ホストタウン各国の料理レシピを掲載した。イスラエル料理のレシピは、イスラエル大使館から提供された。



チュニジア共和国

(2018年4月27日登録)

アフリカ開発会議横浜開催を契機に、小学校での剣道ナショナルチームとの交流、チュニジアの特産品を紹介する物産展やコンサートの開催などを実施。2022年に同国で開催される第8回アフリカ開発会議に向けても交流を深めている。

事前キャンプにおける選手団との交流

以前から交流のあった市内小学校の児童が同国選手たちに向けた応援動画を作成。選手団の食事会場で放映し、とても喜ばれた。また、同校の6年生は柔道の代表選手やエルミ特命全権大使とオンラインで交流も図り、質問や応援メッセージを贈るなど、多彩な心温まる交流を展開した。そして港北区の5つの保育施設の園児が、選手たちへの応援メッセージを制作し、キャンプ期間中に宿泊施設に掲出された。



↑小学校児童とチュニジア柔道選手団とのオンライン交流



↑小学校からの応援横断幕と柔道代表選手団



↑保育園の応援メッセージとアーチェリー代表選手団

駐日チュニジア大使らが来浜

2021年7月27日に、エルミ特命全権大使、チュニジア・オリンピック委員会プサイエンヌ会長、ハシシャ事務局長一行と林副市長、横浜市会の清水議長、高橋副議長との面会が行われた。大使たち一行からは、横浜市や小学校への感謝の言葉などが伝えられた。



チュニジア共和国の官房長官と オンラインミーティング

2021年7月23日に、日本アフリカ友好横浜市議員連盟の佐藤会長と草間事務局長、横浜市の橋本国際局長が、来日中のワリッド・ダハビ官房長官とオンラインで面会。ダハビ官房長官から、ホストタウンである各都市に感謝の意が伝えられ、横浜市長をはじめ、チュニジアとの交流に取り組んでいる小学校等へ感謝状が贈られた。



ベナン共和国

(2018年8月31日登録)

アフリカ開発会議横浜開催や2013年にコトヌー市との間で行った交流協力共同声明を契機に、市内小学生のベナンへの理解促進や港湾の技術協力などの分野で交流を進めている。

JICA横浜ポートテラスカフェで ベナン料理が登場

本市と市内企業等が連携し企業等主催によるホストタウン関連事業を実施。JICA横浜ポートテラスカフェでは、2021年7月26日～8月1日に「ソース・ゴンボ」を提供。海老とオクラのソース煮で、名物の味を楽しめる貴重な機会となった。

駐日ベナン大使からメッセージ

アデチュブ特命全権大使から市民へのメッセージ動画を公開。「今後も横浜市と共同声明都市であるコトヌー市との交流を深め、ベナンと日本の協力関係を強めていきたい」と話した。



↑駐日ベナン大使のアデチュブ・マカリミ・アビソラ閣下(当時)

横浜翠陵中学校でベナンに関する 国際協力出前講座を実施

JICAが、アフリカのホストタウンとなっている市町村の中学生に向けた学習教材を作成。2021年7月16日に、横浜翠陵中学校でオンライン出前講座が行われた。



↑ベナン出身留学生によるオンライン出前講座の様子

ボツワナ共和国

(2018年8月31日登録)

都筑区とボツワナは児童が絵画を交換しあう「都筑・ボツワナ交流児童画展」を2014年から行っている。2016年には同区とボツワナ大使館との間で交流促進に関する共同発表を行った。

事前キャンプにおける選手団との交流

以前から交流のある都筑区内の小学校の児童が、選手に向けた応援メッセージ動画を作成し、選手団の食事会場で放映された。また、児童と選手団とのオンライン交流も行われ、「勝つために何を食べているか」などの質問も飛び出し、親睦を深めた。ほかに、カサ臨時代理大使が市長、清水議長、高橋副議長を表敬訪問した。



←小学校児童とボツワナ選手団とのオンライン交流

宿泊施設に応援メッセージを掲出



↑小学校からの応援メッセージとパラリンピック選手団

大さん橋で子どもたちと交流

日本アフリカ友好横浜市議員連盟による、選手団の市内バスツアーを実施。大さん橋では、横浜に凱旋を果たした選手団と都筑区のボーイスカウトの子どもたちが交流。男子4x400mリレーで獲得した銅メダルを見ることができ、子どもたちにとって貴重な経験になった。



↑選手団と子どもたちとの交流の様子

パラアスリートへの応援ソングを披露

横浜市立盲特別支援学校教員の栗山龍太さんが作詞作曲したパラアスリート応援ソング「リアルビクトリー」を宿泊施設で放映。選手らは合唱し、大いに盛り上がった。



↑教員が歌っている動画を宿泊施設で放映

コートジボワール共和国

(2018年10月31日登録)

横浜市とコートジボワールアビジャン自治区は、2017年交流協力共同声明を発表し、都市課題の解決や若い世代の交流、女性の活躍分野で連携していくことで合意し、交流を進めている。

中学校給食でコートジボワール料理を提供

横浜市の中学校給食にホストタウン相手国応援メニューが登場。2021年6月17日には、コートジボワール発祥の料理「ケジェヌ」が提供された。



←鶏肉と野菜を使った煮込みで、コートジボワール発祥の料理「ケジェヌ」

駐日コートジボワール大使が市内中学校を訪問

2021年6月17日にウェヤ特命全権大使が市内中学校を訪問。生徒たちは、応援コールで歓迎した後、あいさつと質疑応答を行い、同日に給食で出された郷土料理「ケジェヌ」にも舌鼓を打った。



←大使と生徒らの交流の様子。「ケジェヌ」はおいしいと評判だった

ブルガリア共和国

(2019年10月31日登録)

2008年に保土ヶ谷区とソフィア市との間でパートナー都市協定を締結。バラの女王の訪問、記念植樹、民族音楽グループの公演、絵画展、料理教室・刺繍体験教室などの交流を進めている。

保土ヶ谷区内地区センターでブルガリア料理教室を実施

保土ヶ谷区では、2018年よりブルガリア出身の方を講師に招いて、市民を対象としたブルガリア料理教室を区内地区センターで実施。また、試食後に行われるブルガリア講座は参加者に好評だった(2020年～2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止、動画を配信)。



保土ヶ谷区内小学校でブルガリア理解授業を実施

保土ヶ谷区では2016年度から毎年、区内小学校でブルガリア理解授業を実施している。ブルガリア民族音楽の披露やブルガリア出身者による文化紹介等を通して、子どもたちが理解を深めている。



モロッコ王国

(2019年10月31日登録)

アフリカ開発会議横浜開催を契機として、市内小中学生のモロッコへの理解促進、モロッコ文化・経済の紹介などの交流を進めている。

ホストタウン応援サイトへのメッセージ投稿

内閣官房が運営する、「みんなでつなげよう！応援の輪 #HostTownMessage」で、「たくさんの感動をありがとう」と横浜市からのメッセージが掲載された。

駐日モロッコ大使からメッセージ

ブフラル特命全権大使から市民へ、感謝の気持ちを伝えるメッセージ動画を公開した。



↑駐日モロッコ大使のラシャッド・ブフラル閣下

アルジェリア民主人民共和国

(2020年2月28日登録)

アフリカ開発会議横浜開催を契機として、市内小学生のアルジェリアへの理解促進や国際イベントなどを通じた交流を進めている。

ローズホテル横浜で週替わり ホストタウンランチを提供

本市と市内企業等が連携し企業等主催によるホストタウン関連事業を実施。ローズホテル横浜では、アルジェリア風スープの「チキンとリゾーニのショルバ・ブラン」を提供。



駐日アルジェリア大使からメッセージ

ベンシェリフ特命全権大使から、「オリンピック・パラリンピックが、参加国に対する興味や知識を深められる機会となるよう願っている」とホストタウンに対する感謝の言葉が贈られた。



↑駐日アルジェリア大使のモハメッド・エル・アミン・ベンシェリフ閣下(当時)

その他の交流

中学校給食で各国料理のメニューを提供

2021年6月17日に、コートジボワールやモロッコの料理を採用したアフリカメニューを提供。7月8日には英国メニューが、7月12日にはブルガリアメニューが提供され、合計38,975食が食べられた。



ホストタウン功労賞を受賞

内閣官房より、ホストタウンの取組において特に顕著な功績のあった個人・団体に、ホストタウン功労者として感謝状が贈られた。横浜市からは、英国事前キャンプ横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」、KEIO 2020 project (慶應義塾大学体育研究所)、横浜市立保育園、横浜市内小学校が受賞した。

オリンピック開催250日前オンラインイベント

2020年11月29日に行われた「250 Days to Go! オンラインフェスティバル for Tokyo2020 in 横浜」のホストタウン相手国応援ステージ。コートジボワールをはじめとしたアフリカ音楽とダンスを披露。



←アフリカンバンド「サブマンド」がアフリカ伝統音楽を演奏

日本アフリカ友好横浜市議員連盟による選手団激励

日本アフリカ友好横浜市議員連盟の佐藤会長、草間事務局長が、市内で事前キャンプを行うボツワナ共和国・チュニジア共和国の選手団を激励。東京2020オリンピック・パラリンピックでの活躍に期待を寄せた。



↑十分な距離をとって選手を激励



→チュニジアの柔道代表選手たちの宿泊施設を訪問

「アフリカとの一校一國」交流校による応援動画のホームページ掲載

アフリカのホストタウン相手国6か国と交流のある市内小中学生約1,200名が、相手国へのメッセージ動画を作成し、各国選手団を応援した。各国大使のメッセージ動画とともにホストタウン公式サイトに掲載し、9月30日まで配信された。

駐日アフリカ大使からの市民へのメッセージを公開

ホストタウン相手国であるチュニジア、ベナン、ボツワナ、コートジボワール、モロッコ、アルジェリアのアフリカ6か国の大使らが、横浜市民へ感謝の言葉を述べたメッセージ動画を掲載。動画は2021年9月30日まで公開された。

選手団や大使館へフォトブックを贈呈

市内で事前キャンプを実施したボツワナのオリンピック・パラリンピック代表チーム、チュニジアのオリンピック代表チームに対し、横浜市が事前キャンプの記念品としてフォトブックを制作。選手関係者や各国の大使らに贈呈した。横浜市の魅力の発信や、各国との親交をさらに深めてくれた。



市内企業によるホストタウン関連事業を実施(下表)

市内企業等と連携し、企業等が主催するホストタウン関連事業を実施。約17,000人の市民が参加した。



日程(2021年度)	開催企業	実施内容
6月29日～9月5日	横浜人形の家	9か国の人形展示
7月1日～9月5日	ヨコハマグランド インターコンチネンタルホテル	ホストタウン相手国メニューの提供(英国、モロッコ、チュニジア)
7月5日～9月3日	ローズホテル横浜	ホストタウン相手国メニューの提供(イスラエル、チュニジア、アルジェリア、ブルガリア、英国、コートジボワール、モロッコ)
7月19日～8月29日	JICA横浜	ホストタウン相手国メニューの提供(アフリカ6か国)
7月22日～28日	そごう横浜店	英国フェア
7月22日～9月5日	横浜ワールドポーターズ	ホストタウン相手国応援展示
7月29日～8月4日	京急百貨店	ホストタウン相手国応援フェア(英国、イスラエル)

各区施設等と連携したホストタウン展示及び広報活動等

日程	開催施設等	実施内容
2020年1月15日～2月14日	横浜市中心図書館	ホストタウンパネル展示
1月8日～25日	横浜市営地下鉄横浜駅改札	デジタルサイネージを活用したPR
2021年5月7日～31日	鶴見図書館	スポーツ関連書籍の展示及びホストタウン展示
6月～9月	市庁舎	デジタルサイネージを活用したPR
6月6日	港北国際交流ラウンジ	英国についてのお話及びホストタウンについての紹介
6月15日～17日	市庁舎アトリウム	聖火リレートーチ展示期間におけるホストタウン展示
7月	広報よこはま	7月号でのホストタウン紹介
7月	東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜版ウェルカムガイドブック	ホストタウン紹介
7月5日	こどもタウンニュース	ホストタウン紹介
7月21日～8月8日、 8月24日～9月5日	市庁舎アトリウム	横浜スポーツガーデンにおけるホストタウン展示及びウェブサイトへの各国レシビ掲載
7月22日～8月6日	泉区役所ホール	東京オリンピック×読書×多文化コラボ展示におけるホストタウン展示
11月20日～21日	ほどがや国際交流ラウンジ	「ほどがや国際フェスタ」におけるホストタウン展示

共生社会ホストタウン

パラリンピアンとの交流をきっかけに、共生社会の実現のため、ユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリーの取組を実施する自治体を「共生社会ホストタウン」として内閣官房が登録する制度。横浜市は、それまでの共生社会の実現に向けた取組が認められ、2019年12月17日に「共生社会ホストタウン」に登録された。

宿泊施設バリアフリー化 促進事業費補助金

東京2020大会を契機に、横浜を訪れる高齢者、障害者等の安全で快適な宿泊環境を整えるために、横浜市内の既存の宿泊施設をバリアフリー化する取組について助成する制度。

【実績】

●2019年度

ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

【改修内容】

客室・共用トイレの手すり改修、客室のカーテンレール整備、バスボード・シャワーチェアの設置等

横浜ロイヤルパークホテル

【改修内容】

客室のカーテンレール整備、シャワーチェア、トイレ背クッションの設置等

●2021年度

横浜ベイシエラトンホテル&タワーズ

【改修内容】

バリアフリールームのハンガーバーの高さの改修、共用の多目的トイレをオストメイト付きに改修



↑跳ね上げ式手すりへの改修



↑シャワーチェア

インクルーシブデザイン オンラインセミナー

2020年12月11日、ロンドン2012パラリンピックのレガシーとして設立された、グローバル・ディスアビリティ・イノベーション・ハブ(GDI Hub)のディレクター、イアン・マッキノンさんが「スポーツ施設におけるインクルーシブデザイン」をテーマに講演を実施。当日は、英国の知見を元に市内のスポーツ施設についてアドバイスなどもあった。

→英国からオンラインで講演



バリアフリーマップまちあるき

2020年12月13日、競技会場や聖火リレーのルート等、大会に関連した催しの場となる関内や赤レンガ倉庫周辺を誰もが安心して訪れることができるよう、「バリアフリーマップ」を作成するため、NTT クラリティ(株)の協力のもと、車いすを使用して、まちあるきを実施。参加した子どもたちからは、「障害のある人の気持ちを知ることができ、たくさんの発見があった」などの感想が寄せられた。



↑赤レンガ周辺をまちあるき



↑作成されたバリアフリーマップ

「ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2020」における共生社会の 実現に向けたシンポジウム

障害者と多様な分野のプロフェッショナルによる現代アートの国際展「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020」において、2020年11月20日にシンポジウムを実施。2014年から続く活動で得られたものや課題、障害者の文化芸術活動の今後のあり方などについて、アート、福祉、まちづくりなど、様々な視点からディスカッションを行った。

オンラインセミナー「英国 パラリンピアンからのメッセージ」

パラ水泳の英国パラリンピアン、スージー・ロジャースさんを講師に招いて、共生社会を考えるオンラインセミナーを2021年3月19日に開催。パラアスリートとしての自身の体験談やパラリンピックの意義などの話があった。

→日英同時通訳
で一般公開



第6章

横浜のさらなる飛躍へ

2016年に策定された「横浜ビジョン」に基づき、ラグビーワールドカップ2019™、東京2020大会を契機としたスポーツや文化芸術の振興、シティプロモーションといった様々な取組を横浜市一丸となって進めてきた。その成果が「次の世代への贈り物(レガシー)」となる。



次世代への贈り物・レガシー

ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市推進本部(P44参照)を中心に、大会の成功に最大限貢献するための取組や、大会を契機としたスポーツ振興の充実、文化芸術の振興、シティプロモーション等に全庁横断的に取り組んだ。それら様々な取組の成果は、『次の世代への贈り物(レガシー)』となり、東京2020大会終了後も、横浜のさらなる飛躍へとつながっていく。

①大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

会場整備(環境創造局、市民局)

●横浜国際総合競技場

2017年度からスタンド席の改修や、トイレのバリアフリー化、電気・機械設備の改修など様々な整備がされており、それらの成果が東京2020大会へと引き継がれた。



→東京2020大会仕様の装飾が施された横浜国際総合競技場

●横浜スタジアム

スタンド及び座席は右翼側スタンド席(約3,500席)、左翼側スタンド席(約2,500席)、バックネット裏に個室観覧席(約500席)が増設された。2020年2月に全体完成後の収容人数は、従来の約29,000人から約35,000人に増加した(増築に伴う既存スタジアムの減席あり)。また、回遊デッキの新設により公園との一体化を図るとともに、観客用エレベーターが増設(8基)され、バリアフリー化が推進された。



→右翼側スタンド席及び個室観覧席は2019年3月、左翼側スタンド席は2020年4月に供用開始

危機対処・防災訓練(総務局)

「東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市危機管理計画」を策定し、東京2020組織委員会、神奈川県警察、鉄道事業者等の関係機関と連携した訓練を計画。両競技会場で同時に危機事案が発生したことを想定した情報受伝達訓練や、JR関内駅(横浜スタジアム最寄駅)で不審物が発見されたことを想定した実動訓練(※大雨災害対応発生により中止)等により、危機事案発生時に迅速かつ確に対応できる危機管理体制を構築。今後の大規模イベントに生かしていく。



↑大会警戒本部では、訓練を生かしたスムーズな情報伝達が行われた



↑市庁舎には緊急車両が配備され、万全の体制で有事に備えた

消防対策関連(消防局)

両競技会場の競技参加選手や多数の大会関係者等からの救急要請に迅速に対応するため、東京2020大会組織委員会との協定に基づき、大会専用救急自動車として両競技会場に各3台配備し、救急搬送を行った。配備車両については、市内の医療体制に支障が出ないように予備車を活用した。



↑競技会場に配備された大会専用救急自動車

ラストマイル安全対策(道路局)

神奈川県警察と協力し、交通安全対策の強化を目的に、両競技会場周辺において、歩道への車両突入事故を抑止する車止めやガードレール等の設置を行った。



↑横浜国際総合競技場付近に設置された車止め。横浜スタジアム周辺にも設けた

道路案内標識改善(道路局)

両競技会場周辺などにおいて、道路標識を訪日外国人をはじめ、すべての利用者に分かりやすいものとなるよう改善。高速道路路線番号の追加や、英語表記の見直しを実施した。



↑横浜スタジアム付近の道路標識(英語表記の見直し)

医療の国際化推進(医療局)

横浜市内の在住外国人及び訪日外国人が安心して医療機関を受診できる体制を整備するため、市内の病院や夜間急病センター等86か所(2021年9月末)に多言語に対応した電話医療通訳・翻訳サービスを導入した。



←対応言語は16言語(英語、中国語(北京語・広東語)、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、タガログ語、フランス語、ネパール語、マレー語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語)

多文化共生推進(国際局)

在住外国人ボランティア育成事業として、講座を企画・実施した。市内案内ガイドワークショップでは、横浜能楽堂見学、伊勢山皇大神宮、野毛山商店街をNPO法人横浜シティガイド協会所属ボランティアガイドの案内により見学後、グループワークで参加者自身のガイドコースを検討した。

また、横浜マラソン2018では、歩行者がコースを横断する際のランナー誘導のボランティア体験を行った。



←横浜能楽堂での市内案内ガイドワークショップの様子



→山下公園前での横浜マラソン2018ボランティア体験

横浜市・都市ボランティア(市民局)

→第3章「CCY(横浜市・都市ボランティア)のあゆみ」(P65~参照)

事前キャンプ・ホストタウン(市民局、国際局)

→第5章「世界とつながる」(P95~参照)

「フラッグリサイクルYOKOHAMA」事業(市民局)

→第4章「学校と連携した取組」(P83参照)

② スポーツを通じて横浜を元気に

インクルーシブスポーツの推進 (市民局)

障害の有無等にかかわらず、誰もがともにスポーツを行うことができるよう担い手を育成し、インクルーシブな環境づくりを推進するため、市内スポーツ団体(横浜市スポーツ協会に加盟する競技団体等)に対して、障害及びパラスポーツに関する理解を深める内容の冊子を制作・配付した。



←冊子「パラスポーツのすすめ!」では、パラリンピアンらの対談や障害者スポーツに関する基礎知識、障害者スポーツ実例紹介などを掲載。横浜市スポーツ協会ウェブサイトでも閲覧が可能

学校体育振興(教育委員会事務局)

東京2020大会を契機に、小中学生のスポーツへの取組意欲向上や技術力向上、大会に向けたホスピタリティを醸成すること等を目的に、小中学生とオリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートとの交流を行った。



↑新体操日本代表チーム「フェアリージャパン」元キャプテンの田中琴乃さんが、市内中学校新体操部を直接指導

特別支援学校におけるスポーツ選手 育成強化支援(教育委員会事務局)

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加を促進するため、課外活動に積極的にスポーツを導入。外部コーチの招へいや、国際大会への出場奨励等の事業を展開した。

③ 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

ヨコハマ・パラトリエンナーレ (文化観光局、健康福祉局)

ヨコハマ・パラトリエンナーレは3年に1度開催される“障害者”と“多様な分野のプロフェッショナル”による現代アートの国際展。文化芸術活動に参加したいと思う誰もが、健康や環境などの障壁(バリア)に阻まれずに参加できる環境を整え「障害者」と呼ばれる人々の個性や才能、斬新で自由な視点の数々を、アートやクリエイティブを介して有益な資源として社会に解き放つことで、誰もが居場所と役割を実感できる地域社会の実現を目指し、発展進行型のフェスティバルとして2014年から開催されている。

集大成を迎えるヨコハマ・パラトリエンナーレ2020では、オンラインとリアルを融合させて、パラトリテレビ、サーカスアニメーションやブックプロジェクトといった多彩なプロジェクトを展開した。

ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020

- テーマ: our curioCity—好奇心、解き放つ街へ
- 会期: プレ期間 2020年8月24日～
コア期間 2020年11月18日～24日

撮影:加藤甫



→市庁舎アトリウムに設置されたパラトリテレビ特設会場

④ 横浜を世界に魅せる

広告付案内サイン 公衆無線LAN整備(都市整備局)

来街者が目的地までスムーズに移動できるよう、通信環境や案内サインの整備といった情報提供面から回遊性の向上を図ることを目的に事業を実施。両競技会場周辺である都心臨海部・新横浜都心において、公民連携事業により、広告付き案内サイン及びWi-Fiを整備・供用し、来街者の滞在環境の向上を図った。



←みなとみらい21地区の案内サイン。観光拠点や主要な交差点周辺等、多くの来街者が集まる場所を中心に設置

クールスポットマップ(文化観光局)

横浜への来街者等向けに、両競技会場周辺の「涼」をテーマとした飲食店や観光施設等を紹介するクールスポットマップを制作した。鉄道各社と連携して市内・近郊エリアに広く配架し、市内回遊促進の取組を行った。



←クールスポットマップの表紙

テイクアウト&デリバリー横浜 (経済局)

テイクアウトやデリバリーを行っている、市内の飲食店をウェブサイトで紹介。近所のお店のおいしい料理を楽しみながら、自宅から大会を観戦するスタイルを提案した。



←ウェブサイトでは、市内のテイクアウトやデリバリーができる店舗をリスト化し、紹介している

カーボンオフセット推進 (温暖化対策統括本部)

2050年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama(ゼロ・カーボン・ヨコハマ)」を目指す取組の一つとして、2018年7月以降、東京2020大会に向けた「横浜カーボンオフセットプロジェクト」を推進。大会の市内開催に伴い排出されたCO₂排出量は、本事業に応募した市民・事業者の省エネなどの協力による削減量により、差し引き排出ゼロとなった。

公衆トイレ等の整備 (資源循環局、環境創造局)

両競技会場周辺や観光地周辺の公衆トイレや観客用トイレについて、来街者等へのおもてなしの観点から、全面的な改修を実施。案内の多言語化や洋便器化等の改修により、利便性向上とバリアフリー化を行い、多様な利用者のニーズに対応できるようになった。

「花と緑にあふれる環境先進都市」 横浜の取組(環境創造局)

●競技会場周辺の花と緑

横浜国際総合競技場周辺では、会場への動線となる主要な街路において、コアグラフィックス「紅」に合わせた色合いの花や、竹垣を用いた和風の花壇などで街路を彩った。横浜スタジアム周辺では、横浜公園～日本大通り～山下公園を花や緑でつなぎ、ガーデンシティ横浜を感じられる取組を発信。横浜公園では、映像などが配信されることも意識し、草花の配置を工夫した。



←横浜国際総合競技場に設置されたフラワータワーと大型コンテナ

●地域が主体となった通りの緑化

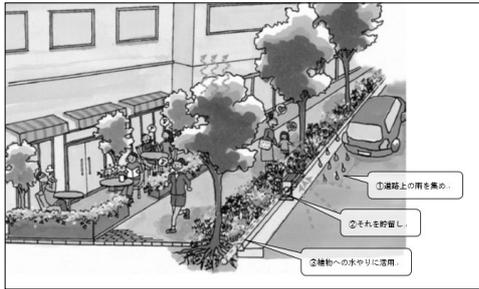
地域が主体となって、視認性の高い壁面緑化の実施などに取り組んだ。また、コンテナ花壇を民有地に設置し、街全体が緑豊かな雰囲気となるよう演出した。



→壁面緑化の高い視認性を活かし、賑わいを演出

●レインガーデン

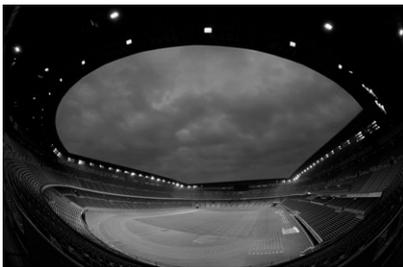
雨水を保水し、植物の生育を助ける「グリーンインフラ」の事例として、歩道や車道の雨水を花壇に引き込み、一時的に貯留し、時間をかけて浸透させる花壇(レインガーデン)を設置した。



↑レインガーデンのイメージ

●横浜国際総合競技場の照明LED化

照明をLED化したことで、音響と一体となった臨場感あふれる迫力ある照明の演出が可能となった。また、既存の照明に比べ、約35%の省エネを実現した。



←場内のLED照明。場外の照明はフルカラー化され、多彩な色彩での演出が可能に

●暑さをしのげる環境づくり

両競技会場周辺や最寄り駅周辺、ラストマイル上の公園などにおいて、道路局、港北区等とも連携し、ケヤキなどの街路樹を適切に管理し、緑陰の形成を進めた。新横浜駅前公園では、国土交通省の実証実験と連携し、緑陰とミストによる暑熱緩和アーチなどを設置した。横浜国際総合競技場では、フラクタル日除け(特殊な構造の日除け)を設置し、クールスポットを創出した。

→新横浜駅前公園に設けられた、緑陰とミストによる暑熱緩和アーチ



←横浜国際総合競技場東ゲート前広場のフラクタル日除け

●デザインマンホール

英国代表チームが、横浜国際プールで事前キャンプを行うのに合わせ、北山田駅周辺に“GO GB”デザインのマンホールを10枚設置した。



←設置されたデザインマンホール

●障害者就労支援施設等との連携花壇

大会PR花壇などを設置し、障害者就労支援施設等が維持管理を実施。華やかさや賑わいを演出した。



→新横浜駅北口駅前広場に設けられたPR花壇

●下水再生水の利用

花と緑への水やりに、水再生センターの下水再生水を活用。水循環の形成に寄与した。



←再生水による水やり

●風力発電で大会実施

大会期間中、両競技会場で使用する電力については、横浜市風力発電所ハマウイングで創出されたグリーン電力証書により、再エネ化を行った。

→横浜市風力発電所(ハマウイング)



資料編

ラグビーワールドカップ2019™

東京2020オリンピック・パラリンピック

横浜開催推進委員会 総会委員名簿

(2021年12月3日現在)

	団体名	役職名
会 長	横浜市	市長
副会長	横浜市会	議長
副会長	横浜商工会議所	会頭
副会長	公益財団法人横浜市スポーツ協会	会長

(団体名五十音順)

	団体名	役職名
委 員	株式会社アール・エフ・ラジオ日本	取締役会長
委 員	株式会社朝日新聞社横浜総局	総局長
委 員	小田急電鉄株式会社	取締役社長
委 員	海上保安庁横浜海上保安部	横浜海上保安部長
委 員	神奈川県警察本部	警備部長
委 員	一般財団法人神奈川県高等学校野球連盟	会長
委 員	一般社団法人神奈川県サッカー協会	会長
委 員	神奈川県信用金庫協会	会長
委 員	神奈川県ソフトボール協会	会長
委 員	一般社団法人神奈川県タクシー協会	会長
委 員	一般社団法人神奈川県トラック協会	会長
委 員	一般社団法人神奈川県バス協会	会長
委 員	神奈川県野球協会	会長
委 員	神奈川県野球協議会	会長
委 員	一般社団法人神奈川県野球連盟	理事長
委 員	一般社団法人神奈川県ラグビーフットボール協会	会長
委 員	神奈川県	スポーツ局長
委 員	株式会社神奈川新聞社	代表取締役社長
委 員	神奈川大学野球連盟	副理事長
委 員	一般社団法人共同通信社横浜支局	支局長
委 員	慶應義塾	塾長
委 員	京浜急行電鉄株式会社	取締役社長
委 員	国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所	事務所長
委 員	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所	事務所長
委 員	相模鉄道株式会社	代表取締役社長
委 員	株式会社産業経済新聞社横浜総局	総局長
委 員	株式会社時事通信社横浜総局	総局長
委 員	首都高速道路株式会社神奈川局	局長
委 員	一般社団法人全国旅行業協会神奈川県支部	支部長
委 員	株式会社テレビ神奈川	代表取締役社長
委 員	東海旅客鉄道株式会社新幹線鉄道事業本部	企画部長
委 員	東急株式会社	取締役社長
委 員	東京新聞(中日新聞東京本社)横浜支局	支局長
委 員	中日本高速道路株式会社東京支社横浜保全・サービスセンター	所長
委 員	株式会社日本経済新聞社横浜支局	支局長
委 員	日本放送協会横浜放送局	局長
委 員	一般社団法人日本ホテル協会神静山梨支部	支部長
委 員	日本郵便株式会社南関東支社	支社長

	団体名	役職名
委員	一般社団法人日本旅行業協会関東支部・神奈川県地区委員会	委員長
委員	東日本高速道路株式会社関東支社京浜管理事務所	事務所長
委員	東日本旅客鉄道株式会社横浜支社	営業部長
委員	株式会社毎日新聞社横浜支局	支局長
委員	横浜市立高等学校長会	会長
委員	横浜市立小学校長会	会長
委員	公立大学法人横浜市立大学	理事長
委員	横浜市立中学校長会	会長
委員	横浜市立特別支援学校長会	会長
委員	横浜エフエム放送株式会社	代表取締役社長
委員	公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー	理事長
委員	一般社団法人横浜銀行協会	会長
委員	横浜港運協会	会長
委員	一般社団法人横浜港振興協会	会長
委員	横浜高速鉄道株式会社	代表取締役社長
委員	株式会社横浜国際平和会議場	代表取締役社長
委員	一般社団法人横浜サッカー協会	会長
委員	株式会社横浜シーサイドライン	代表取締役社長
委員	一般社団法人横浜市医師会	会長
委員	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	理事長
委員	横浜市ケーブルテレビ協議会	会長
委員	一般社団法人横浜市工業会連合会	会長
委員	横浜市交通局	局長
委員	公益財団法人横浜市国際交流協会	理事長
委員	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会	会長
委員	横浜市障害者社会参加推進センター	センター長
委員	一般社団法人横浜市商店街総連合会	会長
委員	横浜市私立中学高等学校長協会	会長
委員	公益社団法人横浜市身体障害者団体連合会	理事長
委員	横浜市スポーツ推進委員連絡協議会	会長
委員	横浜市青少年指導員連絡協議会	会長
委員	横浜市ソフトボール協会	会長
委員	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会	理事長
委員	横浜市町内会連合会	会長
委員	横浜市PTA連絡協議会	会長
委員	公益社団法人横浜市病院協会	会長
委員	横浜市ラグビーフットボール協会	会長
委員	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	理事長
委員	横浜市旅館組合連合会	会長
委員	横浜市	副市長
委員	横浜市	市民局長
委員	一般社団法人横浜青年会議所	理事長
委員	株式会社横浜DeNAベイスターズ	代表取締役社長
委員	株式会社横浜フリースポーツクラブ	代表取締役社長COO
委員	横浜マリノス株式会社	代表取締役社長
委員	横浜野球連盟	理事長
委員	株式会社読売新聞東京本社横浜支局	支局長

横浜市ゆかりのオリンピック・パラリンピック 代表選手一覧

※所属などの情報は2021年9月7日時点 ※〈 〉内は選手の横浜市ゆかりの地など

東京2020オリンピック

陸上競技／フィールド

江島 雅紀 (荏田高校卒業)

競技成績 男子棒高跳び予選グループA12位

陸上競技／トラック

山縣 亮太 (慶應義塾大学卒業)

競技成績 男子100m予選敗退、男子4×100mリレー途中棄権

陸上競技／トラック

小池 祐貴 (慶應義塾大学卒業)

競技成績 男子100m予選敗退、男子4×100mリレー途中棄権

陸上競技／トラック

泉谷 駿介 (武相高等学校卒業)

競技成績 男子110mハードル準決勝敗退

陸上競技／トラック

木村 文子 (横浜国立大学卒業)

競技成績 女子100mハードル予選敗退

水泳競技／競泳

佐藤 翔馬 (慶應義塾大学在学中)

競技成績 男子200m平泳ぎ準決勝敗退、男子100m平泳ぎ予選敗退

水泳競技／競泳

武良 竜也 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子200m平泳ぎ7位、男子100m平泳ぎ準決勝敗退

水泳競技／競泳

本多 灯 (横浜市瀬谷区出身)

競技成績 男子200mバタフライ銀メダル

水泳競技／競泳

小堀 倭加 (地元スポーツクラブ在籍)

競技成績 女子400m自由形、女子800m自由形ともに予選敗退

水泳競技／競泳

五十嵐 千尋 (横浜市青葉区出身)

競技成績 女子4×100mメドレーリレー8位、女子4×100mリレー、女子4×200mリレーともに予選敗退

水泳競技／マラソンスイミング

南出 大伸 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子13位

水泳競技／飛込

坂井 丞 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子シンクロナイズトダイビング3m飛板飛込5位

水泳競技／飛込

三上 紗也可 (日本体育大学在学中)

競技成績 女子3m飛板飛込16位

水泳競技／水球

足立 聖弥 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

コップ 晴紀イラリオ (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

志賀 光明 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

吉田 拓馬 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

高田 充 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

荒井 陸 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

大川 慶悟 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

荒木 健太 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

福島 丈貴 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

鈴木 透生 (日本体育大学在学中)

競技成績 男子予選ラウンド敗退 (1勝4敗)

水泳競技／水球

三浦 里佳子 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子予選ラウンド敗退 (0勝4敗)

水泳競技／水球

新澤 由貴 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子予選ラウンド敗退 (0勝4敗)

水泳競技／水球

橋田 舞子 (日本体育大学在学中)

競技成績 女子予選ラウンド敗退 (0勝4敗)

水泳競技／水球

工藤 恭子 (日本体育大学在学中)

競技成績 女子予選ラウンド敗退 (0勝4敗)

水泳競技／水球

河口 華子 (日本体育大学在学中)

競技成績 女子予選ラウンド敗退 (0勝4敗)

サッカー

遠藤 航 (横浜市戸塚区出身)

競技成績 男子4位

サッカー

板倉 滉 (横浜市出身)

競技成績 男子4位

サッカー

久保 建英 (地元プロチーム所属(2018年8月~12月))

競技成績 男子4位

サッカー

三好 康児 (地元プロチーム所属(2019年8月~2020年4月))

競技成績 男子4位

サッカー

前田 大然 (地元プロチーム所属(2020年8月~))

競技成績 男子4位

サッカー

池田 咲紀子 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子一次ラウンド1勝1敗1引分、準々決勝敗退

サッカー

宮川 麻都 (横浜市出身)

競技成績 女子一次ラウンド1勝1敗1引分、準々決勝敗退

サッカー

清水 梨紗 (元石川高校卒業)

競技成績 女子一次ラウンド1勝1敗1引分、準々決勝敗退

サッカー

三浦 成美 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子一次ラウンド1勝1敗1引分、準々決勝敗退

ボート

荒川 龍太 (横浜市出身)

競技成績 男子シングルスカル11位

ボクシング

入江 聖奈 (日本体育大学在学中)

競技成績 女子フェザー級(54-57kg)金メダル

バレーボール競技/バレーボール

山本 智大 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド3勝2敗、準々決勝敗退、7位

バレーボール競技/バレーボール

高梨 健太 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド3勝2敗、準々決勝敗退、7位

バレーボール競技/バレーボール

高橋 藍 (日本体育大学在学中)

競技成績 男子予選ラウンド3勝2敗、準々決勝敗退、7位

バレーボール競技/バレーボール

小幡 真子 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子予選ラウンド敗退(1勝4敗)、10位

体操/体操競技

内村 航平 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子種目別鉄棒20位

体操/体操競技

村上 茉愛 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子種目別ゆか銅メダル、女子個人総合、女子団体ともに5位

体操/新体操

杉本 早裕吏 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子団体8位

体操/新体操

鈴木 歩佳 (日本体育大学在学中)

競技成績 女子団体8位

バスケットボール競技/バスケットボール

宮澤 夕貴 (金沢総合高校卒業)

競技成績 女子銀メダル

バスケットボール競技/3×3バスケットボール

篠崎 澪 (金沢総合高校卒業)

競技成績 女子予選ラウンド5勝2敗、準々決勝敗退

レスリング

文田 健一郎 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子グレコローマンスタイル60kg級銀メダル

レスリング

屋比久 翔平 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子グレコローマンスタイル77kg級銅メダル

セーリング

富澤 慎 (横浜市在住)

競技成績 男子RS:X級16位

セーリング

土居 愛実 (横浜市港南区出身)

競技成績 女子レーザーラジアル級15位

セーリング

山崎 アンナ (横浜市鶴見区出身)

競技成績 女子49erFX級18位

セーリング

飯東 潮吹 (横浜市戸塚区出身)

競技成績 混合フォイリングナクラ17級15位

ウエイトリフティング

山本 俊樹 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子96kg級記録なし ※スナッチで168kgの日本新をマーク

ハンドボール

土井 レミイ 杏利 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退(1勝4敗)、11位

ハンドボール

元木 博紀 (日本体育大学卒業)

競技成績 男子予選ラウンド敗退(1勝4敗)、11位

ハンドボール

原 希美 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子予選ラウンド敗退(1勝4敗)、12位

ハンドボール

池原 綾香 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子予選ラウンド敗退(1勝4敗)、12位

自転車競技/トラック

中村 妃智 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子マディソン途中棄権

自転車競技/BMXレーシング

島山 紗英 (日本体育大学在学中)

競技成績 女子24位

卓球

張本 智和 (日本大学高等学校在学中)
競技成績 男子団体銅メダル、男子シングルス9位

フェンシング

ストリーツ 海飛 (横浜市出身)
競技成績 男子サーブル個人30位、団体9位

フェンシング

徳南 堅太 (日本体育大学卒業)
競技成績 男子サーブル団体9位

フェンシング

東 莉央 (日本体育大学卒業)
競技成績 女子フルーレ個人24位、団体6位

フェンシング

東 晟良 (日本体育大学在学中)
競技成績 女子フルーレ個人17位、団体6位

フェンシング

佐藤 希望 (日本体育大学卒業)
競技成績 女子エペ個人16位

バドミントン

遠藤 大由 (日本体育大学卒業)
競技成績 男子ダブルス予選ラウンド3勝0敗、5位

射撃

井川 寛之 (横浜市出身)
競技成績 男子スキート27位

ラグビー／7人制ラグビー

堤 ほの花 (日本体育大学卒業)
競技成績 女子予選ラウンド0勝3敗、12位

ラグビー／7人制ラグビー

平野 優芽 (日本体育大学在学中)
競技成績 女子予選ラウンド0勝3敗、12位

ラグビー／7人制ラグビー

清水 麻有 (日本体育大学大学院在学中)
競技成績 女子予選ラウンド0勝3敗、12位

ラグビー／7人制ラグビー

白子 未柘 (慶應義塾大学卒業)
競技成績 女子予選ラウンド0勝3敗、12位

ラグビー／7人制ラグビー

小出 深冬 (横浜市出身)
競技成績 女子予選ラウンド0勝3敗、12位

ラグビー／7人制ラグビー

松田 凜日 (日本体育大学在学中)
競技成績 女子予選ラウンド0勝3敗、12位

ラグビー／7人制ラグビー

永田 花菜 (日本体育大学在学中)
競技成績 女子予選ラウンド0勝3敗、12位

カーヌー

久保田 愛夏 (日本体育大学卒業)
競技成績 スプリント女子カナディアンペア(C-2)500m14位

アーチェリー

河田 悠希 (日本体育大学卒業)
競技成績 男子団体銅メダル、男子個人33位

アーチェリー

武藤 弘樹 (慶應義塾大学卒業)
競技成績 男子団体銅メダル、混合団体9位、男子個人33位

アーチェリー

早川 漣 (日本体育大学卒業)
競技成績 女子団体5位、女子個人9位

アーチェリー

中村 美樹 (日本体育大学卒業)
競技成績 女子団体5位、女子個人9位

トライアスロン

小田倉 真 (日本体育大学卒業)
競技成績 男子個人19位、混合リレー13位

トライアスロン

岸本 新菜 (日本体育大学卒業)
競技成績 混合リレー13位、女子個人途中棄権

野球・ソフトボール／野球

青柳 晃洋 (横浜市出身)
競技成績 金メダル

野球・ソフトボール／野球

山崎 康晃 (地元プロ球団所属(2015年～))
競技成績 金メダル

野球・ソフトボール／野球

近藤 健介 (横浜高校卒業)
競技成績 金メダル

野球・ソフトボール／ソフトボール

清原 奈侑 (地元実業団チーム所属(2014年～))
競技成績 金メダル

野球・ソフトボール／ソフトボール

峰 幸代 (瀬谷中学校卒業)
競技成績 金メダル

野球・ソフトボール／ソフトボール

山田 恵里 (地元実業団チーム所属(2002年～2020年))
競技成績 金メダル

スポーツクライミング

原田 海 (神奈川大学在籍(2017年～2018年))
競技成績 男子複合18位

東京2020パラリンピック

陸上競技／トラック、マラソン

鈴木 朋樹 (横浜ジュニアチーム出身)

競技成績 混合4×100mユニバーサルリレー銅メダル、
男子1500mT54 (9位)、男子マラソンT54 (7位)、
男子800m T54予選敗退

陸上競技／フィールド、トラック

兎澤 朋美 (日本体育大学卒業)

競技成績 女子走幅跳T63 (4位)、女子100mT63 (8位)

陸上競技／フィールド、トラック

高桑 早生 (慶應義塾大学卒業)

競技成績 女子走幅跳T64 (8位)、女子100m T64予選敗退

陸上競技／トラック

辻 沙絵 (日本体育大学大学院在学中)

競技成績 女子400m T47 (5位)、女子200m T47予選敗退

馬術

稲葉 将 (横浜高校卒業)

競技成績 混合個人グレートⅢ、混合団体ともに15位

5人制サッカー

佐藤 大介 (横浜市職員)

競技成績 男子5位

ゴールボール

欠端 瑛子 (横浜美術大学卒業)

競技成績 女子銅メダル

パワーリフティング

三浦 浩 (横浜市練習拠点)

競技成績 男子49kg級9位

射撃

水田 光夏 (森村学園初等部・中等部卒業)

競技成績 混合R5 10mエアライフル伏射 SH2、32位

水泳／S1～10 クラス

窪田 幸太 (日本体育大学在学中)

競技成績 男子100m背泳ぎ S8 (5位)、男子4×100mメドレーリレー8位、
男子100m自由形 S8予選敗退

水泳／S1～10 クラス

日向 楓 (横浜市出身)

競技成績 男子50mバタフライ S5 (7位)、混合4×50mフリーリレー、
男子50m背泳ぎ S5、男子50m自由形 S5ともに予選敗退

水泳／S1～10 クラス

山田 拓朗 (横浜市練習拠点)

競技成績 男子200m個人メドレー SM9、男子4×100mメドレーリレー
ともに8位、男子100m平泳ぎ SB8、男子50m自由形 S9
ともに予選敗退

水泳／S1～10 クラス

成田 真由美 (地元チーム所属)

競技成績 女子50m背泳ぎ S5 (6位)、女子100m自由形 S5、
混合4×50mフリーリレー、
女子100m平泳ぎ SB4ともに予選敗退

水泳／S11～14 クラス

富田 宇宙 (横浜市在住)

競技成績 男子400m自由形 S11、
男子100mバタフライ S11ともに銀メダル、
男子200m個人メドレー SM11銅メダル、
混合4×100mフリーリレー5位

水泳／S11～14 クラス

芹澤 美希香 (横浜市在住)

競技成績 女子100m平泳ぎ SB14 (7位)、
女子100m背泳ぎ S14予選敗退

水泳／S11～14 クラス

木下 萌実 (横浜市などを拠点に活動するチーム所属)

競技成績 女子100mバタフライ S14 (7位)

卓球

加藤 耕也 (横浜市出身)

競技成績 男子シングルス C11予選敗退

テコンドー

田中 光哉 (横浜市在住)

競技成績 男子61kg級準々決勝敗退

車いすバスケットボール

古澤 拓也 (桐蔭横浜大学卒業)

競技成績 男子銀メダル

車いすバスケットボール

鳥海 連志 (日本体育大学在籍 (2017年～2019年))

競技成績 男子銀メダル

車いすバスケットボール

赤石 竜我 (日本体育大学在学中)

競技成績 男子銀メダル

車いすバスケットボール

高松 義伸 (日本体育大学在学中)

競技成績 男子銀メダル

車いすバスケットボール

藤井 郁美 (横浜市出身)

競技成績 女子6位

車いすラグビー

若山 英史 (地元チーム所属 (2008～2019年))

競技成績 混合銅メダル

主なイベントの概要・協力企業等

開催年月日	イベント・事業名	運営
2017年 9月3日 ～12日	東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー 会場：神奈川県庁本庁舎ほか 引継式来場者数：約500人	主催：東京都、東京2020組織委員会、JOC、JPC 協力：神奈川県、横浜市、藤沢市
2017年 10月28日、 11月4日、 25日	東京2020オリンピック・パラリンピック 1000日前キャンペーン in 横浜 会場：横浜赤レンガ倉庫、横浜国際総合競技場、横浜スタジアム 来場者数：約1,000人	主催：横浜市(第2弾は東京2020組織委員会、第3弾は福島県と連携)
2018年 8月4日	横浜にオリンピックがやってくる! 【Tokyo2020 2Years to Go!】in Yokohama 会場：クイーンズスクエア横浜 来場者数：約3,800人	主催：横浜市 共催：横浜商工会議所、(公財)横浜市体育協会 協力：東京2020組織委員会、パナソニック株式会社、JXTGエネルギー株式会社、 日本電気株式会社、日本航空株式会社
2018年 11月10日	ジャパンウォーク in YOKOHAMA 2018秋 会場：象の鼻パーク(発着地点) 来場者数：約3,500人	主催：ジャパンウォーク2018実行委員会(JXTGエネルギー株式会社、全日本空輸株式会社、 日本電信電話株式会社(NTT)、野村ホールディングス株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、 株式会社みずほフィナンシャルグループ、朝日新聞社) 共催：横浜市
2019年 3月12日	500日前セレモニー in 横浜 会場：横浜国際総合競技場(浜島橋交差点前) 来場者数：約100人	主催：横浜市
2019年 3月16日	500 Days to Go! フェスティバル ～東京2020開催まであと500日!～ 会場：横浜国際総合競技場など新横浜公園一帯 来場者数：約8,900人	主催：横浜市 共催：横浜商工会議所、(公財)横浜市体育協会、(福)横浜市リハビリテーション事業団 協力：東京2020組織委員会、株式会社プリヂェストン、パナソニック株式会社、JXTGエネルギー株式会社、 日本電信電話株式会社、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、東京ガス株式会社、 凸版印刷株式会社、日本航空株式会社、朝日新聞社、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会、 NHK横浜放送局、(一社)横浜サッカー協会、横浜市立岡村小学校
2019年 4月13日 ～6月2日	フラワーフォトスポット ～Welcome to TOKYO2020～ 会場：開港広場公園 写し染め参加者数：約300人	主催：横浜市
2019年 7月13日	1 Year to Go! フェスティバル ～東京2020開催まであと1年!～in 横浜市 会場：横浜スタジアム 来場者数：約9,700人	主催：横浜市 共催：横浜商工会議所、(公財)横浜市体育協会 協力：東京2020組織委員会、コカ・コーラ、株式会社プリヂェストン、パナソニック株式会社、 アサヒビール株式会社、JXTGエネルギー株式会社(ENEOS)、NEC、日本電信電話株式会社(NTT)、 株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社 明治、東京ガス株式会社、凸版印刷株式会社、 三菱電機株式会社、読売新聞社 オリンピック・パラリンピック等経済界協議会、ジャパンウォーク実行委員会(朝日新聞社、NTT)、 NHK横浜放送局
2019年 8月17日	～Tokyo 2020 Paralympic Games 1 Year to Go!～ 1年前記念イベント in 神奈川 会場：横浜赤レンガ倉庫 来場者数：約20,000人	主催：神奈川県・横浜市 協力：東京2020組織委員会、トヨタ自動車株式会社、コカ・コーラ、日本電信電話株式会社(NTT)、 株式会社NTTドコモ、三井住友銀行、綜合警備保障株式会社(ALSOK)、株式会社 明治、東京ガス株式会社
2020年 1月25日	200 Days to Go! フェスティバル in 横浜市 ～東京2020開催まであと200日!～ 会場：ららぽーと横浜 来場者数：約30,000人	主催：横浜市 共催：横浜商工会議所、(公財)横浜市体育協会、三井不動産株式会社 協力：東京2020組織委員会、コカ・コーラ、パナソニック株式会社、JXTGエネルギー株式会社(ENEOS)、 NEC、日本電信電話株式会社(NTT)、三井住友銀行、株式会社 明治、凸版印刷株式会社、 日本郵便株式会社、読売新聞社、毎日新聞社、株式会社AOKIホールディングス

東京2020大会の1年延期が決定 (2020年3月24日)

2020年 7月23日、 8月24日	今、スポーツにできること in 横浜。 for Tokyo2020 会場：オンラインイベント 再生回数：約15,000回	主催：横浜市(特別ライトアップは神奈川県・藤沢市・相模原市と連携) 協力：東京2020組織委員会、横浜市スポーツ協会、日本体育大学、コカ・コーラ、株式会社プリヂェストン、 パナソニック株式会社、ENEOS株式会社、NEC、日本電信電話株式会社(NTT)、 株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社 明治、 東京ガス株式会社、凸版印刷株式会社、日本郵便株式会社、日本航空株式会社、 東日本旅客鉄道株式会社・東京地下鉄株式会社、読売新聞社、毎日新聞社、コクヨ株式会社
2020年 11月15日 ～2021年 1月4日	250 Days to Go! オンラインフェスティバル for Tokyo2020 in 横浜 会場：オンラインイベント 再生回数：約10,400回	主催：横浜市 協力：東京2020組織委員会、横浜市スポーツ協会、横浜ラポール、パナソニック株式会社、 ENEOS株式会社、NEC、日本電信電話株式会社(NTT)、富士通株式会社、 株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社 明治、 株式会社LIXIL、東京ガス株式会社、凸版印刷株式会社、日本郵便株式会社、日本航空株式会社、 三菱電機株式会社、読売新聞社、毎日新聞社、コクヨ株式会社
2021年 4月14日 ～5月16日	100日前キャンペーン in 横浜 会場：市庁舎、横浜スタジアム、横浜国際総合競技場ほか ポスター展来場者数：約3,000人/再生回数：約300回	主催：横浜市(特別ライトアップは神奈川県などと連携)
2021年 6月19日	神奈川県・横浜市ゆかり選手オンライン壮行会 会場：オンラインイベント 再生回数：約4,600回	主催：神奈川県、横浜市
2021年 7月4日	フォトゲイニングで横浜めぐり ～もうすぐ横浜にオリンピックがやってくる!～ 会場：みなとみらい駅(発着地点) 来場者数：約200人	主催：読売新聞社、横浜市、横浜市スポーツ協会
2021年 9月7日～ 12月28日	東京2020大会関連企画展 (報道写真展・特別展・巡回展) 会場：市庁舎ほか 来場者数：約2,600人(巡回展を除く)	主催：横浜市 共催：ニュースパーク(日本新聞博物館) ※報道写真展のみ 協力：ENEOS株式会社、日本生命保険相互会社
2021年 9月26日	神奈川・横浜アスリート感謝会 ～おうちからARIGATOを届けよう!～ 会場：オンラインイベント 再生回数：約12,000回	主催：神奈川県、横浜市

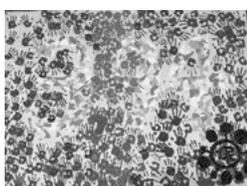
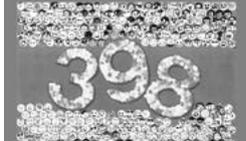
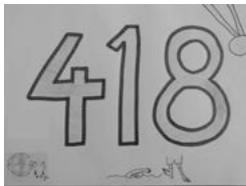
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業 オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

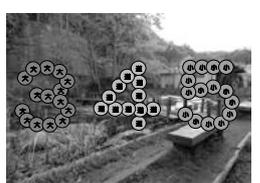
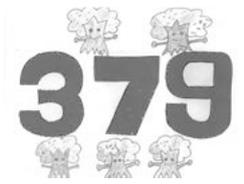
区	学校名(2018年度)		学校名(2019年度)		学校名(2020年度)		学校名(2021年度)		学校数	
鶴見					下野谷小学校		下野谷小学校、潮田小学校		小	2
	市場中学校		市場中学校、末吉中学校		市場中学校、末吉中学校				中	2
神奈川	神奈川小学校、 白幡小学校		神奈川小学校、 白幡小学校、二谷小学校		神奈川小学校		神奈川小学校		小	3
			松本中学校						中	1
西	一本松小学校		一本松小学校、 宮谷小学校		一本松小学校、 宮谷小学校、平沼小学校		一本松小学校、 宮谷小学校		小	3
中	本町小学校		本町小学校、元街小学校		元街小学校		元街小学校		小	2
	大鳥中学校								中	1
南					南吉田小学校		南吉田小学校		小	1
	横浜商業高等学校		横浜商業高等学校		横浜商業高等学校		横浜商業高等学校		高	1
港南			芹が谷南小学校、 下野庭小学校		芹が谷南小学校、 下野庭小学校		芹が谷南小学校、 下野庭小学校、 桜岡小学校		小	3
	日野中央高等特別支援学校								特支	1
保土ヶ谷					上菅田特別支援学校		上菅田特別支援学校		特支	1
旭			さちが丘小学校		さちが丘小学校、 万騎が原小学校、 鶴ヶ峯小学校		さちが丘小学校、 万騎が原小学校、 善部小学校		小	4
			若葉台特別支援学校						特支	1
磯子	岡村小学校		岡村小学校		岡村小学校、 さわの里小学校		岡村小学校		小	2
	汐見台中学校								中	1
金沢	能見台小学校、 富岡小学校						釜利谷南小学校		小	3
			金沢中学校				金沢中学校		中	1
港北	城郷小学校、 大首根小学校		城郷小学校、 新吉田小学校、 菊名小学校、駒林小学校		城郷小学校、 新吉田小学校、 菊名小学校		城郷小学校、 新吉田小学校、 菊名小学校		小	5
緑			鴨居小学校		鴨居小学校		鴨居小学校		小	1
青葉	鴨志田緑小学校		鴨志田緑小学校、 嶮山小学校		美しが丘東小学校		あざみ野第二小学校		小	4
					山内中学校				中	1
都筑			北山田小学校、 東山田小学校		北山田小学校、 東山田小学校、 牛久保小学校		北山田小学校、 東山田小学校、 牛久保小学校		小	3
戸塚			大正小学校		大正小学校		大正小学校		小	1
栄			豊田小学校、公田小学校		豊田小学校、公田小学校		豊田小学校		小	2
泉			葛野小学校		葛野小学校		葛野小学校、中田小学校		小	2
瀬谷	東野中学校								中	1
学校数	小学校	10	小学校	24	小学校	26	小学校	27	小	41
	中学校	4	中学校	4	中学校	3	中学校	1	中	8
	高等学校	1	高等学校	1	高等学校	1	高等学校	1	高	1
	特別支援学校	1	特別支援学校	1	特別支援学校	1	特別支援学校	1	特支	3
	合計	16	合計	30	合計	31	合計	30	合計	53

横浜市立学校カウントダウンリレー 全作品

2019年3月から東京2020オリンピックが開幕するまで、横浜市立学校の全510校が協力して、1校ずつカウントダウンを実施。大会延期に伴う中断を挟んだものの開幕までの時を刻み続け、各校の個性あふれる作品が、東京2020大会横浜市ウェブサイトのトップを飾った。

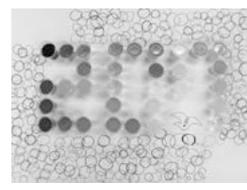
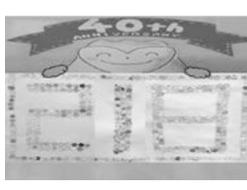


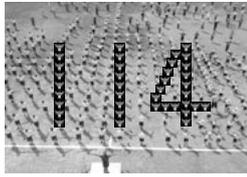
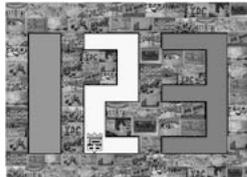


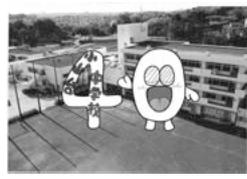


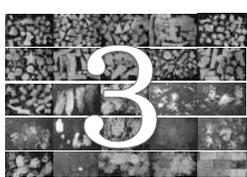












- 509~488：小学校(鶴見区) 旭/市場/入船/潮田/上末吉/上寺尾/岸谷/駒岡/汐入/獅子ヶ谷/下野谷/下末吉/新鶴見/末吉/鶴見/寺尾/豊岡/生麦/馬場/東台/平安/矢向
- 487~469：小学校(神奈川区) 青木/池上/浦島/大口台/神奈川/神橋/神大寺/幸ヶ谷/子安/斎藤分/白幡/菅田/中丸/西寺尾/西寺尾第二/羽沢/二谷/三ツ沢/南神大寺
- 468~460：小学校(西区) 東/一本松/稲荷台/浅間台/戸部/西前/平沼/宮谷/みなとみらい本町
- 459~451：小学校(中区) 大鳥/北方/立野/本町/本牧/本牧南/間門/元街/山元
- 450~434：小学校(南区) 石川/井土ヶ谷/大岡/太田/永田/永田台/中村/日枝/藤の木/別所/蒔田/南/南太田/南吉田/六つ川/六つ川台/六つ川西
- 433~413：小学校(港南区) 上大岡/港南台第一/港南台第二/港南台第三/小坪/桜岡/下永谷/下野庭/芹が谷/芹が谷南/相武山/永野/永谷/野庭すずかけ/日限山/日下/日野/日野南/丸山台/南台/吉原
- 412~393：開幕：小学校(保土ヶ谷区) 新井/今井/岩崎/帷子/上菅田/上星川/川島/榎太坂/坂本/桜台/笹山/瀬戸ヶ谷/常盤台/初音が丘/藤塚/富士見台/仏向/星川/保土ヶ谷/峯/新井小学校桜坂分校
- 392~369：小学校(旭区) 市沢/今宿/今宿南/上川井/上白根/川井/希望ヶ丘/左近山/笹野台/さちが丘/四季の森/白根/善部/都岡/鶴ヶ峯/中尾/中沢/東希望ヶ丘/二俣川/不動丸/本宿/万騎が原/南本宿/若葉台
- 368~353：小学校(磯子区) 磯子/岡村/さわの里/山王台/汐見台/杉田/滝頭/根岸/梅村/浜/屏風浦/森東/洋光台第一/洋光台第二/洋光台第三/洋光台第四
- 352~332：小学校(金沢区) 朝比奈/金沢/釜利谷/釜利谷東/釜利谷南/小田/瀬ヶ崎/大道/高舟台/富岡/並木第一/並木第四/並木中央/西柴/西富岡/能見台/能見台南/八景/文庫/六浦/六浦南
- 331~307・14：小学校(港北区) 大曾根/大綱/菊名/北綱島/港北/小机/駒林/篠原/篠原西/下田/城郷/新吉田/新吉田第二/高田/高田東/綱島/綱島東/新田/新羽/日吉台/日吉南/太尾/大豆戸/師岡/矢上/箕輪
- 306~292：小学校(緑区) いぶき野/上山/鴨居/竹山/十日市場/長津田/長津田第二/中山/新治/東本郷/緑/三保/森の台/山下/山下みどり台
- 291~261：小学校(青葉区) 青葉台/あざみ野第一/あざみ野第二/市ヶ尾/美しが丘/美しが丘西/美しが丘東/在子田/在田西/櫻が丘/恩田/桂/鴨志田第一/鴨志田緑/鉄/黒須田/嶮山/さつきが丘/新石川/すすき野/田奈/つつじが丘/奈良/奈本の丘/東市ヶ尾/藤が丘/みたけ台/もえぎ野/元石川/山内/谷本
- 260~239：小学校(都筑区) 牛久保/荏田/荏田東第一/荏田南/折本/勝田/川和/川和東/北山田/すみれが丘/茅ヶ崎/茅ヶ崎台/茅ヶ崎東/都田/都田西/都筑/つつきの丘/中川/中川西/東山田/南山田/山田
- 238~212：小学校(戸塚区) 秋葉/柏尾/上矢部/川上/川上北/汲沢/倉田/小雀/境木/品濃/下郷/大正/戸塚/鳥が丘/名瀬/東汲沢/東品濃/東戸塚/東俣野/平戸/平戸台/深谷/舞岡/南戸塚/南舞岡/矢部/横浜深谷台

- 211~198：小学校(栄区) 飯島/笠間/桂台/上郷/公田/小菅ヶ谷/小山台/桜井/庄戸/千秀/豊田/西本郷/本郷/本郷台
- 197~182：小学校(泉区) 飯田北いちょう/和泉/いずみ野/伊勢山/岡津/上飯田/葛野/下和泉/新橋/中田/中和田/中和田南/西が岡/東中田/緑園西/緑園東
- 181~171：小学校(瀬谷区) 相沢/阿久和/上瀬谷/瀬谷/瀬谷さくら/瀬谷第二/大門/原/二つ橋/三ツ境/南瀬谷
- 170~161：中学校(鶴見区) 市場/潮田/上の宮/寛政/横浜サイエンスフロンティア高等学校附属/末吉/鶴見/寺尾/生麦/矢向
- 160~154：中学校(神奈川区) 浦島丘/神奈川/栗田谷/菅田/錦台/松本/六角橋
- 153~150：中学校(西区) 老松/岡野/軽井沢/西
- 149~145：中学校(中区) 大鳥/仲尾台/本牧/港/横浜吉田
- 144~137：中学校(南区) 共進/永田/藤の木/平楽/蒔田/南/南が丘/六ツ川
- 136~126：中学校(港南区) 上永谷/港南/港南台第一/笹下/芹が谷/野庭/東永谷/日限山/日野南/丸山台/南高等学校附属
- 125~118：開幕：中学校(保土ヶ谷区) 新井/岩井原/岩崎/上菅田/橋/西谷/保土ヶ谷/宮田/新井中学校桜坂分校
- 117~106：中学校(旭区) 旭/旭北/今宿/上白根/希望ヶ丘/左近山/都岡/鶴ヶ峯/本宿/万騎が原/南希望ヶ丘/若葉台
- 105~99：中学校(磯子区) 岡村/汐見台/根岸/浜/森/洋光台第一/洋光台第二
- 98~90：中学校(金沢区) 金沢/釜利谷/小田/大道/富岡/富岡東/並木/西柴/六浦
- 89~81：中学校(港北区) 大綱/篠原/城郷/高田/樽町/新田/新羽/日吉台/日吉台西
- 80~76：中学校(緑区) 鴨居/田奈/十日市場/中山/東鴨居
- 75~63：中学校(青葉区) 青葉台/あかね台/あざみ野/市ヶ尾/美しが丘/鴨志田/すすき野/奈良/みたけ台/緑が丘/もえぎ野/山内/谷本
- 62~55：中学校(都筑区) 荏田南/川和/茅ヶ崎/都田/中川/中川西/早瀬/東山田
- 54~44：中学校(戸塚区) 秋葉/汲沢/境木/大正/豊田/戸塚/名瀬/平戸/深谷/舞岡/南戸塚
- 43~38：中学校(栄区) 飯島/桂台/上郷/小山台/西本郷/本郷
- 37~31：中学校(泉区) 泉が丘/いずみ野/岡津/上飯田/中田/中和田/領家
- 30~26：中学校(瀬谷区) 東野/下瀬谷/瀬谷/原/南瀬谷
- 25~24：義務教育学校 西金沢/霧が丘
- 23~15：高等学校 戸塚/桜丘/金沢/南/東/横浜商業/みなと総合/横浜サイエンスフロンティア/横浜総合
- 13~1：特別支援学校 首/浦舟/中村/港南台ひの/日野中央高等/上菅田/ろう/北綱島/若葉台/東俣野/本郷/二つ橋高等/左近山

東京2020 オリンピック・パラリンピック 横浜市記録集

City of Yokohama Records of
the Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020

発行	令和4年3月
発行者	横浜市 市民局 スポーツ統括室 オリンピック・パラリンピック推進部 オリンピック・パラリンピック推進課
住所	横浜市中区本町6丁目50番地の10
電話番号	045-671-3287
ファクス番号	045-664-0669
Eメール	sh-sports@city.yokohama.jp
ウェブサイト	https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/